

平成 29 年 度

社会調査実習報告書

第 6 号

淑徳大学

コミュニティ政策学部

はしがき

本報告書は、淑徳大学コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科の「社会調査実習」を履修した学生の調査研究の成果である。

コミュニティ政策学科では、専門科目（社会学分野）の教育目標に「社会事象や社会に関連する諸事実を明らかにするために、データの収集から分析にいたるまでの基礎的な事柄を理論と方法の両面から理解する」ことを据え、コミュニティ研究の方法の1つである社会調査を学生が体系的に学習するためのカリキュラムを組んでいる。1年次前期に「社会調査論」、1年次後期に「社会調査法」、2・3年前期に「統計解析法」と「社会統計学」、2・3年後期に「量的解析法」を履修する。これらの計5科目の単位を修得済みであることが、3・4年前期開講の「社会調査実習」の履修条件となっている。

「社会調査実習」は、それまでの各社会調査関連科目での学びの集大成として、研究テーマの設定から、テーマに関わる仮説および分析方法の検討、調査票の作成、実査、データの集計と解析、そして報告書による成果の公表という社会調査の一連の過程に、学生が主体となって取り組むものである。

平成29年度の科目担当教員は青柳涼子と本多敏明、社会調査助手は小松仁美であり、履修学生は6名であった。6名の履修生はすでに（一社）社会調査協会の「社会調査士資格（見込み）」の認定を得ており、この「社会調査実習」の単位修得をもって「社会調査士資格」取得に必要な科目をすべて履修済みとなる。

さて、昨年度の履修生たちは、住民の「地域愛着」や「地域満足度」を規定する要因の探索を主な目的に千葉市緑区おゆみ野地域で調査票調査を実施した。その成果は、2017年3月『平成28年度 社会調査実習報告書 第5号』として刊行されている。今回の調査は、その調査を一部継承し、同地域別町丁目で実施したものである（詳細は第1章を参照）。前年度の調査票をベースにしながら、改めて学生一人一人が自らの問題関心に基づき、仮説を立てて質問項目を作り、調査票のなかに組み入れた。

本報告書の各章は、第10章を除けば、いずれの章も今年度調査で得られたデータのみを用いた分析の結果をまとめたものである。したがって、前年度調査との比較検討作業等は、現段階では未着手の状態である。とはいえ、このように、ちょうど1年の実施時期のズレはあるものの、近接した地域に同じテーマで調査を実施できたことは、この地域をより深く理解するための有益な資料となるだろう。

調査の実施にあたっては、大変多くの方々にご協力いただいた。とりわけ、前年度の調査報告会および今年度の調査企画の検討会にご参加いただいた地域住民の皆さまには心より感謝を申し上げたい。

淑徳大学コミュニティ政策学部

准教授 青柳涼子

准教授 本多敏明

目 次

はしがき	青柳涼子	i
第1章 調査および調査地に関する概要上野絵里加・郡司朋哉・壽原敦志・藤田拓也・松村歩夢・丸本綾太郎		1
第2章 調査対象者の特性および地域愛着・地域活動の参加に関する基礎的分析	小松仁美	6
第3章 地域愛着に影響する要因——地域活動による獲得度・やりがいとの関連	丸本綾太郎	16
第4章 地域愛着・地域生活満足度に影響する要因——地域活動・近隣関係との関連	上野絵里加	24
第5章 地域生活満足度に影響する要因——居住年数と近隣関係との関連	藤田拓也	32
第6章 地域生活満足度に影響する要因——地域の公共交通網の利用との関連	壽原敦志	37
第7章 近隣関係と災害不安との関連	郡司朋哉	47
第8章 情報機器に対する意識と災害不安との関連	松村歩夢	57
第9章 自治会（町内会）・管理組合に加入していない住民	小松仁美	66
第10章 公園・遊歩道の利用と地域愛着の関連——2地域のデータを用いて	青柳涼子	75
あとがき	小松仁美	83
付録		
基礎集計表		85
調査票		109

第1章 調査および調査地に関する概要

上野絵里加・郡司朋哉・壽原敦志

藤田拓也・松村歩夢・丸本綾太郎

1. 1. 調査概要

1. 1. 1 調査目的と調査名称

本調査は、昨年度（2016年度）に引き続き、地域社会の資源の活用状況や地域活動への参加状況、地域に対する愛着評価を尋ね、人々の地域愛着や地域満足度はいかなる要因から形成されているかを明らかにすることを目的としている。今回は、昨年度に実施した地域の別町丁目で、情報機器の利用に関する項目や災害時の不安に関する項目を新たに追加した調査を行った。

調査名称は「地域生活に対する住民意識アンケート」である。

1. 1. 2 調査主体と調査対象

調査主体：淑徳大学コミュニティ政策学部 2017年度「社会調査実習」受講生

上野絵里加・郡司朋哉・壽原敦志

藤田拓也・松村歩夢・丸本綾太郎

調査責任者 淑徳大学 准教授 青柳涼子

准教授 本多敏明

調査助手 小松仁美

調査対象：千葉県千葉市緑区おゆみ野地域在住の20～79歳の男女。

調査対象町丁目：おゆみ野南5丁目

※2017年5月時点の人口と世帯数

おゆみ野南5丁目 人口 3,158、世帯数 1,143

1. 1. 3 調査方法と調査時期

調査方法：調査対象地域への全戸配布（日本郵便のタウンプラスを利用）。

世帯内での回答者の抽出方法は、バースデー法を採用。

調査票は、郵送にて回収した。

調査時期：2017年6月29日から配布を開始し、7月31日到着分までを分析対象とした。

1. 1. 4 有効回収票数

有効回収票数は、317票である。回収率は29.7%である。

1. 1. 5 調査項目

おゆみ野地域にある公園の利用頻度について尋ねる項目（問1）

おゆみ野地域にある遊歩道の利用頻度について尋ねる項目（問 2）
自家用車の利用頻度について尋ねる項目（問 3）
おゆみ野地域を運行する路線バスの利用頻度について尋ねる項目（問 4）
最も利用する駅について尋ねる項目（問 5）
おゆみ野地域の地域活動について尋ねる項目（問 6）
近隣に頼れる人がいるかについて尋ねる項目（問 7）
大きな自然災害が起こった場合に感じる不安の程度について尋ねる項目（問 8）
住んでいる地域への愛着の程度を尋ねる項目（問 9）
性別（問 10）
年齢（問 11）
配偶関係（問 12）
家族構成（問 13）
小学生以下の子どもの有無（問 14）
住宅の種類（問 15）
住んでいる地域の自治会・管理組合について（問 16）
居住年数（問 17）
住んでいる地域への満足の程度を尋ねる項目（問 18）
職業（問 19）
学歴（問 20）
子どもの情報機器を利用／所有の適切な開始時期について尋ねる項目（問 21）
コンピュータに対する意識について尋ねる項目（問 22）

1. 2 調査地概要

1. 2. 1 調査地の地理的位置

本節では、まず、前回に引き続き調査地となった千葉市緑区おゆみ野地域の地理的位置とまちづくりについての概観を述べ、次に、おゆみ野地域内における前回の調査地「おゆみ野中央」と今回の調査地「おゆみ野南」についてそれぞれの地理的位置を簡略に述べる。

おゆみ野の地理的位置と歴史の詳細は、前回調査の報告書『平成 28 年度 社会調査実習報告書 第 5 号』、第 1 章 1. 2. 1 に示されている。都市基盤整備公団『おゆみ野のまちづくり（City & City おゆみ野）』によれば、おゆみ野は千葉市中心から約 10 km に位置し、幕張新都心・かずさアカデミアパーク・成田空港を結ぶ千葉新産業三角構想エリア内にある。大都市郊外の街なみの無秩序な拡大等を解決するべく、計画的なまち建設を目標に、千葉市緑区の中心拠点として開発が始まった。

おゆみ野の開発は、①自然景観を活かしたまちづくり、②「住む」「働く」「学ぶ」「憩う」など多くの機能が調和したまちづくり、③歩行者および自動車が円滑かつ安全に通行でき

る利便性の高いまちづくりの３点をコンセプトに行われた。

おゆみ野は磯辺茂呂町線道路がほぼ中央を貫き、南を弧にややいびつな半円形をしている。おおよそ塩田町菅田町線道路と浜野町大金沢線道路とによって、北から順に「おゆみ野」、「おゆみ野中央」および「おゆみ野南」に大きく３つに区分される。「おゆみ野」にはＪＲ線の鎌取駅が、「おゆみ野中央」には京成線の学園前駅が、「おゆみ野南」には京成線のおゆみ野駅が存在する。

１．２．２ 調査地の人口統計

表１－１は、２００５年から２０１７年の約１０年間における千葉市、千葉市緑区、千葉市緑区おゆみ野地域、今回の調査対象地域の人口の変化をあらわしている。なお、ここでは、「おゆみ野地域」をおゆみ野１～６丁目、おゆみ野有吉、おゆみ野中央１～９丁目、おゆみ野南１～６丁目の範囲で捉えており、住民基本台帳の集計結果（各年とも３月末日統計）を用いている。

表１－１ 千葉市・千葉市緑区・おゆみ野地域・調査対象地域の人口（２００５～２０１７年）

	千葉市	緑区	おゆみ野	調査対象地域
２００５年（平成１７年）	９１７，５２１	１１２，２２８	３８，５９５	２，４０８
２０１０年（平成２２年）	９５５，０２２	１２１，０７６	４５，１３０	２，６２３
２０１５年（平成２７年）	９６２，５５４	１２６，７２６	４８，３０２	３，２０４
２０１７年（平成２９年）	９６６，１５４	１２８，２０５	４８，７６４	３，１６４

調査対象地域の人口は３，１６４人（男性１，５５１人、女性１，６１３人）で、２００５年から７５６人増加している。

次に、調査対象地域の特徴を理解するために、人口規模の変化についておゆみ野地域内の他の町と比較してみよう（表１－２）。

表１－２ おゆみ野地域と調査対象地域の人口（２００５～２０１７年）

	おゆみ野	おゆみ野中央	おゆみ野南	調査対象地域
２００５年（平成１７年）	１５，４４４	１３，８２２	９，３２９	２，４０８
２０１０年（平成２２年）	１５，８７６	１５，１８３	１２，７９５	２，６２３
２０１５年（平成２７年）	１６，３９９	１６，８７３	１５，０２１	３，２０４
２０１７年（平成２９年）	１６，３８５	１７，１０５	１５，２７４	３，１６４

２００５年から２０１７年の人口規模の変化をみると、おゆみ野１～６丁目を含む「おゆみ野」では９４１人の増加、おゆみ野有吉とおゆみ野中央１～９丁目を含む「おゆみ野中央」では３，２８３人の増加、おゆみ野南１～６丁目を含む「おゆみ野南」では５，９４５人の増加が確認されている。前述のとおり、調査対象地域では７５６人の増加が確認されている。

調査対象地域が含まれている「おゆみ野南」は「おゆみ野地域」の中でも比較的新しく

開発された地域である。そのため、他の地域よりも人口の増加が目立つのであろう。

表 1-3 は、調査対象地域の世帯数の変化を、おゆみ野地域内の他の町や千葉市全体、緑区の動向と比較した結果である。

表 1-3 千葉市緑区・おゆみ野地域・調査対象地域の世帯数（2005～2017 年）

	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2017年 (平成29年)
千葉市	383,243	416,834	435,971	446,363
緑区	41,022	46,282	50,876	52,688
おゆみ野	5,735	6,142	6,763	6,991
おゆみ野中央	4,702	5,842	6,284	6,476
おゆみ野南	3,208	4,355	5,188	5,340
(調査対象地域)	815	916	1,141	1,146

表 1-4 は、2017 年時点の千葉市、千葉市緑区、おゆみ野地域、調査対象地域の年齢別人口とその構成比をあらわしている。

表 1-4 千葉市・千葉市緑区・おゆみ野地域・調査対象地域の年齢別人口と構成比（2017 年）

	0～14歳	15～64歳	65歳以上
千葉市	122,433 (12.7%)	601,272 (62.2%)	242,449 (25.1%)
緑区	19,391 (15.1%)	81,884 (63.9%)	26,930 (21.0%)
おゆみ野	2,531 (15.4%)	11,594 (70.8%)	2,260 (13.8%)
おゆみ野中央	3,054 (17.9%)	11,614 (67.9%)	2,437 (14.2%)
おゆみ野南	3,460 (22.7%)	10,514 (68.8%)	1,300 (8.5%)
(調査対象地域)	632 (20.0%)	2,213 (69.9%)	319 (10.1%)

総務省の「人口推計」によると、2016 年 10 月 1 日時点の全国データでは 0～14 歳の人口に比率は 12.4%、15～64 歳人口の比率は 60.3%、65 歳以上人口に比率は 27.3%である。したがって、千葉市の年齢構成はほぼ全国と同様であり、千葉市緑区は若干、若年層が多く高齢層が少ない地域であることがわかる。

一方、おゆみ野地域について千葉市と比較してみると、「おゆみ野」は、0～14 歳人口が約 3 ポイント、15～64 歳人口は約 9 ポイント程度上回っている代わりに、65 歳以上人口は約 11 ポイント低い。「おゆみ野中央」は、0～14 歳人口が約 5 ポイント、15～64 歳人口が約 5 ポイント上回っている代わりに、65 歳以上の人口の比率が約 11 ポイント低い。調査対象地域を含む「おゆみ野南」は 0～14 歳の比率が千葉市と比較して 10 ポイント高く、65 歳以上の比率が千葉市と比較して約 17 ポイント低い。

このような全体的傾向に対して、「おゆみ野南」に含まれる調査対象地域は、千葉市や緑区と比較して 0～14 歳の割合が高く、65 歳以上の割合が低いことから若年層が多いという特徴がある。

表 1-5 調査対象地域における年齢別人口と構成比（2005～2017 年）

	0～14歳	15～64歳	65歳以上
2005年（平成17年）	639（26.5%）	1,655（68.7%）	114（4.7%）
2010年（平成22年）	591（22.5%）	1,853（70.6%）	179（6.8%）
2015年（平成27年）	676（21.1%）	2,246（70.1%）	282（8.8%）
2017年（平成29年）	632（20.0%）	2,213（69.9%）	319（10.1%）

表 1-5 は、調査対象地域の年齢別人口とその構成比の変化を示している。0～14 歳人口は隔年で減少と増加を繰り返しており、構成比は、2005 年から 2017 年にかけて、6.5 ポイント低下している。15～64 歳の生産年齢人口は 2005 年から 2017 年にかけて増加しているが、構成比はほぼ横ばいで 70%前後である。65 歳以上の高齢者人口は 2005 年から 3 倍近くに増加している。65 歳以上の高齢者人口の割合、すなわち高齢化率は、2005 年から 2017 年にかけて上昇している。2005 年には 5 %に満たなかったが、その後、5 ポイントほど上昇し、2017 年には 1 割を占めるようになっている。

第2章 調査対象者の特性および地域愛着・地域活動の参加に関する基礎的分析

小松 仁美

本章では統計的分析に先立ち、調査対象者の特性を明らかにする。それとともに、本調査の主要な変数である「地域への愛着」および「地域活動への参加」に関する基礎的分析を行う。

2. 1 調査対象者の属性

まず本調査の対象者について、以下の表2-1から表2-5にあらわす。

表2-1 性別

	男	女	計	
全体	37.8%	62.2%	100.0%	312人

表2-1は調査対象者の性別の割合である。男性が37.8%、女性が62.2%となり、女性のほうが多かった。

表2-2 年齢

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	計	
全体	8.3%	14.1%	31.0%	21.1%	12.8%	12.8%	100.0%	313人

表2-2は年齢の割合である。20～29歳が8.3%、30～39歳が14.1%、40～49歳が31.0%、50～59歳が21.1%、60～69歳が12.8%、70～79歳が12.8%となり、最も高い割合は40代となり、次いで50代であった。

表2-3 配偶関係

	未婚	既婚（現在、 配偶者がいる）	既婚の経験あり （離・死別）	計	
全体	13.4%	76.4%	10.2%	100.0%	313人

表2-3は配偶関係をあらわしたものである。未婚が13.4%、現在配偶者がいる既婚者は76.4%、現在配偶者と離・死別している既婚経験者は10.2%となり、既婚者・既婚経験者の割合が8割以上となった。

表 2-4 家族構成

	一人暮らし	夫婦のみ	夫婦と 未婚の子ども (ひとり親を含む)	その他	計	
全体	13.5%	22.3%	57.1%	7.1%	100.0%	310人

表 2-4 は家族構成をあらわしたものである。一人暮らしが 13.5%、夫婦のみが 22.3%、夫婦と未婚の子ども（ひとり親を含む）が 57.1%、その他が 7.1% となり、夫婦と未婚の子どもを持つ世帯が過半数を占め、割合が最も高かった。

表 2-5 職業分類

	経営者 役員	常時雇用され ている会社員 ・団体職員 ・公務員	派遣社員 契約社員 嘱託社員	パート・ アルバイト	自営業主 (家族従業 者を含む) 自由業者	専業主婦	年金生活	学生	その他	計
全体	1.6%	36.5%	7.1%	17.9%	4.2%	11.9%	16.0%	3.2%	1.6%	100.0% 312人

表 2-5 は職業分類である。経営者・役員が 1.6%、常時雇用されている会社員等が 36.5%、派遣・契約・嘱託社員が 7.1%、パート・アルバイトが 17.9%、自営業者・自由業者が 4.2%、専業主婦が 11.9%、年金生活者が 16.0%、学生が 3.2%、その他が 1.6% となり、常時雇用されている会社員等が最も高い割合で、次いでパート・アルバイトと年金生活者とが同程度の割合で高かった。

2. 2 男女別、世代別にみた「地域への愛着」の検討

本調査は主として、おゆみ野地区における地域社会の資源の活用状況や地域活動への参加状況等と地域への愛着・地域満足度との関連を検討するものであった。そこで、詳細な分析に入る前に地域への愛着の結果を概観する。

本調査では、地域への愛着を尋ねる項目として以下の a) から k) の 11 項目を設定した。これについて調査対象者は「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」および「あてはまらない」までの 4 件法で回答した。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| a) このまちではリラックスできる | g) このまちが好きだ |
| b) 雰囲気や土地柄が気に入っている | h) まちに思い出がある |
| c) このまちを歩くのは気持ちよい | i) まちに自分の居場所がある |
| d) お気に入りの場所がある | j) このまちは住みやすい |
| e) 近所に友達や知り合いがいる | k) このまちにずっと住みたい |
| f) 自分のまちという感じがする | |

表2-6は男女別にみた地域への愛着のクロス集計表である。

表2-6 男女別にみた「地域への愛着」

a)このまちではリラックスできる

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p値	
男性	(n=118)	45.8%	48.3%	5.1%	0.8%	1.15	0.764	n.s.
女性	(n=191)	41.4%	53.9%	3.7%	1.0%			

b)雰囲気や土地柄が気に入っている

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p値	
男性	(n=118)	49.2%	44.1%	4.2%	2.5%	3.38	0.337	n.s.
女性	(n=192)	42.2%	49.5%	7.3%	1.0%			

c)このまちを歩くのは気持ちよい

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p値	
男性	(n=118)	52.5%	42.4%	4.2%	0.8%	0.79	0.852	n.s.
女性	(n=193)	51.3%	45.1%	2.6%	1.0%			

d)お気に入りの場所がある

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p値	
男性	(n=118)	31.4%	39.0%	21.2%	8.5%	2.82	0.420	n.s.
女性	(n=192)	27.6%	42.2%	25.5%	4.7%			

e)近所に友達や知り合いがいる

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p値	
男性	(n=118)	20.3%	36.4%	22.0%	21.2%	18.97	0.000	***
女性	(n=191)	37.2%	41.4%	9.9%	11.5%			

f)自分のまちという感じがする

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p値	
男性	(n=118)	27.1%	42.4%	23.7%	6.8%	0.12	1.000	n.s.
女性	(n=193)	26.6%	42.7%	24.0%	6.8%			

g)このまちが好きだ

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p値	
男性	(n=118)	40.7%	46.6%	8.5%	4.2%	0.76	0.858	n.s.
女性	(n=192)	38.5%	51.0%	7.3%	3.1%			

h)まちに思い出がある

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p値	
男性	(n=118)	19.5%	38.1%	28.0%	14.4%	1.10	0.776	n.s.
女性	(n=191)	24.6%	36.1%	26.2%	13.1%			

i) まちに自分の居場所がある

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=118)	22.9%	34.7%	34.7%	7.6%	8.23	0.042	*
女性	(n=192)	27.6%	45.3%	20.8%	6.3%			

j) このまちは住みやすい

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=118)	45.8%	48.3%	4.2%	1.7%	0.22	0.975	n.s.
女性	(n=194)	46.9%	46.4%	5.2%	1.5%			

k) このまちにずっと住みたい

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=118)	37.3%	43.2%	15.3%	4.2%	0.03	0.998	n.s.
女性	(n=192)	36.5%	44.3%	15.1%	4.2%			

***: $p < 0.001$ *: $p < 0.05$

「地域への愛着」を男女別にクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果、「近所に友達や知り合いがいる」($p < 0.001$)と「まちに自分の居場所がある」($p < 0.05$)の2項目において有意差が見られた。いずれも、男性よりも女性のほうが「あてはまる」と回答する傾向にあった。

続いて表2-7は「地域への愛着」を年代別に検討したものである。なお、サンプル数の都合から20歳刻みとした。

表2-7 世代別にみた「地域への愛着」

a) このまちではリラックスできる

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	50.0%	41.4%	8.6%	0.0%	11.96	0.063	—
40・50代	(n=163)	36.8%	58.9%	3.1%	1.2%			
60・70代	(n= 77)	50.6%	45.5%	2.6%	1.3%			

b) 雰囲気や土地柄が気に入っている

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	54.3%	35.7%	10.0%	0.0%	9.58	0.144	n.s.
40・50代	(n=163)	39.9%	52.8%	4.9%	2.5%			
60・70代	(n= 78)	47.4%	46.2%	5.1%	1.3%			

c) このまちを歩くのは気持ちよい

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	54.3%	38.6%	5.7%	1.4%	6.60	0.359	n.s.
40・50代	(n=163)	47.2%	48.5%	3.1%	1.2%			
60・70代	(n= 79)	59.5%	39.2%	1.3%	0.0%			

d)お気に入りの場所がある

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	31.4%	35.7%	27.1%	5.7%	14.51	0.024	*
40・50代	(n=163)	22.1%	42.9%	27.6%	7.4%			
60・70代	(n= 78)	42.3%	41.0%	12.8%	3.8%			

e)近所に友達や知り合いがいる

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	38.6%	34.3%	12.9%	14.3%	3.83	0.699	n.s.
40・50代	(n=163)	30.7%	39.9%	15.3%	14.1%			
60・70代	(n= 77)	24.7%	42.9%	14.3%	18.2%			

f)自分のまちという感じがする

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	32.9%	28.6%	28.6%	10.0%	9.27	0.159	n.s.
40・50代	(n=163)	22.7%	47.9%	23.3%	6.1%			
60・70代	(n= 78)	30.8%	43.6%	20.5%	5.1%			

g)このまちが好きだ

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	48.6%	35.7%	10.0%	5.7%	11.72	0.068	†
40・50代	(n=163)	32.5%	57.7%	6.7%	3.1%			
60・70代	(n= 78)	46.2%	43.6%	7.7%	2.6%			

h)まちに思い出がある

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	28.6%	27.1%	25.7%	18.6%	6.79	0.341	n.s.
40・50代	(n=162)	22.2%	38.9%	28.4%	10.5%			
60・70代	(n= 78)	19.2%	41.0%	24.4%	15.4%			

i)まちに自分の居場所がある

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	31.4%	31.4%	25.7%	11.4%	9.98	0.126	n.s.
40・50代	(n=163)	22.1%	42.3%	29.4%	6.1%			
60・70代	(n= 78)	29.5%	47.4%	19.2%	3.8%			

j)このまちは住みやすい

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	54.3%	35.7%	8.6%	1.4%	12.77	0.047	—
40・50代	(n=163)	39.9%	55.8%	3.1%	1.2%			
60・70代	(n= 80)	53.8%	38.8%	5.0%	2.5%			

k)このまちにずっと住みたい

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
20・30代 (n= 70)	34.3%	44.3%	14.3%	7.1%			
40・50代 (n=163)	32.5%	44.8%	19.6%	3.1%	12.21	0.057	†
60・70代 (n= 78)	48.7%	41.0%	6.4%	3.8%			

**： $p<0.05$ †： $p<0.10$ —：期待度数 5 未満 20%超

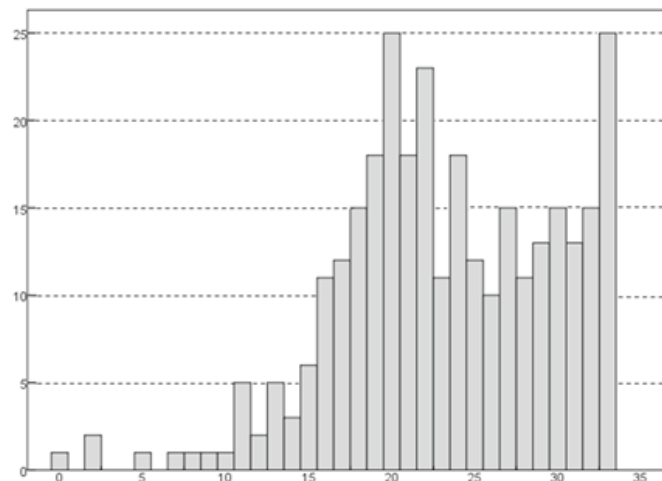
χ^2 検定の結果、「お気に入りの場所がある」($p<0.05$)、「このまちが好きだ」($p<0.10$)および「このまちにずっと住みたい」($p<0.10$)の3項目において有意差ないし傾向差が見られた。「お気に入りの場所がある」に関しては、年代が上がるにつれて「あてはまる」と回答する傾向にあった。「お気に入りの場所がある」ほどではないものの、「このまちが好きだ」と「このまちにずっと住みたい」も同様に、年代が上がるにつれて「あてはまる」と回答する弱い傾向にあった。

2. 3 地域愛着尺度の作成

本節では、「地域への愛着」を尋ねる 11 項目を合成し、「地域愛着度」尺度を作成する。「あてはまる」を3点、「どちらかというにあてはまる」を2点、「どちらかというにあてはまらない」を1点、「あてはまらない」を0点として総和を算出し、これを「地域愛着度」とする。得点が高いほど、地域への愛着があることを意味する。総和の算出に先立ち、信頼性の検討を行ったところ、 α 係数は 0.92 であり項目の内的整合性があると確認された。地域愛着度の記述統計量は、 $N=309$ 、平均値 23.26、中央値 23、標準偏差 6.50、最小値 0、最大値 33、尖度 0.20、歪度-0.45 である。

地域愛着度の得点分布を図 2-1 に示す。地域愛着度は右寄りの分布であった。

図 2-1 地域愛着度の得点分布 (n=309)



続いて、地域愛着度の男女別の分布結果を表 2-8 に示す。

表 2-8 男女別の地域愛着度

			平均	標準偏差	自由度	t 値	p 値	
地域愛着度	男性	(n=118)	22.75	6.62	306	-1.02	0.311	n.s.
	女性	(n=190)	23.52	6.40				

男女別の平均値の差を検討するため、t 検定を行った。その結果、地域愛着度の平均値に有意差は見られなかった。数値としては、男性の平均値が 22.75、女性の平均値が 23.52 であり、女性のほうが高かった。

表 2-9 世代別の地域愛着度の分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F	p 値	
地域愛着度	134.26	2	67.13	1.59	0.205	n.s.

世代を 20・30 代、40・50 代、60・70 代の 3 群に分け、平均値の差を検定するために一元配置分散分析を行った。その結果、平均値の差に有意差は見られなかった（表 2-9）。

表 2-10 世代別の地域愛着度平均

世代	地域愛着度平均	標準偏差
20・30代 (n = 70)	23.3	7.61
40・50代 (n = 162)	22.7	6.10
60・70代 (n = 77)	24.3	6.17

各世代別の平均値を表 2-10 に示す。これにより、数値としては 20・30 代の地域愛着度の平均は 23.3、40・50 代は 22.7、60・70 代は 24.3 となり、60・70 代の値が最も高いことが分かった。

2. 4 男女別、世代別にみた地域活動への参加の検討

2. 3、2. 3 では地域への愛着に関する検討を行った。本節では、おゆみ野地区における地域活動への参加についての検討に移る。本調査では地域活動への参加に関して、活動認知（知っている・知らない）および活動経験（参加したことがある・参加したことがない・参加したことはないが今後参加したい）の両方を尋ねた。次の a) から j) の 10 種類の地域活動について、それぞれ活動認知と活動経験を尋ねた。

- a) 健康や医療サービスに関係した活動
- b) 高齢者を対象にした活動
- c) 障がい者を対象とした活動
- d) 子どもを対象とした活動
- e) スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動
- f) まちづくりのための活動
- g) 安全な生活のための活動
- h) 自然や環境を守るための活動
- i) 災害に関係した活動
- j) 国際協力に関係した活動

男女別、世代別に検討した結果を表 2-11、2-12 にあわす。

表 2-11 は男女別の地域活動の認知度である。「b)高齢者を対象にした活動」、「d)子どもを対象とした活動」および「f)まちづくりのための活動」には地域活動の認知において性別による有意差がみられ、男性よりも女性のほうがおゆみ野地域における様々な活動について知っていた。

表 2-12 は世代別に地域活動の認知度を検討した結果である。「c)障がい者を対象とした活動」、「g)安全な生活のための活動」、「h)自然や環境を守るための活動」および「j)国際協力に関係した活動」以外には世代による有意な違いが見られた。

「a)健康や医療サービスに関係した活動」は世代が上がるにつれて認知度は高まり、60・70 代の認知度が最も高かった。「e)スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」、「f)まちづくりのための活動」および「i)災害に関係した活動」は、40・50 代の認知度が高く、続いて 60・70 代となっていた。「b)高齢者を対象にした活動」は 60・70 代の認知度が突出して高く、現在・今後の自分たち世代が抱える問題に直接関わるであろうことから関心の高さが伺える一方で、その他の世代の関心は低かった。「d)子どもを対象とした活動」は 40・50 代の認知度が高く、続いて 20・30 代となり、子育て世代での認知度の高さが伺えた。

表 2-11 男女別の地域活動の認知

a) 健康や医療サービスに関係した活動						
		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	38.3%	61.7%	2.54	0.111	n.s.
女性	(n=189)	47.6%	52.4%			

b) 高齢者を対象にした活動						
		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	25.2%	74.8%	7.40	0.007	**
女性	(n=190)	40.5%	59.5%			

c) 障がい者を対象とした活動						
		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	13.9%	86.1%	1.93	0.164	n.s.
女性	(n=188)	20.2%	79.8%			

d) 子どもを対象とした活動						
		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	42.6%	57.4%	5.85	0.016	*
女性	(n=188)	56.9%	43.1%			

表 2-12 世代別の地域活動の認知

a) 健康や医療サービスに関係した活動						
		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 69)	34.8%	65.2%	7.98	0.018	*
40・50代	(n=159)	42.1%	57.9%			
60・70代	(n= 77)	57.1%	42.9%			

b) 高齢者を対象にした活動						
		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 69)	24.6%	75.4%	20.20	0.000	***
40・50代	(n=160)	29.4%	70.6%			
60・70代	(n= 77)	55.8%	44.2%			

c) 障がい者を対象とした活動						
		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 68)	14.7%	85.3%	2.51	0.285	n.s.
40・50代	(n=160)	16.3%	83.8%			
60・70代	(n= 76)	23.7%	76.3%			

d) 子どもを対象とした活動						
		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 68)	50.0%	50.0%	18.22	0.000	***
40・50代	(n=160)	61.3%	38.8%			
60・70代	(n= 76)	31.6%	68.4%			

e) スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	72.2%	27.8%	0.70	0.403	n.s.
女性	(n=187)	76.5%	23.5%			

f) まちづくりのための活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	67.0%	33.0%	5.44	0.020	*
女性	(n=186)	79.0%	21.0%			

g) 安全な生活のための活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	67.0%	33.0%	0.80	0.371	n.s.
女性	(n=188)	71.8%	28.2%			

h) 自然や環境を守るための活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	45.2%	54.8%	1.82	0.117	n.s.
女性	(n=186)	53.2%	46.8%			

i) 災害に関係した活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	51.3%	48.7%	1.09	0.297	n.s.
女性	(n=188)	57.4%	42.6%			

j) 国際協力に関係した活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=115)	5.2%	94.8%	0.22	0.883	n.s.
女性	(n=186)	4.8%	95.2%			

**: p<0.01 *: p<0.05

e) スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 68)	58.8%	41.2%	13.19	0.001	**
40・50代	(n=158)	81.6%	18.4%			
60・70代	(n= 77)	75.3%	24.7%			

f) まちづくりのための活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 68)	66.2%	33.8%	5.48	0.065	†
40・50代	(n=159)	79.9%	20.1%			
60・70代	(n= 75)	70.7%	29.3%			

g) 安全な生活のための活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 68)	66.2%	33.8%	0.64	0.728	n.s.
40・50代	(n=159)	71.1%	28.9%			
60・70代	(n= 77)	71.4%	28.6%			

h) 自然や環境を守るための活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 68)	44.1%	55.9%	2.01	0.365	n.s.
40・50代	(n=159)	50.3%	49.7%			
60・70代	(n= 75)	56.0%	44.0%			

i) 災害に関係した活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 68)	44.1%	55.9%	5.12	0.078	†
40・50代	(n=159)	60.4%	39.6%			
60・70代	(n= 77)	54.5%	45.5%			

j) 国際協力に関係した活動

		知っている	知らない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 67)	6.0%	94.0%	2.64	0.267	n.s.
40・50代	(n=159)	3.1%	96.9%			
60・70代	(n= 76)	7.9%	92.1%			

***: p<0.001 **: p<0.01 *: p<0.05 †: p<0.10

続いて、地域活動の参加経験を検討し、男女別、世代別に結果を表2-13、表2-14にあらわす。

表2-13 男女別にみた地域活動への参加経験

a) 健康や医療サービスに関係した活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値	
男性	(n=113)	8.0%	89.4%	2.7%	7.33	0.026	*
女性	(n=177)	16.4%	76.8%	6.8%			

b) 高齢者を対象にした活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値	
男性	(n=113)	0.9%	92.0%	7.1%	1.89	0.389	n.s.
女性	(n=179)	3.4%	88.8%	7.8%			

c) 障がい者を対象とした活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値	
男性	(n=112)	0.0%	95.5%	4.5%	2.64	0.267	n.s.
女性	(n=177)	1.7%	91.5%	6.8%			

表2-14 世代別にみた地域活動への参加経験

a) 健康や医療サービスに関係した活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 65)	12.3%	81.5%	6.2%	6.94	0.139	n.s.
40・50代	(n=152)	9.2%	85.5%	5.3%			
60・70代	(n= 74)	21.6%	73.0%	5.4%			

b) 高齢者を対象にした活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 65)	0.0%	93.8%	6.2%	29.62	0.000	—
40・50代	(n=153)	0.0%	95.4%	4.6%			
60・70代	(n= 75)	9.3%	76.0%	14.7%			

c) 障がい者を対象とした活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 66)	0.0%	89.4%	10.6%	5.90	0.207	n.s.
40・50代	(n=153)	1.3%	95.4%	3.3%			
60・70代	(n= 71)	1.4%	90.1%	8.5%			

d) 子どもを対象とした活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
男性	(n=112)	8.0%	82.1%	9.8%	12.38	0.002 **
女性	(n=182)	24.2%	66.5%	9.3%		

e) スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
男性	(n=113)	17.7%	72.6%	9.7%	10.47	0.005 **
女性	(n=182)	35.2%	57.7%	7.1%		

f) まちづくりのための活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
男性	(n=113)	31.9%	59.3%	8.8%	7.67	0.022 *
女性	(n=183)	48.1%	44.3%	7.7%		

g) 安全な生活のための活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
男性	(n=113)	7.1%	78.8%	14.2%	14.63	0.001 **
女性	(n=184)	20.7%	73.9%	5.4%		

h) 自然や環境を守るための活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
男性	(n=113)	2.7%	83.2%	14.2%	6.46	0.040 *
女性	(n=183)	9.3%	82.0%	8.7%		

i) 災害に関係した活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
男性	(n=114)	19.3%	70.2%	10.5%	0.5	0.780 n.s.
女性	(n=182)	18.7%	73.1%	8.2%		

j) 国際協力に関係した活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
男性	(n=112)	0.9%	96.4%	2.7%	6.56	0.038 —
女性	(n=178)	0.0%	90.4%	9.6%		

**：p<0.01 *：p<0.05

—：期待度数 5 未満 20%超

d) 子どもを対象とした活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
20・30代	(n=67)	14.9%	68.7%	16.4%		
40・50代	(n=156)	25.6%	68.6%	5.8%	20.90	***
60・70代	(n=72)	4.2%	84.7%	11.1%		

e) スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
20・30代	(n=66)	18.2%	71.2%	10.6%		
40・50代	(n=156)	35.9%	57.1%	7.1%	9.40	0.052 †
60・70代	(n=73)	21.9%	69.9%	8.2%		

f) まちづくりのための活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
20・30代	(n=66)	43.9%	45.5%	10.6%		
40・50代	(n=157)	42.7%	49.7%	7.6%	1.45	0.835 n.s.
60・70代	(n=74)	39.2%	54.1%	6.8%		

g) 安全な生活のための活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
20・30代	(n=67)	10.4%	80.6%	9.0%		
40・50代	(n=157)	21.7%	72.0%	6.4%	12.17	0.016 *
60・70代	(n=73)	6.8%	79.5%	13.7%		

h) 自然や環境を守るための活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
20・30代	(n=67)	3.0%	85.1%	11.9%		
40・50代	(n=156)	4.5%	89.7%	5.8%	24.17	0.000 —
60・70代	(n=73)	15.1%	64.4%	20.5%		

i) 災害に関係した活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
20・30代	(n=67)	11.9%	76.1%	11.9%		
40・50代	(n=157)	19.1%	73.2%	7.6%	4.77	0.312 n.s.
60・70代	(n=72)	25.0%	65.3%	9.7%		

j) 国際協力に関係した活動

		参加したことがある	参加したことがない	参加したことがないが今後参加したい	χ^2 値	p 値
20・30代	(n=64)	0.0%	92.2%	7.8%		
40・50代	(n=154)	0.0%	92.2%	7.8%	4.09	0.394 n.s.
60・70代	(n=72)	1.4%	94.4%	4.2%		

***：p<0.001 *：p<0.05 †：p<0.10

—：期待度数 5 未満 20%超

表 2-13 は男女別の地域活動の参加経験である。「b)高齢者を対象にした活動」、「c)障がい者を対象とした活動」、「i)災害に関係した活動」および「j)国際協力に関係した活動」以外にはすべて性別による有意な経験差が見られ、男性よりも女性のほうがおゆみ野地域における様々な活動に参加していた。

表 2-14 は世代別に地域活動の参加経験を検討した結果である。「d)子どもを対象とした活動」、「e)スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」および「g)安全な生活のための活動」のみ世代間に有意差ないし傾向差が見られ、いずれも 40・50 代の「参加したことがある」割合が最も高かった。とりわけ「d)子どもを対象とした活動」では、つづいて 20・30 代の割合が高く、地域活動の認知度の高さ同様に子育て世代が参加している傾向が伺える。

第3章 地域愛着に影響する要因 ——地域活動による獲得度・やりがいとの関連

丸本 綾太郎

本章では、地域活動獲得度ならびに地域活動に対するやりがいと地域愛着度の関連について分析する。ここでいう地域活動獲得度とは、後述するように、参加した地域活動を通して何らかの得たものがあると感じる程度を意味する。具体的な分析作業としては、地域活動獲得度と地域活動によるやりがいをそれぞれ独立変数、地域愛着度を従属変数として、以下の2つの仮説を検証する。

- ① 参加した地域活動を通して得たものがあると感じている人は、感じていない人よりも、地域愛着度が高い。
- ② 地域活動にやりがいを感じている人は、感じていない人よりも、地域愛着度が高い。

3. 1 使用する変数について

3. 1. 1 地域活動獲得に関する変数

調査では、おゆみ野地域内の地域活動の参加状況について尋ねた。さらに、それらの活動に参加したことがある人を対象に、参加した活動を通して以下の5つの状況の変化があったかを尋ねた。

- a) 活動を通して、私生活が楽になった
- b) 活動を通して、知り合いが増えた
- c) 活動を通して、自分自身が成長できた
- d) 活動を通して、新しい地域情報が得られた
- e) 活動を通して、社会に貢献していると感じた

それぞれの項目について、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」および「あてはまらない」の4件法で回答を得た。

表3-1 地域活動獲得に関する単純集計

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
a)活動を通して、私生活が楽になった	(n=170)	11.8%	51.2%	25.3%	11.8%
b)活動を通して、知り合いが増えた	(n=171)	9.4%	39.2%	29.2%	22.2%
c)活動を通して、自分自身が成長できた	(n=171)	6.4%	37.4%	36.8%	19.3%
d)活動を通して、新しい地域情報が得られた	(n=170)	12.9%	47.1%	23.5%	16.5%
e)活動を通して、社会に貢献していると感じた	(n=171)	4.7%	35.7%	37.4%	22.2%

表3-1のとおり、「a)活動を通して、私生活が楽になった」では、「どちらかといえばあてはまる」が51.2%と最も多く、「あてはまる」と「あてはまらない」の割合はいずれも11.8%と少な

った。「b)活動を通して、知り合いが増えた」では、「どちらかといえばあてはまる」が 39.2%と最も多く、「あてはまる」が 9.4%と最も少なかった。「c)活動を通して、自分自身が成長できた」では、「どちらかといえばあてはまる」が 37.4%と最も多く、「あてはまる」が 6.4%と最も少なかった。「d)活動を通して、新しい地域情報が得られた」では、「どちらかといえばあてはまる」が 47.1%と最も多く、「あてはまる」が 12.9%と最も少なかった。「e)活動を通して、社会に貢献していると感じた」では、「どちらかといえばあてはまらない」が 37.4%と最も多く、「あてはまる」が 4.7%と最も少なかった。

なお、本章では「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を統合して「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を統合して「あてはまらない」と再カテゴリー化し、分析に用いた。

2群に分けて再度分析すると、各項目の回答の分布は以下のようになる。

「a) 活動を通して、私生活が楽しくなった」では「あてはまる」が 62.9%で「あてはまらない」が 37.1%、「b) 活動を通して、知り合いが増えた」では「あてはまる」が 48.5%で「あてはまらない」が 51.5%、「c) 活動を通して、自分自身が成長できた」では「あてはまる」が 43.9%で「あてはまらない」が 56.1%、「d) 活動を通して、新しい地域情報が得られた」では「あてはまる」が 60.0%で「あてはまらない」が 40.0%、「e) 活動を通して、社会に貢献していると感じた」では「あてはまる」が 40.4%で「あてはまらない」が 59.6%であった。

表 3-2 は地域活動獲得を男女別に検討したものである。

表 3-2 地域活動獲得に関するクロス集計（男女別）

			あてはまる	あてはまらない	p 値	
a) 活動を通して、私生活が楽しくなった	男性	(n= 53)	50.9%	49.1%	0.039	*
	女性	(n=117)	68.4%	31.6%		
b) 活動を通して、知り合いが増えた	男性	(n= 53)	39.6%	60.4%	0.138	n.s.
	女性	(n=118)	52.5%	47.5%		
c) 活動を通して、自分自身が成長できた	男性	(n= 53)	34.0%	66.0%	0.096	†
	女性	(n=118)	48.3%	51.7%		
d) 活動を通して、新しい地域情報が得られた	男性	(n= 52)	51.9%	48.1%	0.176	n.s.
	女性	(n=118)	63.6%	36.4%		
e) 活動を通して、社会に貢献していると感じた	男性	(n= 53)	34.0%	66.0%	0.312	n.s.
	女性	(n=118)	43.2%	56.8%		

*: p<0.05 †: p<0.10

χ^2 検定の結果、「a) 活動を通して、私生活が楽しくなった」のみ有意に男女差が見られ、男性よりも女性のほうが地域活動を通して私生活が楽しくなったと感じていることが分かった。また、傾向差ではあるが、男性よりも女性のほうが、地域活動を通して自分自身が成長できたと感じていることが明らかになった。

表 3-3 は、地域活動獲得を世代別に検討したものである。

本調査はサンプル数が約 300 であったため、20 歳刻みでの群分けとした。 χ^2 検定の結果、いずれの項目においても有意な世代差は見られなかった。

表 3-3 地域活動獲得に関するクロス集計（世代別）

			あてはまる	あてはまらない	χ^2 値	p 値	
a) 活動を通して、 私生活が楽しくなった	20・30代	(n=37)	70.3%	29.7%	1.69	0.429	n.s.
	40・50代	(n=97)	62.9%	37.1%			
	60・70代	(n=36)	55.6%	44.4%			
b) 活動を通して、 知り合いが増えた	20・30代	(n=37)	40.5%	59.5%	3.85	0.144	n.s.
	40・50代	(n=97)	46.4%	53.6%			
	60・70代	(n=37)	62.2%	37.8%			
c) 活動を通して、 自分自身が成長できた	20・30代	(n=37)	43.2%	56.8%	2.09	0.351	n.s.
	40・50代	(n=97)	40.2%	59.8%			
	60・70代	(n=37)	54.1%	45.9%			
d) 活動を通して、 新しい地域情報が得られた	20・30代	(n=37)	51.4%	48.6%	1.66	0.436	n.s.
	40・50代	(n=97)	63.5%	36.5%			
	60・70代	(n=37)	59.5%	40.5%			
e) 活動を通して、 社会に貢献していると感じた	20・30代	(n=37)	35.1%	64.9%	0.90	0.638	n.s.
	40・50代	(n=97)	40.2%	59.8%			
	60・70代	(n=37)	45.9%	54.1%			

3. 1. 2 地域愛着に関する変数

調査対象者の地域愛着を測定するため、本調査では以下の 11 項目を設けた。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| a) このまちではリラックスできる | g) このまちが好きだ |
| b) 雰囲気や土地柄が気に入っている | h) まちに思い出がある |
| c) このまちを歩くのは気持ちよい | i) まちに自分の居場所がある |
| d) お気に入りの場所がある | j) このまちは住みやすい |
| e) 近所に友達や知り合いがいる | k) このまちにずっと住みたい |
| f) 自分のまちという感じがする | |

それぞれの項目について、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」および「あてはまらない」の 4 件法で尋ねた。

表 3-4 地域愛着に関する単純集計

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
a) このまちではリラックスできる	(n=310)	43.2%	51.6%	4.2%	1.0%
b) 雰囲気や土地柄が気に入っている	(n=311)	45.0%	47.3%	6.1%	1.6%
c) このまちを歩くのは気持ちよい	(n=312)	51.9%	43.9%	3.2%	1.0%
d) お気に入りの場所がある	(n=311)	29.3%	40.8%	23.8%	6.1%
e) 近所に友達や知り合いがいる	(n=310)	31.0%	39.4%	14.5%	15.2%
f) 自分のまちという感じがする	(n=311)	27.0%	42.4%	23.8%	6.8%
g) このまちが好きだ	(n=311)	39.5%	49.2%	7.7%	3.5%
h) まちに思い出がある	(n=310)	22.9%	36.8%	26.8%	13.5%
i) まちに自分の居場所がある	(n=311)	26.0%	41.2%	26.0%	6.8%
j) このまちは住みやすい	(n=313)	46.6%	47.0%	4.8%	1.6%
k) このまちにずっと住みたい	(n=311)	37.0%	43.7%	15.1%	4.2%

表3-4は単純集計の結果である。「c)このまちを歩くのは気持ちよい」は「あてはまる」が最も多かった。その他の「a)このまちではリラックスできる」、「b)雰囲気や土地柄が気に入っている」、「d)お気に入りの場所がある」、「e)近所に友達や知り合いがいる」、「f)自分のまちという感じがする」、「g)このまちが好きだ」、「h)まちに思い出がある」、「i)まちに自分の居場所がある」、「j)このまちは住みやすい」および「k)このまちにずっと住みたい」は、「どちらかといえばあてはまる」最も多かった。

続いて、本章では「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を統合して「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を統合して「あてはまらない」と再カテゴリー化し、分析に用いた。

次は再度分析した結果である。「a)このまちではリラックスできる」では「あてはまる」が94.8%で「あてはまらない」が5.2%、「b)雰囲気や土地柄が気に入っている」では「あてはまる」が92.3%で「あてはまらない」が7.7%、「c)このまちを歩くのは気持ちよい」では「あてはまる」が95.8%で「あてはまらない」が4.2%、「d)お気に入りの場所がある」では「あてはまる」が70.1%で「あてはまらない」が29.9%、「e)近所に友達や知り合いがいる」では「あてはまる」が70.3%で「あてはまらない」が29.7%、「f)自分のまちという感じがする」では「あてはまる」が69.5%で「あてはまらない」が30.5%、「g)このまちが好きだ」では「あてはまる」が88.7%で「あてはまらない」が11.3%、「h)まちに思い出がある」では「あてはまる」が59.7%で「あてはまらない」が40.3%、「i)まちに自分の居場所がある」では「あてはまる」が67.2%で「あてはまらない」が32.8%、「j)このまちは住みやすい」では「あてはまる」が93.6%で「あてはまらない」が6.4%、「k)このまちにずっと住みたい」では「あてはまる」が80.7%で「あてはまらない」が19.3%であった。

表3-5 地域愛着に関するクロス集計（男女別）

		あてはまる あてはまらない		p 値	
a) このまちではリラックスできる	男性 (n=118)	94.1%	5.9%	0.792	n.s.
	女性 (n=191)	95.3%	4.7%		
b) 雰囲気や土地柄が気に入っている	男性 (n=118)	93.2%	6.8%	0.668	n.s.
	女性 (n=192)	91.7%	8.3%		
c) このまちを歩くのは気持ちよい	男性 (n=118)	94.9%	5.1%	0.568	n.s.
	女性 (n=193)	96.4%	3.6%		
d) お気に入りの場所がある	男性 (n=118)	70.3%	29.7%	1.000	n.s.
	女性 (n=192)	69.8%	30.2%		
e) 近所に友達や知り合いがいる	男性 (n=118)	56.8%	43.2%	0.000	***
	女性 (n=191)	78.5%	21.5%		
f) 自分のまちという感じがする	男性 (n=118)	69.5%	30.5%	1.000	n.s.
	女性 (n=192)	69.3%	30.7%		
g) このまちが好きだ	男性 (n=118)	87.3%	12.7%	0.581	n.s.
	女性 (n=192)	89.6%	10.4%		
h) まちに思い出がある	男性 (n=118)	57.6%	42.4%	0.634	n.s.
	女性 (n=191)	60.7%	39.3%		
i) まちに自分の居場所がある	男性 (n=118)	57.6%	42.4%	0.006	**
	女性 (n=192)	72.9%	27.1%		
j) このまちは住みやすい	男性 (n=118)	94.1%	5.9%	1.000	n.s.
	女性 (n=194)	93.3%	6.7%		
k) このまちにずっと住みたい	男性 (n=118)	80.5%	19.5%	1.000	n.s.
	女性 (n=192)	80.7%	19.3%		

***: p<0.001 **: p<0.01

表3-5は地域愛着を男女別に検討したものである。 χ^2 検定の結果、「e)近所に友達や知り合いがいる」と「i)まちに自分の居場所がある」は有意に男女差が見られ、いずれも男性よりも女性のほうが「あてはまる」の割合が高かった。

表3-6 地域愛着に関するクロス集計（世代別）

			あてはまる	あてはまらない	χ^2 値	p値	
a) このまちでは リラックスできる	20・30代	(n= 70)	91.4%	8.6%	2.165	0.339	n.s.
	40・50代	(n=163)	95.7%	4.3%			
	60・70代	(n= 77)	96.1%	5.2%			
b) 雰囲気や土地柄が 気に入っている	20・30代	(n= 70)	90.0%	10.0%	0.73	0.695	n.s.
	40・50代	(n=163)	92.6%	7.4%			
	60・70代	(n= 78)	93.6%	6.4%			
c) このまちを歩く のは気持ちよい	20・30代	(n= 70)	92.9%	7.1%	3.22	0.199	n.s.
	40・50代	(n=163)	95.7%	4.3%			
	60・70代	(n= 79)	98.7%	1.3%			
d) お気に入りの 場所がある	20・30代	(n= 70)	67.1%	32.9%	8.81	0.012	*
	40・50代	(n=163)	65.0%	35.0%			
	60・70代	(n= 78)	83.3%	16.7%			
e) 近所に友達や 知り合いがいる	20・30代	(n= 70)	72.9%	27.1%	0.51	0.776	n.s.
	40・50代	(n=163)	70.6%	29.4%			
	60・70代	(n= 77)	67.5%	32.5%			
f) 自分のまち という感じがする	20・30代	(n= 70)	61.4%	38.6%	3.102	0.212	n.s.
	40・50代	(n=163)	70.6%	29.4%			
	60・70代	(n= 78)	74.4%	25.6%			
g) このまちが好きだ	20・30代	(n= 70)	84.3%	15.7%	1.81	0.405	n.s.
	40・50代	(n=163)	90.2%	9.8%			
	60・70代	(n= 78)	89.7%	10.3%			
h) まちに思い出がある	20・30代	(n= 70)	55.7%	44.3%	0.61	0.739	n.s.
	40・50代	(n=162)	61.1%	38.9%			
	60・70代	(n= 78)	60.3%	39.7%			
i) まちに自分の 居場所がある	20・30代	(n= 70)	62.9%	37.1%	1.66	0.436	n.s.
	40・50代	(n=163)	64.4%	35.6%			
	60・70代	(n= 78)	76.9%	23.1%			
j) このまちは住みやすい	20・30代	(n= 70)	90.0%	10.0%	2.89	0.236	n.s.
	40・50代	(n=163)	95.7%	4.3%			
	60・70代	(n= 80)	92.5%	7.5%			
k) このまちに ずっと住みたい	20・30代	(n= 70)	78.6%	21.4%	5.51	0.638	n.s.
	40・50代	(n=163)	77.3%	22.7%			
	60・70代	(n= 78)	89.7%	10.3%			

*: p<0.05

表3-6は地域愛着を世代別に検討したものである。結果、「d)お気に入りの場所がある」のみ世代間で有意差が見られ、20・30代の「あてはまる」が67.1%、40・50代が65.0%、60・70代が83.3%であった。60・70代は他の世代と比べて「あてはまる」と回答した人の割合が高いことが分かった。

3. 1. 3 地域活動に対するやりがいに関する変数

おゆみ野地域内の地域活動に対するやりがいについて、本調査では以下の項目を用意した。

f) 活動にやりがいを感じた

上記項目について、回答は「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」および「あてはまらない」の4件法で尋ねた。

表3-7 地域活動に対するやりがいに関する単純集計

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
f) 活動にやりがいを感じた (n=171)	6.4%	35.7%	38.0%	19.9%

「f)活動にやりがいを感じた」では、「どちらかといえばあてはまらない」が38.0%と最も多く、「あてはまる」が6.4%と最も少なかった（表3-7）。

本章では、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を統合して「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を統合して「あてはまらない」と再カテゴリー化し、分析に用いた。

その結果、「あてはまる」は42.1%、「あてはまらない」は57.9%であった。

表3-8 地域活動に対するやりがいに関するクロス集計（男女別）

		あてはまる	あてはまらない	p 値
f) 活動にやりがいを感じた	男性 (n= 53)	32.1%	67.9%	0.094 †
	女性 (n=118)	46.6%	53.4%	

†: p<0.10

表3-8は地域活動に対するやりがいを男女別に検討したものである。 χ^2 検定の結果、男女間で傾向差が見られ、男性よりも女性のほうが「あてはまる」と回答した割合が高かった。女性のほうが地域活動に対するやりがいを感じていることが分かった。

表3-9 地域活動に対するやりがいに関するクロス集計（世代別）

		あてはまる	あてはまらない	χ^2 値	p 値
f) 活動にやりがいを感じた	20・30代 (n=37)	43.2%	56.8%	0.39	0.824 n.s.
	40・50代 (n=97)	40.2%	59.8%		
	60・70代 (n=37)	45.9%	54.1%		

表3-9は地域活動に対するやりがいを世代別に検討したものである。 χ^2 検定の結果、有意な世代差は見られなかった。

3. 2 地域活動獲得度と地域愛着度の関連

3. 2. 1 地域活動獲得度

本章3. 1. 1で示した地域活動獲得に関する回答について、「あてはまる」に3点、「どちらかといえばあてはまる」に2点、「どちらかといえばあてはまらない」に1点、「あてはまらない」に0点を与え、それらを合算したものを地域活動獲得度尺度 ($\alpha=0.88$) とした。地域活動獲得度の記述統計量は、次のとおりである。N=169、平均値 7.12、中央値 7、標準偏差 3.62、最小値 0、最大値 15、尖度 -0.42、歪度 -0.20 である。

3. 2. 2 地域愛着度

本章3. 1. 2で示した地域愛着に関する回答について、「あてはまる」に3点、「どちらかといえばあてはまる」に2点、「どちらかといえばあてはまらない」に1点、「あてはまらない」に0点を与え、それらを合算したものを地域愛着度尺度 ($\alpha=0.92$) とした。地域愛着度の記述統計量は、N=309、平均値 23.26、中央値 23、標準偏差 6.50、最小値 0、最大値 33、尖度 0.20、歪度 -0.45 である。

3. 2. 3 地域活動獲得度と地域愛着度の相関分析

表3-10は地域獲得度と地域愛着度という2つの量的変数の間に共変関係があるかどうかを相関分析で検討したものである。相関分析の結果、両者に統計的に有意な関連があるとは認められなかった。つまり、地域活動獲得度が高いほど地域愛着が高いというような関係にはないということである。

表3-10 地域活動獲得度と地域愛着度の相関分析

	N	平均	標準偏差	相関係数	
地域活動獲得度	169	7.12	3.618	0.31	n.s.
地域愛着度	309	23.26	6.503		

3. 3 地域活動に対するやりがいと地域愛着度の関連

地域活動やりがいに関するカテゴリー（「あてはまる」と「あてはまらない」）ごとに地域愛着度の平均を求め、平均値の差の検定（t検定）を行った。

表3-11 地域活動獲得やりがいと地域愛着度のt検定

		地域愛着度平均	標準偏差	t 値	p 値	
f) 活動に	あてはまる (n=72)	26.54	5.70	3.73	0.000	***
やりがいを感じた	あてはまらない (n=98)	23.24	5.71			

***: $p<0.001$

表3-11より、「あてはまる」の平均が26.54、「あてはまらない」の平均が23.24となっており、 p 値が0.000だったため、有意な差が見られた。地域活動にやりがいを感じている人は、地域活動にやりがいを感じていない人よりも、地域愛着度が高いことが確認された。

3. 4 結論

この章で検証される仮説は、①参加した地域活動を通して得たものがあると感じている人は、感じていない人よりも、地域愛着度が高い、および、②地域活動にやりがいを感じている人は、感じていない人よりも、地域愛着度が高いの2つであった。

地域活動獲得度と地域愛着度の関連について相関分析を行ったが、両者は統計的に有意な関係にはないことが明らかになった。一方、地域活動に対するやりがいと地域愛着度の関係では、やりがいの有無によるグループ間で愛着度の平均値に有意な差が見られ、地域活動にやりがいを感じた人々はやりがいを感じていない人々よりも地域愛着度が高かった。

今回、「参加した地域活動を通して得たものがあると感じている人は、感じていない人よりも、地域愛着度が高い」という仮説は棄却された。その理由については、地域活動を通して得たものが多い者は、地域活動への肯定的評価をするかもしれないが、地域全体への愛着には結びつかなかった可能性が考えられる。

一方「地域活動にやりがいを感じている人は、感じていない人よりも、地域愛着度が高い」という仮説は立証された。おゆみ野地域における地域活動にやりがいを感じた人は多数派ではないが、今回の分析の結果、地域活動にやりがいを感じた者はそうでない者に比べて地域愛着度が高いことが確認された。やりがいを感じられるような活動を地域に多く展開していくことが、人々の地域愛着を高めていく有効な方法の1つであると考えられる。

第4章 地域愛着・地域生活満足度に影響する要因——地域活動・近隣関係との関連

上野 絵里加

本章では、地域活動への参加と近隣関係の関連と、近隣関係と地域愛着および地域への満足度に関するどのような関連があるのかをそれぞれ検討する。

本章で検証する仮説は下記の3つである。

- ① 地域活動に参加している人は参加していない人よりも、近隣に親密な人がいる。
- ② 近隣に親密な人がいる人はいない人よりも、地域に愛着をもっている。
- ③ 近隣に親密な人がいる人はいない人よりも、地域生活に満足している。

4.1 地域活動への参加と近隣に親密な人がいるかの検討

4.1.1 地域活動への参加の基礎集計

おゆみ野地域内の地域活動について、以下の10項目を尋ねた。

- a) 健康や医療サービスに関係した活動
- b) 高齢者を対象にした活動
- c) 障がい者を対象とした活動
- d) 子どもを対象とした活動
- e) スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動
- f) まちづくりのための活動
- g) 安全な生活のための活動
- h) 自然や環境を守るための活動
- i) 災害に関係した活動
- j) 国際協力に関係した活動

それぞれの項目で、活動経験について「参加したことがある」、「参加したことがない」および「参加したことはないが今後参加したい」の3件法で尋ねた。本章では、「参加したことがある」を1点、「参加したことがない」と「参加したことはないが今後参加したい」を統合して0点とした。そのうえでa)からj)の回答を足しあげることで活動参加度を算出し、総和が0点の場合は「参加経験なし」とし、1点以上の場合は「1種類以上参加経験あり」とした。

表4-1 地域活動への参加経験

参加経験なし	(n=116)	41.0%
1種類以上の参加経験あり	(n=167)	59.0%

「参加経験なし」は 116 人 (41.0%)、「1 種類以上参加経験あり」は 167 人 (59.0%) であった (表 4-1)。

表 4-2 地域活動への参加経験に関するクロス集計 (男女別)

		参加経験なし	1 種類以上の参加経験あり	p 値	
男性	(n=109)	50.5%	49.5%	0.009	**
女性	(n=171)	33.9%	66.1%		

**: p<0.01

表 4-2 は地域活動の参加経験の有無を男女別にクロス集計し、フィッシャーの正確検定を行った結果である。1 %水準で有意な差がみられ、男性よりも女性のほうが地域活動に参加していることがわかった。

表 4-3 地域活動への参加経験に関するクロス集計 (世代別)

	参加経験なし	1 種類以上の参加経験あり	χ^2 値	p 値	
20・30代 (n= 61)	45.9%	54.1%	1.60	0.45	n.s.
40・50代 (n=151)	37.1%	62.9%			
60・70代 (n= 68)	42.6%	57.4%			

表 4-3 は、地域活動の参加経験の有無を世代別にクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。有意な差はみられず、参加経験の有無は世代別で有意な差はないことがわかった。

4. 1. 2 近隣に親密な人がいるかの尺度化

近隣に親密な人がいるかどうかについて、以下の 8 項目を尋ねた。

- a) 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人
- b) 互いの家によく訪問し合う人
- c) よくおすそ分けし合う人
- d) 家族ぐるみのつきあいをしている人
- e) よく一緒に外出するような関係の人
- f) 災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人
- g) 災害時に家族員の誰か (ペットを含む) を 1～2 時間任せられる人
- h) 災害時に安否が気になる人

昨年度の調査で使用した近所づきあいについて尋ねる項目に加え、今年度は災害時を想定した項目を用意した。平時の関係と災害時の関係の双方を聞くことで、近隣に親密な関係の人がいるかど

うかがわかるように尋ねた。

それぞれの項目について、「たくさんいる」、「数人いる」、「一人二人いる」および「いない」の4件法で尋ねた。本章では、「たくさんいる」を3点、「数人いる」を2点、「一人二人いる」を1点、「いない」を0点として総和を算出し、これを近隣関係親密度とする。得点が高いほど、近隣に親しい人がいることを意味する。

総和を算出するにあたり、まず、信頼性係数を求めた。その結果クロンバックの α 係数は0.92で、0.7以上であったため、内的一貫性があると判断し、合成した。8項目の総和を算出し、合計得点が高いほど近隣に頼れる人がいるという近隣関係親密度を作成した。尺度の統計情報は次のとおりである。平均値5.31、標準偏差5.18、最小値0、最大値21、尖度0.05、歪度0.93である。

4. 1. 3 地域活動への参加と近隣に親密な人がいるかの関連

地域活動の参加数に関する2群と前項の手順で作成した近隣関係親密度を用いて、仮説①「地域活動に参加している人は参加していない人よりも、近隣に親密な人がいる」を検証する。具体的には、地域活動への参加の有無を独立変数、近隣関係親密度を従属変数として平均値の差の検定(t検定)を行った。

表4-4 地域活動への参加経験による近隣関係親密度

		平均	標準偏差	t値	p値	
参加経験なし	(n=116)	2.78	3.92	-7.99	0.000	***
1種類以上の参加経験あり	(n=165)	7.15	5.24			

***: p<0.001

表4-4は、地域活動への参加の有無と近隣関係親密度についてt検定を行った結果である。参加経験なし群の平均が2.78、1種類以上の参加経験あり群の平均が7.15となっており、0.1%水準で平均値に有意な差が見られた。このことから、地域活動に参加している人は参加していない人よりも近隣に親密な人がいることがわかった。

表4-5 地域活動への参加経験による近隣関係親密度(男女別)

			平均	標準偏差	t値	p値	
男性	参加経験なし	(n= 55)	2.69	3.92	-2.69	0.008	**
	1種類以上の参加経験あり	(n= 53)	4.98	4.90			
女性	参加経験なし	(n= 58)	2.86	4.04	-7.42	0.000	***
	1種類以上の参加経験あり	(n=112)	8.18	5.10			

***: p<0.001 **: p<0.01

表4-5は、地域活動への参加の有無と近隣関係親密度について、男女別にt検定を行った結果である。男性は1%水準、女性は0.1%水準で平均的に有意な差が見られたため、男女ともに、地域

活動に参加している人は参加していない人よりも近隣に親密な人がいることがわかった。

表 4-6 地域活動への参加経験による近隣関係親密度（世代別）

			平均値	標準偏差	t値	p値	
20・30代	参加経験なし	(n=28)	2.21	4.72	-3.42	0.001	**
	1種類以上の参加経験あり	(n=33)	6.67	5.35			
40・50代	参加経験なし	(n=56)	2.68	3.98	-6.44	0.000	***
	1種類以上の参加経験あり	(n=95)	7.64	5.43			
60・70代	参加経験なし	(n=29)	3.52	3.04	-2.84	0.006	**
	1種類以上の参加経験あり	(n=37)	6.32	4.58			

***: $p < 0.001$ **: $p < 0.01$

表 4-6 は、地域活動への参加の有無と近隣関係親密度について、世代別に t 検定を行った結果である。20・30 代および 60・70 代は 1 % 水準、40・50 代においては 0.1% 水準で平均値に有意な差が見られた。いずれの世代においても、地域活動に参加した経験を持つ者はそうでない者に比べて、近隣により多くの親密な関係にある他者を有していることが確認された。

以上のように、すべての検定において地域活動に参加している人は参加していない人よりも、近隣に親密な人がいるということが確認された。地域活動に参加することで、近隣に住む他者との関わりを持つことになり、活動を通してコミュニケーションが図られ、近隣の人とも自然と親しくなっていくのだと考えられる。

4. 2 近隣関係親密度と地域愛着度の検討

4. 2. 1 地域への愛着の尺度化

地域に対する愛着について、以下の 11 項目を尋ねた。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| a) このまちではリラックスできる | g) このまちが好きだ |
| b) 雰囲気や土地柄が気に入っている | h) まちに思い出がある |
| c) このまちを歩くのは気持ちよい | i) まちに自分の居場所がある |
| d) お気に入りの場所がある | j) このまちは住みやすい |
| e) 近所に友達や知り合いがいる | k) このまちにずっと住みたい |
| f) 自分のまちという感じがする | |

それぞれの項目について、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」、「どちらかというにあてはまらない」および「あてはまらない」の 4 件法で尋ねた。本章では、「あてはまる」を 3 点、「どちらかというにあてはまる」を 2 点、「どちらかというにあてはまらない」を 1 点、「あてはまらない」を 0 点として総和を算出し、これを地域愛着度とする。得点が高いほど、地域への愛着があることを意味する。

総和を算出するにあたり、まず、信頼性係数を求めた。その結果、クロンバックの α 係数は0.915で、0.7以上であったため、内的一貫性があると判断し、合成した。11項目の総和を算出し、合計得点が高いほど地域に愛着があるという地域愛着度を作成した。尺度の統計情報は次のとおりである。平均値 23.26、標準偏差 6.5、最小値 0、最大値 33、尖度 0.20、歪度 0.45 である。

4. 2. 2 近隣関係親密度と地域愛着度の検討

4. 1. 2 で作成した近隣関係親密度と前項の手順で作成した地域愛着度を用いて、仮説②「近隣に親密な人がいる人はいない人よりも、地域に愛着をもっている」を検証する。具体的には、近隣関係親密度と地域愛着度の相関分析を行った。

表 4-7 近隣関係親密度と地域愛着度の相関係数

	平均	標準偏差	相関係数	p値	
近隣関係親密度 (n=308)	5.31	5.18	0.46	0.000	***
地域愛着度 (n=309)	23.26	6.50			

***: p<0.001

表 4-7 は、近隣関係親密度と地域愛着度の相関分析の結果である。相関係数は、0.46 であり、0.1%水準で正の相関がみられた。

表 4-8 近隣関係親密度と地域愛着度の相関係数（男女別）

	相関係数	p値	
男性 (n=114)	0.53	0.000	***
女性 (n=185)	0.43	0.000	***

***: p<0.001

表 4-8 は、近隣関係親密度と地域愛着度について男女別に相関分析をした結果である。男性 (n=114) と女性 (n=185) で別々に近隣関係親密度と地域愛着の相関係数をみると、男性は 0.53、女性は 0.43 となった。どちらも正の相関がみられたが、女性よりも男性のほうが相関関係は強かった。

表 4-9 近隣関係親密度と地域愛着度の相関係数（世代別）

	相関係数	p値	
20・30代 (n= 69)	0.41	0.001	**
40・50代 (n=159)	0.50	0.000	***
60・70代 (n= 72)	0.52	0.000	***

***: p<0.001 **: p<0.01

表4-9は、近隣関係親密度と地域愛着度について世代別に相関分析をした結果である。20・30代 (n=69)、40・50代 (n=159)、60・70代 (n=72) の近隣関係親密度と地域愛着の相関係数をみると、20・30代は0.41、40・50代は0.50、60・70代は0.52となった。すべての年齢層において正の相関がみられ、なかでも60・70代において相対的に強い相関がみられた。

以上のように、すべての分析において正の相関がみられ、近隣に親密な人がいる人はいない人よりも、地域に愛着をもっているということが確認された。近隣に親密な人がいるほど地域に愛着をもつということは、住民にとっての地域とは、ただそこにある道や建物といった都市構造物のみならず、そこに住む他者を含んでいると考えられる。

4. 3 近隣関係親密度と地域生活満足度の検討

4. 3. 1 地域生活に満足しているかの尺度化

地域生活に満足しているかについて、以下の14項目を尋ねた。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| a) 日常行動に便利 | h) まちの美しさ |
| b) 余暇行動に便利 | i) まちの静かさ |
| c) 移動に便利 | j) 治安のよさ |
| d) 自然の豊かさ | k) 地方自治体の行政サービスのよさ |
| e) 近隣住民との交流のしやすさ | l) 自然災害の少なさ |
| f) 家族や友人との交流のしやすさ | m) 緊急トラブル体制の整備 |
| g) 人口密度が適度 | n) 物価の安さ |

それぞれの項目について、「満足している」、「やや満足している」、「あまり満足していない」および「満足していない」の4件法で尋ねた。本章では、「満足している」を3点、「やや満足している」を2点、「あまり満足していない」を1点、「満足していない」を0点として総和を算出し、これを地域生活満足度とする。得点が高いほど、地域生活に満足していることを意味する。

総和を算出するにあたり、まず、信頼性係数を求めた。その結果クロンバックの α 係数は0.900で、0.7以上であったため、内的一貫性があると判断し、合成した。14項目の総和を算出し、合計得点が高いほど地域生活に満足しているという地域生活満足度を作成した。尺度の統計情報は次のとおりである。平均値27.89、標準偏差6.53、最小値4、最大値42、尖度0.67、歪度-0.28である。

4. 3. 2 近隣関係親密度と地域生活満足度の検討

4. 1. 2で作成した近隣関係親密度と前項で作成した地域生活満足度を用いて、仮説③「近隣に親密な人がいる人はいない人よりも、地域生活に満足している」を検証する。具体的には、近隣関係親密度と地域生活満足度の相関分析を行った。

表 4-10 近隣関係親密度と地域生活満足度の相関係数

	平均	標準偏差	相関係数	p値	
近隣関係親密度 (n=308)	5.31	5.18	0.32	0.000	***
地域生活満足度 (n=298)	27.89	6.54			

***: p<0.001

表 4-10 は、近隣関係親密度と地域生活満足度の相関分析の結果である。相関係数は、0.32 であり、0.1%水準で有意な弱い正の相関がみられた。

表 4-11 近隣関係親密度と地域生活満足度の相関係数（男女別）

		相関係数	p値	
男性	(n=107)	0.41	0.000	***
女性	(n=182)	0.27	0.000	***

***: p<0.001

表 4-11 は、近隣関係親密度と地域生活満足度を男女別に相関分析をした結果である。男性 (n=107) と女性 (n=182) で別々に近隣関係親密度と地域生活満足度の相関係数をみると、男性は 0.41、女性は 0.27 となった。どちらも正の相関がみられたが、女性よりも男性のほうが相関関係は強かった。

表 4-12 近隣関係親密度と地域生活満足度の相関係数（世代別）

		相関係数	p値	
20・30代	(n= 67)	0.25	0.043	*
40・50代	(n=155)	0.37	0.000	***
60・70代	(n= 68)	0.41	0.000	***

***: p<0.001 *: p<0.05

表 4-12 は、近隣関係親密度と地域生活満足度を世代別に相関分析を行った結果である。20・30代 (n=67)、40・50代 (n=155)、60・70代 (n=68) の近隣関係親密度と地域生活満足度の相関係数をみると、20・30代は 0.25、40・50代は 0.37、60・70代は 0.41 となった。すべてに正の相関がみられ、60・70代の相関関係が一番強かった。

以上のように、すべての分析において正の相関がみられ、近隣に親密な人がいる人はいない人よりも、地域生活に満足しているということが確認された。近隣に親密な人がいるほど地域生活に満足しているということは、住民にとっての地域とは、ただそこにある道や建物といった都市構造物のみならず、そこに住む他者を含んでいると考えられる。

4. 4 結論

地域活動への参加と近隣関係親密度の関係では、参加経験のある人のほうが近隣に親密な人がいることがわかった。男女別にみると、女性の参加経験あり群の近隣関係親密度が平均 8.18 と一番高く、世代別にみると 40・50 代の参加経験あり群が平均 7.64 と一番高かった。

近隣関係親密度と地域愛着度の関係では、近隣関係親密度が高いほど地域愛着度が高いことがわかった。男女別にみると、女性より男性のほうが相関関係は強く、世代別にみると 60・70 代の相関関係が一番強かった。

近隣関係親密度と地域満足度の関係では、近隣関係親密度が高いほど地域満足度が高いことがわかった。男女別にみると、女性より男性のほうが相関関係は強く、世代別に見ると 60・70 代の相関関係が一番強かった。

本章の分析では、地域活動への参加と近隣関係親密度、近隣関係親密度と地域愛着度、近隣関係親密度と地域生活満足度という 2 変数間にそれぞれ関連があることがわかった。しかし、今回の分析では地域活動への参加と近隣関係親密度と地域愛着度、また、地域活動への参加と近隣関係親密度と地域生活満足度という 3 変数間にはたしていかなる関連があるのかということは明らかになっていない。また、地域愛着度と地域生活満足度の関連も不明のままである。今後は上記 3 変数の相互の関連や、地域愛着度と地域満足度の差異や相互の関連について検討していくことが必要となるだろう。

第5章 地域生活満足度に影響する要因——居住年数と近隣関係との関連

藤田 拓也

本章では、居住年数と近所づきあいの程度の関連および、近所づきあいの程度と地域生活満足度について分析する。具体的には、以下の2つの仮説を検証する。

- ① 居住年数が長い人は短い人よりも、近所づきあいがある。
- ② 近所づきあいがある人はない人よりも、地域生活満足度が高い。

仮説①では居住年数を独立変数、近所づきあいの程度を従属変数とする。仮説②では近所づきあいの程度を独立変数、地域生活満足度を従属変数とする。

5. 1 居住年数と近所づきあいの関連

5. 1. 1 居住年数の分布

居住年数の分布をみる。その結果、平均値 13.9、中央値 14、最頻値 20、最大値 32、最小値 0.5（半年）であった。これらのサンプルを 10 年単位とする 3 つのグループに分けた。すなわち、「10 年未満」群、「10 年以上 20 年未満」群、「20 年以上」群である。「10 年未満」群は 105 人（33.1%）、「10 年以上 20 年未満」群は 131 人（41.3%）、「20 年以上」群は 73 人（23.0%）であった。

5. 1. 2 近所づきあいに関する基礎集計

近所づきあいについて尋ねた項目は、以下の 5 項目である。

- a) 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人
- b) 互いの家によく訪問し合う人
- c) よくおすそ分けし合う人
- d) 家族ぐるみのつきあいをしている人
- e) よく一緒に外出するような関係の人

調査票ではそれぞれの項目について「たくさんいる」、「数人いる」、「一人二人いる」および「いない」の 4 件法で尋ねた。ここでは、「たくさんいる」、「数人いる」および「一人二人いる」を「いる」群として統合し、分析に用いた。

次に性別と近所づきあいの有無の関連をみてみる（表 5-1）。

表5-1 近所づきあいと性別のクロス集計

			いる	いない	p値	
a) 庭先や道端でよく会うと 立ち話をする人	男性	(n=115)	60.0%	40.0%	0.059	†
	女性	(n=190)	71.1%	28.9%		
b) 互いの家によく訪問しあう人	男性	(n=115)	15.7%	84.3%	0.000	***
	女性	(n=190)	40.5%	59.5%		
c) よくおすそ分けしあう人	男性	(n=114)	34.2%	65.8%	0.000	***
	女性	(n=190)	57.4%	42.6%		
d) 家族ぐるみのつきあいを している人	男性	(n=115)	23.5%	76.5%	0.008	**
	女性	(n=190)	38.4%	61.6%		
e) よく一緒に外出するような人	男性	(n=115)	15.7%	84.3%	0.000	***
	女性	(n=190)	42.1%	57.9%		

***: p<0.001 ** p<0.01 †: p<0.10

立ち話をする人の有無について、男性は、「いる」が60.0%、「いない」が40.0%であった。女性は、「いる」が71.1%、「いない」が28.9%であった。訪問しあう人の有無について、男性は、「いる」が15.7%、「いない」が84.3%であった。女性は、「いる」が40.5%、「いない」が59.5%であった。おすそわけをする人の有無について、男性は、「いる」が34.2%、「いない」が65.8%であった。女性は、「いる」が57.4%、「いない」が42.6%であった。家族ぐるみの付き合いをする人の有無について、男性は、「いる」が23.5%、「いない」が76.5%であった。女性は、「いる」が38.4%、「いない」が61.6%であった。一緒に外出をする人の有無について、男性は、「いる」が15.7%、「いない」が84.3%であった。女性は、「いる」が42.1%、「いない」が57.9%であった。

5項目のすべてに、男女間で有意な差がみられた。いずれも、女性のほうが、男性よりも「いる」の割合が高かった。

次に世代と近所づきあいの有無の関連をみてみる（表5-2）。

表5-2 近所づきあいと世代別のクロス集計

		いる	いない	χ^2 値	p 値	
a) 庭先や道端でよく会うと 立ち話をする人	20・30代 (n= 69)	55.1%	44.9%	7.68	0.021	*
	40・50代 (n=160)	67.5%	32.5%			
	60・70代 (n= 77)	76.6%	23.4%			
b) 互いの家によく訪問しあう人	20・30代 (n= 69)	34.8%	65.2%	0.51	0.773	n.s.
	40・50代 (n=160)	30.0%	70.0%			
	60・70代 (n= 77)	31.2%	68.8%			
c) よくおすそ分けしあう人	20・30代 (n= 69)	39.1%	60.9%	3.60	0.165	n.s.
	40・50代 (n=160)	50.6%	49.4%			
	60・70代 (n= 76)	53.9%	46.1%			
d) 家族ぐるみのつきあいを している人	20・30代 (n= 69)	31.9%	68.1%	0.09	0.956	n.s.
	40・50代 (n=160)	33.8%	66.3%			
	60・70代 (n= 77)	32.5%	67.5%			
e) よく一緒に外出するような人	20・30代 (n= 69)	31.9%	68.1%	5.66	0.059	†
	40・50代 (n=160)	37.5%	62.5%			
	60・70代 (n= 77)	22.1%	77.9%			

*: p<0.05 †: p<0.10

立ち話をする人の有無について、20・30代では「いる」が55.1%、「いない」が44.9%、40・50代では「いる」が67.5%、「いない」が32.5%、60・70代では「いる」が76.6%、「いない」が23.4%であった。訪問しあう人の有無について、20・30代では「いる」が34.8%、「いない」が65.2%、40・50代では「いる」が30.0%、「いない」が70.0%、60・70代では「いる」が31.2%、「いない」が68.8%であった。おすそ分けをする人の有無について、20・30代では「いる」が39.1%、「いない」が60.9%、40・50代では「いる」が50.6%、「いない」が49.4%、60・70代では「いる」が53.9%、「いない」が46.1%であった。家族ぐるみの付き合いをする人の有無について、20・30代では「いる」が31.9%、「いない」が68.1%、40・50代では「いる」が33.8%、「いない」が66.3%、60・70代では「いる」が32.5%、「いない」が67.5%であった。一緒に外出をする人の有無について、20・30代では「いる」が31.9%、「いない」が68.1%、40・50代では「いる」が37.5%、「いない」が62.5%、60・70代では「いる」が22.1%、「いない」が77.9%であった。

5項目のうち、世代間で有意差がみられたのは、1項目であった。世代が上がるほど、立ち話をする人が「いる」傾向が確認された。

5. 1. 3 居住年数と近所づきあいの関連の検討

次に居住年数と近所づきあいの関連をみてみる（表5-3）。

5項目すべてにおいて、居住年数による差はないという結果になった。

表5-3 居住年数と近所づきあいのクロス集計

		いる	いない	χ^2 値	p 値	
a) 庭先や道端でよく会々と立ち話をする人	10年未満 (n=103)	63.1%	36.9%	3.78	0.151	n.s.
	10年以上20年未満 (n= 84)	63.1%	36.9%			
	20年以上 (n=115)	73.9%	26.1%			
b) 互いの家によく訪問しあう人	10年未満 (n=103)	33.0%	67.0%	0.24	0.888	n.s.
	10年以上20年未満 (n= 84)	29.8%	70.2%			
	20年以上 (n=115)	32.2%	67.8%			
c) よくおすそ分けしあう人	10年未満 (n=103)	46.6%	53.4%	2.42	0.298	n.s.
	10年以上20年未満 (n= 83)	44.6%	55.4%			
	20年以上 (n=115)	54.8%	45.2%			
d) 家族ぐるみのつきあいをしている人	10年未満 (n=103)	34.0%	66.0%	2.21	0.332	n.s.
	10年以上20年未満 (n= 84)	27.4%	72.6%			
	20年以上 (n=115)	37.4%	62.6%			
e) よく一緒に外出するような人	10年未満 (n=103)	33.0%	67.0%	0.88	0.645	n.s.
	10年以上20年未満 (n= 84)	28.6%	71.4%			
	20年以上 (n=115)	34.8%	65.2%			

次に近所づきあいの程度を点数化した。「たくさんいる」に3点、「数人いる」に2点、「一人二人いる」に1点、「いない」に0点を与え総和を算出し、近所づきあい度とする。総和を算出するにあたり、まず信頼性係数を求めた。クロンバック α 係数は0.89で、内的一貫性があると判断できる。作成した近所づきあい度の記述統計量は、以下のとおりである。

N=309、平均値 3.23、中央値 2.0、標準偏差 3.36、最小値 0、最大値 14、尖度 0.25、歪度 1.04。

居住年数（3群）を独立変数、近所づきあい度を従属変数とする一元配置分散分析を行った。

表 5-4 近所づきあい度

	平方和	df	平均平方	F	p 値
近所づきあい度	8.90	2	4.45	0.39	0.68 n.s.

その結果、平均値に有意な差は見られなかった（表 5-4）。

表 5-5 居住年数と近所づきあい度の分散分析

居住年数	N	近所づきあい度平均値	標準偏差
10年未満	103	3.24	3.53
10年以上20年未満	83	3.02	3.29
20年以上	115	3.45	3.33

居住年数ごとに近所づきあい度の平均を見てみると、10 年以上 20 年未満の近所づきあい度の平均値が最も低く、20 年以上の近所づきあい度の平均値が高いことがわかった（表 5-5）。

5. 2. 地域生活満足度

5. 2. 1 地域生活満足度の尺度化

地域生活満足度について尋ねた項目は、以下の 14 項目である。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| a) 日常行動に便利 | h) まちの美しさ |
| b) 余暇行動に便利 | i) まちの静かさ |
| c) 移動に便利 | j) 治安の良さ |
| d) 自然の豊かさ | k) 地方自治体の行政サービス |
| e) 近隣住民との交流のしやすさ | l) 自然災害の少なさ |
| f) 家族や友人との交流のしやすさ | m) 緊急トラブル体制の整備 |
| g) 人口密度が適切 | n) 物価の安さ |

それぞれの項目について「満足している」、「やや満足している」、「あまり満足していない」および「満足していない」の 4 件法で尋ねた。次に地域生活満足度の程度を点数化した。「満足している」に 3 点、「やや満足している」に 2 点、「あまり満足していない」に 1 点、「満足していない」に 0 点を与えた。総和を算出し、地域生活満足度を作成するにあたり α 係数を求めたところ、0.900 であった。そこで、14 項目を足し上げ、尺度化を行った。統計量は、平均値 27.9、中央値 28、標準偏差 6.53、最小値 4、最大値 42、尖度 0.67、歪度 0.28 となった。

5. 2. 2 近所づきあいの程度と地域生活満足度の関連の検討

近所づきあい度を高群、中程度群、低群の3群に分け、近所づきあい度を独立変数とし、地域満足度を従属変数とする一元配置分散分析を行った。

表5-6 近所づきあいの度と地域満足度の分散分析

近所づきあい度	N	地域生活満足度平均	標準偏差
高群	68	31.0147	5.96
中程度群	143	27.9021	6.04
低群	80	25.1875	6.93
F値 15.8	p値0.000		*:p<0.05

表5-6によると、分散分析の結果は、F値が15.8、p値が0.000、TukeyのHSD法を用いて多重比較を行った結果、近所づきあい度3群のすべての間に5%水準で有意差が示された。つまり、近所づきあいがある人のほうが地域生活満足度は高いという結果になった。

5. 3 結論

仮説①の「居住年数が長い人は短い人よりも、近所づきあいがある」を検証した結果、居住年数3群と近所づきあい度のあいだに有意な差がなく、このことから居住年数が長くても近所づきあいが多くなるとは言えないと考えられる。

仮説②の「近所づきあいがある人はない人よりも、地域生活満足度が高い」を検証した結果、近所づきあい度3群と地域満足度のあいだに有意な関連が認められ、近所づきあいがある人のほうが地域生活満足度は高いという結果が得られた。

第6章 地域生活満足度に影響する要因—地域の公共交通網の利用との関連

壽原 敦志

この章では、地域の公共交通網に対する満足度と地域生活満足度との関連について分析するため、地域の公共交通満足度（バス利用満足度+電車利用満足度）と自家用車の利用頻度を独立変数、地域生活への満足度を従属変数として、以下の2つの仮説を検証する。

- ① 地域の公共交通網に対する満足度が低い人は、高い人よりも、地域生活満足度が低い。
- ② 普段、自家用車を移動手段として利用していない人は、利用している人よりも、地域生活満足度が低い。

6. 1 地域公共交通網利用に関する基礎集計

「バスの利用頻度」は、「毎日」、「週に数回」、「月に数回」、「年に数回」および「まったく利用しない」の5項目を、「電車の利用駅」については「おゆみ野駅・学園前駅（京成線）」、「鎌取駅（JR線）」、「その他」および「利用しない」の4項目を使用して尋ねた。

「バスの利用満足度」は「バスの通る路線」、「バスの本数」、「バスの運賃」および「バスの正確性（時間通りに来るかどうか）」の4項目を、「電車の利用満足度」については、「電車の本数」、「運賃」および「自宅から駅までのアクセスのしやすさ」の3項目を使用し、「満足している」から「不満である」までの4件法で尋ねた。

表6-1 バスの利用頻度

毎日	(n= 15)	4.7%
週に数回	(n= 30)	9.5%
月に数回	(n= 80)	25.2%
年に数回	(n=140)	44.2%
まったく利用しない	(n= 52)	16.4%

表6-1はバスの利用頻度を集計した結果である。「毎日」が4.7%、「週に数回」が9.5%、「月に数回」が25.2%、「年に数回」が44.2%、「まったく利用しない」が16.4%であった。

表6-2 バスの利用頻度（男女別）

		毎日	週に数回	月に数回	年に数回	まったく 利用しない	χ^2 値	p値	
男性	(n=118)	7.6%	7.6%	25.4%	44.1%	15.3%	3.79	0.436	n.s.
女性	(n=194)	3.1%	10.3%	25.3%	44.8%	16.5%			

表6-2のとおり、バスの利用頻度について男女間では有意な差が見られなかった。

表6-3 バスの利用頻度（世代別）

	毎日	週に数回	月に数回	年に数回	まったく 利用しない	χ^2 値	p値	
20・30代 (n= 70)	8.6%	5.7%	25.7%	32.9%	27.1%	21.54	0.006	**
40・50代 (n=163)	4.9%	7.4%	25.2%	49.7%	12.9%			
60・70代 (n= 80)	1.3%	17.5%	25.0%	43.8%	12.5%			

**：p<0.01

表6-3のとおり、バスの利用頻度について世代間では有意な差が見られた。各世代ともに「年に数回」バスを利用している人が最も多く、20・30代は32.9%、40・50代は49.7%、60・70代は43.8%であった。20・30代は「まったく利用しない」という回答が27.1%あるのに対し、60・70代は「週に数回」が17.5%に達しており、若者世代よりも高齢者世代のほうがバスを利用する傾向にあることがわかった。

表6-4 バスの利用満足度

		満足している	どちらかといえば 満足している	どちらかといえば 不満である	不満である
バス利用満足度（路線）	(n=264)	39.4%	41.7%	14.0%	4.9%
バス利用満足度（本数）	(n=264)	25.0%	44.7%	19.7%	10.6%
バス利用満足度（運賃）	(n=264)	19.7%	48.1%	26.1%	6.1%
バス利用満足度（正確性）	(n=264)	21.2%	51.1%	20.8%	6.8%

表6-4のとおり、「バスの通る路線」について「満足している」が39.4%、「どちらかといえば満足している」が41.7%、「どちらかといえば不満である」が14.0%「不満である」が4.9%であった。「バスの本数」について「満足している」が25.0%、「どちらかといえば満足している」が44.7%、「どちらかといえば不満である」が19.7%、「不満である」が10.6%であった。「バスの運賃」について「満足している」が19.7%、「どちらかといえば満足している」が48.1%、「どちらかといえば不満である」が26.1%、「不満である」が6.1%であった。「バスの正確性（時間通りに来るかどうか）」について「満足している」が21.2%、「どちらかといえば満足している」が51.1%、「どちらかといえば不満である」が20.8%、「不満である」人が6.8%であった。

表6-5 バスの利用満足度（男女別）

			満足している	どちらかといえば 満足している	どちらかといえば 不満である	不満である	χ^2 値	p値	
バス利用満足度（路線）	男性 (n=100)	35.0%	47.0%	12.0%	6.0%	2.60	0.458	n.s.	
	女性 (n=161)	42.2%	38.5%	14.9%	4.3%				
バス利用満足度（本数）	男性 (n=100)	24.0%	44.0%	20.0%	12.0%	0.31	0.959	n.s.	
	女性 (n=161)	25.5%	44.7%	19.9%	9.9%				
バス利用満足度（運賃）	男性 (n=100)	16.0%	52.0%	26.0%	6.0%	1.63	0.653	n.s.	
	女性 (n=161)	21.7%	45.3%	26.7%	6.2%				
バス利用満足度（正確性）	男性 (n=100)	18.0%	58.0%	16.0%	8.0%	4.14	0.247	n.s.	
	女性 (n=161)	23.0%	47.2%	23.6%	6.2%				

表6-5のとおり、バスの利用満足度について男女間では有意な差は見られなかった。

表6-6 バスの利用満足度（世代別）

		満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	不満である	χ^2 値	p値	
バス利用満足度 (路線)	20・30代 (n= 51)	41.2%	39.2%	15.7%	3.9%	2.33	0.887	n.s.
	40・50代 (n=142)	37.3%	43.7%	12.7%	6.3%			
	60・70代 (n= 69)	43.5%	39.1%	14.5%	2.9%			
バス利用満足度 (本数)	20・30代 (n= 51)	15.7%	45.2%	23.5%	15.7%	0.17	0.010	*
	40・50代 (n=142)	22.5%	51.4%	15.5%	10.6%			
	60・70代 (n= 69)	37.7%	29.0%	26.1%	7.2%			
バス利用満足度 (運賃)	20・30代 (n= 51)	29.4%	35.3%	31.4%	3.9%	7.31	0.293	n.s.
	40・50代 (n=142)	16.9%	51.4%	23.9%	7.7%			
	60・70代 (n= 69)	18.8%	49.3%	27.5%	4.3%			
バス利用満足度 (正確性)	20・30代 (n= 51)	19.6%	33.3%	35.3%	11.8%	16.24	0.013	*
	40・50代 (n=142)	19.7%	54.2%	20.4%	5.6%			
	60・70代 (n= 69)	26.1%	58.0%	10.1%	5.8%			

*: p<0.05

表6-6のとおり、バスの利用満足度について世代間で見てみると、「バスの本数」と「バスの正確性（時間通りに来るかどうか）」の2項目について有意な差が見られた。

「バスの本数」について「満足している」は20・30代が15.7%、40・50代が22.5%、60・70代が37.7%と世代が上がるにつれて割合が高くなっている。「不満である」は20・30代が15.7%、40・50代が10.6%、60・70代が7.2%と世代が下がるにつれて割合が低くなっている。

「バスの正確性（時間通りに来るかどうか）」では「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合計すると20・30代が52.9%、60・70代が84.1%となり、「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合計すると20・30代が47.1%、60・70代が15.9%となる。若者世代は不満に感じており、高齢者世代は満足していることが分かった。

表6-7 電車の利用駅

おゆみ野駅・学園前駅（京成線）	(n= 87)	27.4%
鎌取駅（JR線）	(n=221)	69.7%
その他	(n= 2)	0.6%
利用しない	(n= 7)	2.2%

表6-7は日常生活を送るうえで最も利用する電車の利用駅について集計した結果である。「おゆみ野駅・学園前駅（京成線）」が87人（27.4%）、「鎌取駅（JR線）」が221人（69.7%）、「その他」が2人（0.6%）、「利用しない」が7人（2.2%）であった。

表 6-8 電車の利用駅（男女別）

		おゆみ野駅・学園前駅 (京成線)	鎌取駅 (JR線)	その他	利用しない	χ^2 値	p 値	
男性	(n=118)	31.4%	66.9%	0.0%	1.7%	2.65	0.450	n.s.
女性	(n=194)	27.6%	69.6%	0.6%	2.2%			

表 6-9 電車の利用駅（世代別）

		おゆみ野駅・学園前駅 (京成線)	鎌取駅 (JR線)	その他	利用しない	χ^2 値	p 値	
20・30代	(n= 70)	34.3%	60.0%	2.9%	2.9%	10.20	0.117	n.s.
40・50代	(n=163)	25.2%	72.4%	0.0%	2.5%			
60・70代	(n= 80)	26.3%	72.5%	0.0%	1.3%			

電車の利用駅については男女間（表 6-8）、世代間（表 6-9）で有意な差は見られなかった。

表 6-10 電車の利用満足度

		満足している	どちらかといえば 満足している	どちらかといえば 不満である	不満である
電車利用満足度（本数）	(n=303)	12.2%	34.3%	34.0%	19.5%
電車利用満足度（運賃）	(n=302)	14.6%	41.4%	28.1%	15.9%
電車利用満足度（アクセス）	(n=301)	15.6%	44.9%	29.2%	10.3%

表 6-10 のとおり、「電車の本数」について「満足している」が 12.2%、「どちらかといえば満足している」が 34.3%、「どちらかといえば不満である」が 34.0%、「不満である」が 19.5%であった。「電車の運賃」について「満足している」が 14.6%、「どちらかといえば満足している」が 41.4%、「どちらかといえば不満である」が 28.1%「不満である」が 15.9%であった。「電車のアクセス」について「満足している」が 15.6%、「どちらかといえば満足している」が 44.9%、「どちらかといえば不満である」が 29.2%「不満である」が 10.3%であった。

表 6-11 電車の利用満足度（男女別）

		満足している	どちらかといえば 満足している	どちらかといえば 不満である	不満である	χ^2 値	p 値	
電車利用満足度（本数）	男性 (n=113)	15.0%	36.3%	30.1%	18.6%	2.46	0.482	n.s.
	女性 (n=185)	10.3%	33.0%	36.2%	20.5%			
電車利用満足度（運賃）	男性 (n=113)	15.9%	35.4%	28.3%	20.4%	3.58	0.311	n.s.
	女性 (n=184)	14.1%	44.6%	27.7%	13.6%			
電車利用満足度（アクセス）	男性 (n=111)	16.2%	38.7%	32.4%	12.6%	2.75	0.431	n.s.
	女性 (n=185)	15.1%	48.1%	27.6%	9.2%			

表 6-11 のとおり、男女別で有意な差は見られなかった。

表 6-12 電車の利用満足度（世代別）

		満足している	どちらかといえば 満足している	どちらかといえば 不満である	不満である	χ^2 値	p値	
電車利用満足度 (本数)	20・30代 (n= 67)	14.9%	16.4%	38.8%	29.9%	25.83	0.000	***
	40・50代 (n=155)	37.3%	43.7%	12.7%	6.3%			
	60・70代 (n= 77)	43.5%	39.1%	14.5%	2.9%			
電車利用満足度 (運賃)	20・30代 (n= 67)	15.7%	45.2%	23.5%	15.7%	9.91	0.129	n.s.
	40・50代 (n=155)	22.5%	51.4%	15.5%	10.6%			
	60・70代 (n= 76)	37.7%	29.0%	26.1%	7.2%			
電車利用満足度 (アクセス)	20・30代 (n= 67)	29.4%	35.3%	31.4%	3.9%	18.91	0.004	**
	40・50代 (n=155)	16.9%	51.4%	23.9%	7.7%			
	60・70代 (n= 75)	18.8%	49.3%	27.5%	4.3%			

***: p<0.001 **: p<0.01

表 6-12 のとおり、電車の利用満足度について世代別で見ると、「電車の本数」と「電車の駅までのアクセスのしやすさ」の2項目で有意な差が見られた。

「電車の本数」については20・30代が14.9%、40・50代が37.3%、60・70代が43.5%「満足している」と回答しており、世代が上がるにつれて満足している人が多くなっている。一方で、20・30代が29.9%、40・50代が6.3%、60・70代が2.9%「不満である」と回答しており、世代が下がるにつれて不満である人が多くなっている。

「電車の駅までのアクセスのしやすさ」では20・30代が29.4%と一番多く「満足している」ことが分かった。

表 6-13 電車の利用満足度（利用駅別）

		満足している	どちらかといえば 満足している	どちらかといえば 不満である	不満である	χ^2 値	p値	
電車利用満足度 (本数)	おゆみ野駅・学園前駅 (京成線) (n= 86)	7.0%	25.6%	40.7%	26.7%	14.91	0.021	*
	鎌取駅 (JR線) (n=215)	14.0%	38.1%	31.6%	16.3%			
電車利用満足度 (運賃)	おゆみ野駅・学園前駅 (京成線) (n= 86)	2.3%	9.3%	45.3%	43.0%	116.22	0.000	***
	鎌取駅 (JR線) (n=214)	19.2%	54.7%	21.5%	4.7%			
電車利用満足度 (アクセス)	おゆみ野駅・学園前駅 (京成線) (n= 84)	19.0%	45.2%	27.4%	8.3%	3.98	0.680	n.s.
	鎌取駅 (JR線) (n=215)	14.0%	44.7%	30.2%	11.2%			

***: p<.001 *: p<.05

表 6-13 のとおり電車の利用駅別に電車の利用満足度について見ると、「電車の本数」と「電車の運賃」の2項目について有意な差が見られた。

「電車の本数」について、「おゆみ野駅・学園前駅（京成線）」では「満足している」が7.0%、「どちらかといえば満足している」が25.6%、「どちらかといえば不満である」が40.7%、「不満である」が26.7%、「鎌取駅（JR線）」では「満足している」が14.0%、「どちらかといえば満足している」が38.1%、「どちらかといえば不満である」が31.6%、「不満である」が16.3%である。

「電車の運賃」について、「おゆみ野駅・学園前駅（京成線）」では「満足している」が2.3%、「どちらかといえば満足している」が9.3%、「どちらかといえば不満である」が45.3%、「不満

である」が 43.0%、「鎌取駅（JR 線）」では「満足している」が 19.2%、「どちらかといえば満足している」が 54.7%、「どちらかといえば不満である」が 21.5%「不満である」が 4.7%である。

おゆみ野地域に住んでいても、「おゆみ野駅・学園前駅（京成線）」に対して利用満足度が低く、利用者も少ない。「鎌取駅（JR 線）」は利用満足度が高く、利用者が多いことが分かった。

6. 2 満足度の尺度化

6. 2. 1 バス利用満足度の尺度化

「バスの利用満足度」を尋ねる「バスの通る路線」、「バスの本数」、「バスの運賃」および「バスの正確性（時間通りに来るかどうか）」の 4 項目を利用して、「バス利用満足度」尺度を作成する。

「満足している」に 3 点、「どちらかといえば満足している」に 2 点、「どちらかといえば不満である」に 1 点、「不満である」に 0 点を与えた。信頼性係数は 0.74 であり、内的一貫性があると判断できる。平均値 7.68、標準偏差 2.56、最小値 0、最大値 12、尖度-0.14、歪度-0.17 であった。

6. 2. 2 電車利用満足度の尺度化

電車の利用満足度を尋ねる「電車の本数」「運賃」および「自宅から駅までのアクセスのしやすさ」の 3 項目を利用して、「電車利用満足度」尺度を作成する。「満足している」に 3 点、「どちらかといえば満足している」に 2 点、「どちらかといえば不満である」に 1 点、「不満である」に 0 点を与えた。信頼性係数は 0.68 であったが、内的一貫性があると判断できる。平均値 4.62、標準偏差 2.12、最小値 0、最大値 9、尖度-0.33、歪度 0.02 であった。

6. 2. 3 地域生活満足度の尺度化

地域生活満足度を測定する質問項目は、以下の 14 項目である

- | | |
|-------------------|--------------------|
| a) 日常行動に便利 | h) まちの美しさ |
| b) 余暇行動に便利 | i) まちの静かさ |
| c) 移動に便利 | j) 治安のよさ |
| d) 自然の豊かさ | k) 地方自治体の行政サービスのよさ |
| e) 近隣住民との交流のしやすさ | l) 自然災害の少なさ |
| f) 家族や友人との交流のしやすさ | m) 緊急トラブル体制の整備 |
| g) 人口密度が適度 | n) 物価の安さ |

これらの項目を利用して、「地域生活満足度」尺度を作成する。「満足している」に 3 点、「やや満足している」に 2 点、「あまり満足していない」に 1 点、「満足していない」に 0 点を与えた。信頼性係数は 0.90 であり、内的一貫性があると判断した。平均値 27.9、標準偏差 6.54、最小値 4、最大値 42、尖度 0.67、歪度-0.28 であった。

なお、地域生活満足度尺度を構成する尺度のうち「移動に便利」は本章以下で分析する地域公共交通網との意味的重複がある。したがって、当該項目を除外した分析と含んだ分析の双方を行った。その結果、統計的な差異が確認されなかったため、「移動に便利」を含んだ尺度を分析に用いることにした。

6. 3 地域公共交通網利用満足度と地域生活満足度の関連

本項では、バス利用満足度と地域生活満足度との関連を分析し、次に、電車利用満足度と地域生活満足度の関連を分析する。その上で、地域公共交通網利用満足度と地域生活満足度との関連を明らかにする。地域公共交通利用満足度は、バス利用満足度と電車利用満足度を足したものである。

6. 3. 1 バス利用満足度と地域生活満足度の関連

バス利用満足度を「バス利用満足度低群」、「バス利用満足度中程度群」および「バス利用満足度高群」の3群に分け、独立変数とし、地域生活満足度を従属変数とする一元配置分散分析を行った。

表 6-13 バス利用満足度と地域生活満足度の分散分析表

地域生活満足度	平方和	自由度	平均平方	F	***
バス利用満足度	1465.17	2	732.59	20.35	

***: $p < 0.001$

表 6-14 バス利用満足度と地域生活満足度の多重比較

バス利用満足度	地域生活満足度平均	
バス利用満足度低群	25.12	** ***
バス利用満足度中程度群	27.13	
バス利用満足度高群	30.97	

***: $p < 0.001$ **: $p < 0.01$

表 6-13 より、地域生活満足度の平均値において有意な差が見られた。表 6-14 より「バス利用満足度低群」と「バス利用満足度高群」、「バス利用満足度低群」と「バス利用満足度中程度群」、「バス利用満足度中程度群」と「バス利用満足度高群」との間に有意な差が見られた。バス利用満足度が高い人は低い人よりも地域生活満足度が高いといえる。

6. 3. 2 電車利用満足度と地域生活満足度の関連

電車利用満足度を「電車利用満足度低群」、「電車利用満足度中程度群」および「電車利用満足度高群」の3群に分け、独立変数とし、地域生活満足度を従属変数とする一元配置分散分析を行った。

表 6-15 電車利用満足度と地域生活満足度の分散分析表

地域生活満足度	平方和	自由度	平均平方	F	***
電車利用満足度	1796.90	2	898.45	24.08	

***: $p < 0.001$

表 6-16 電車利用満足度と地域生活満足度の多重比較

電車利用満足度	地域生活満足度平均	
電車利用満足度低群	24.67	
電車利用満足度中程度群	27.76	
電車利用満足度高群	30.91	

***: $p < 0.001$ **: $p < 0.01$

表 6-15 より、地域生活満足度の平均値において有意な差が見られた。

表 6-16 より「電車利用満足度低群」と「電車利用満足度高群」、「電車利用満足度低群」と「電車利用満足度中程度群」、「電車利用満足度中程度群」と「電車利用満足度高群」との間に有意な差が見られた。電車利用満足度が高い人は低い人よりも地域生活満足度が高いといえる。

6. 3. 3 地域公共交通網利用満足度と地域生活満足度の関連

地域公共交通網利用満足度を「地域公共交通網利用満足度低群」、「地域公共交通網利用満足度中程度群」および「地域公共交通網利用満足度高群」の 3 群に分け、独立変数として、地域生活満足度を従属変数とする一元配置分散分析を行った。

表 6-17 地域公共交通網利用満足度と地域生活満足度の分散分析表

地域生活満足度	平方和	自由度	平均平方	F	***
地域公共交通網利用満足度	1733.58	2	866.79	24.48	

*** : $p < 0.001$

表 6-17 より、地域生活満足度の平均値において有意な差が見られた。

表 6-18 地域公共交通網利用満足度と地域生活満足度の多重比較

地域公共交通網利用満足度	地域生活満足度平均	
地域公共交通網利用満足度低群	24.88	
地域公共交通網利用満足度中程度群	27.38	
地域公共交通網利用満足度高群	31.56	

***: $p < 0.001$ **: $p < 0.01$ *: $p < 0.05$

表6-18より「地域公共交通網利用満足度低群」と「地域公共交通網利用満足度高群」、「地域公共交通網利用満足度低群」と「地域公共交通網利用満足度中程度群」、「地域公共交通網利用満足度中程度群」と「地域公共交通網利用満足度高群」との間に有意な差がみられた。地域公共交通網利用満足度が高い人は低い人よりも地域生活満足度が高いといえる。

6. 4 自家用車利用頻度と地域生活満足度の関連

6. 4. 1 自家用車利用頻度に対する基礎集計

「自家用車の利用頻度」は、「毎日」、「週に数回」、「月に数回」、「年に数回」および「まったく利用しない」の5項目を使用して尋ねた。

表6-19 自家用車の利用頻度

毎日	(n=157)	49.7%
週に数回	(n=101)	32.0%
月に数回	(n= 38)	12.0%
年に数回	(n= 7)	2.2%
まったく利用しない	(n= 13)	4.1%

表6-19は自家用車の利用頻度を集計した結果である。「毎日」が49.7%、「週に数回」が32.0%、「月に数回」が12.0%、「年に数回」が2.2%、「まったく利用しない」が4.1%であった。また、自家用車の利用頻度は性別、世代別ともに有意な差は見られなかった。

6. 4. 2 自家用車利用頻度のカテゴリー化

「自家用車利用頻度」をカテゴリー化するにあたり、「毎日」はそのまま使用した。「週に数回」「月に数回」、「年に数回」および「まったく利用しない」を「週に数回以下」に統合して2群にした。その上で、地域生活満足度との関連をみた。

表6-20より「毎日」と「週に数回以下」の2群の間で地域生活満足度の平均値に統計的に有意な差は見られなかった。

表6-20 自家用車利用頻度と地域生活満足度の t 検定

		平均	標準偏差	t値	p値	
毎日	(n=148)	27.90	6.49	0.02	0.980	n.s.
週に数回以下 (まったく利用しないを含む)	(n=150)	27.88	6.61			

表6-21より「毎日」と「週に数回以下」の2群の間で地域公共交通利用満足度の平均値に統計的に有意な差は見られなかった。

表 6-21 自家用車利用頻度と地域公共交通網利用満足度の t 検定

		平均	標準偏差	t 値	p 値	
毎日	(n=123)	12.68	4.16	1.44	0.151	n.s.
週に数回以下 (まったく利用しないを含む)	(n=133)	11.93	4.18			

6. 5 考察

本章では、バス・電車利用の実態や満足度に注目した。その結果、バス利用満足度が低い人は高い人よりも地域生活満足度が低く、電車利用満足度が低い人は高い人よりも地域生活満足度が低いことが分かり、仮説①「地域の公共交通網に対する満足度が低い人は高い人よりも、地域生活満足度が低い」は仮説通りの結果となった。

バスは、若者世代よりも高齢者世代のほうを利用している傾向があり、「バスの本数」と「バスの正確性（時間通りに来るかどうか）」について、若者世代よりも高齢者世代のほうに満足していることが背景にある。

電車利用は、世代別で見ると、「電車の本数」は若者世代よりも高齢者世代のほうに満足しており、「電車の駅までのアクセスのしやすさ」については高齢者世代よりも若者世代のほうに満足している傾向があった。利用駅別で見ると、「電車の本数」と「電車の運賃」について、「おゆみ野駅・学園前駅（京成線）」と「鎌取駅（JR 線）」では利用満足度に大きな差があり、「おゆみ野駅・学園前駅（京成線）」は利用満足度が低く、「鎌取駅（JR 線）」は利用満足度が高いことから「鎌取駅（JR 線）」を利用する人が多いと考えられる。ただし、公共交通網、地域生活満足度には世代差があるので、疑似相関の可能性はある。

仮説②「普段、自家用車を移動手段として利用していない人は利用している人よりも、地域生活満足度が低い」を検証した結果、自家用車の利用頻度と地域生活に対する満足度とのあいだに関連は見られず、また、自家用車の利用頻度と地域公共交通網満足度とのあいだにも関連は見られなかった。

なお、今回の調査では自家用車の利用頻度までは聞くことができたが、利用している人達の利用用途までは聞くことができなかった。「通勤・通学のため」なのか、「利用駅まで乗っていくため」なのかなどによって地域生活満足度、地域公共交通満足度は変わってくると推測される。より一層、地域住民の意識を把握するために、利用者の利用用途別で調査することが今後の課題となるだろう。

第7章 近隣関係と災害不安との関連

郡司 朋哉

この章では、普段の近所づきあいの程度や災害時に頼れる人の有無といった近隣関係と、地域の災害に対する不安感の関連について分析する。検証する仮説は以下の2つである。

- ① 普段の近所づきあいが少ない人は多い人よりも、地域の災害に対して不安感が強い。
- ② 災害時に頼れる人がいない人はいる人よりも、地域の災害に対して不安感が強い。

7. 1 普段の近所づきあいの程度や災害時に頼れる人の有無に関する基礎集計

7. 1. 1 普段の近所づきあいの程度に関する基礎集計と尺度化

普段の近所づきあいについて尋ねた項目は、以下の5項目である。

- a) 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人
- b) 互いの家によく訪問し合う人
- c) よくおすそ分けし合う人
- d) 家族ぐるみのつきあいをしている人
- e) よく一緒に外出するような関係の人

回答は「たくさんいる」、「数人いる」、「一人二人いる」および「いない」の4件法で得た。

表7-1 普段の近所づきあい

		たくさんいる	数人いる	一人二人いる	いない
a)庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	(n=310)	4.8%	35.2%	27.1%	32.9%
b)互いの家によく訪問し合う人	(n=310)	1.6%	12.3%	17.4%	68.7%
c)よくおすそ分けし合う人	(n=309)	0.6%	18.4%	29.4%	51.5%
d)家族ぐるみのつきあいをしている人	(n=310)	1.3%	13.2%	18.4%	67.1%
e)よく一緒に外出するような関係の人	(n=310)	1.6%	11.6%	18.7%	68.1%

表7-1は、普段の近所づきあいを示している。

「庭先や道端で会うとよく立ち話をする人」は、「たくさんいる」が4.8%、「数人いる」が35.2%、「一人二人いる」が27.1%、「いない」が32.9%である。

「互いの家によく訪問し合う人」では、「たくさんいる」が1.6%、「数人いる」が12.3%、「一人二人いる」が17.4%、「いない」が68.7%である。

「よくおすそ分けし合う人」では、「たくさんいる」が0.6%、「数人いる」が18.4%、「一人二人いる」が29.4%、「いない」が51.5%である。

「家族ぐるみのつきあいをしている人」では、「たくさんいる」が1.3%、「数人いる」が13.2%、「一人二人いる」が18.4%、「いない」が67.1%である。

「よく一緒に外出するような関係の人」では、「たくさんいる」が1.6%、「数人いる」が11.6%、「一人二人いる」が18.7%、「いない」が68.1%である。

このように、立ち話をする人が「いない」者は3割程度であるのに対して、互いの家を訪問し合う人や、家族ぐるみの付き合いをする人、一緒に外出するような関係の人が「いない」者は7割近くになっている。この地域では、比較的長い時間を共有することになる近所づきあいはあまりなされていない、ということになるだろう。

表7-2 普段の近所づきあい（男女別）

			数人以上いる	一人二人いる	いない	χ^2 値	p 値	
a)庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	男性 (n=115)		25.2%	34.8%	40.0%	15.52	0.000	***
	女性 (n=190)		47.9%	23.2%	28.9%			
b)互いの家によく訪問し合う人	男性 (n=115)		7.0%	8.7%	84.3%	20.67	0.000	***
	女性 (n=190)		17.9%	22.6%	59.5%			
c)よくおすそ分けし合う人	男性 (n=114)		10.5%	23.7%	65.8%	16.60	0.000	***
	女性 (n=190)		24.2%	33.2%	42.6%			
d)家族ぐるみのつきあいをしている人	男性 (n=115)		7.0%	16.5%	76.5%	9.86	0.007	**
	女性 (n=190)		18.9%	19.5%	61.6%			
e)よく一緒に外出するような関係の人	男性 (n=115)		5.2%	10.4%	84.3%	23.32	0.000	***
	女性 (n=190)		17.9%	24.2%	57.9%			

***: $p < 0.001$ **: $p < 0.01$

表7-2は、普段の近所づきあいを男女別に検討したものである。なお、各項目とも「たくさんいる」と回答した者は少なかったため、「たくさんいる」と「数人いる」を「数人以上いる」に統合して分析した。

「庭先や道端で会うとよく立ち話をする人」は、男性は、「数人以上いる」が25.2%、「一人二人いる」が34.8%、「いない」が40.0%である。女性は、「数人以上いる」が47.9%、「一人二人いる」が23.2%、「いない」が28.9%である。

「互いの家によく訪問し合う人」では、男性は、「数人以上いる」が7.0%、「一人二人いる」が8.7%、「いない」が84.3%である。女性は、「数人以上いる」が17.9%、「一人二人いる」が22.6%、「いない」が59.5%である。

「よくおすそ分けし合う人」では、男性は、「数人以上いる」が10.5%、「一人二人いる」が23.7%、「いない」が65.8%である。女性は「数人以上いる」が24.2%、「一人二人いる」が33.2%、「いない」が42.6%である。

「家族ぐるみのつきあいをしている人」は、男性は、「数人以上いる」が7.0%、「一人二人いる」が16.5%、「いない」が76.5%である。女性は「数人以上いる」が18.9%、「一人二人いる」が19.5%、「いない」が61.6%である。

「よく一緒に外出するような関係の人」は、男性は、「数人以上いる」が5.2%、「一人二人いる」が10.4%、「いない」が84.3%である。女性は「数人以上いる」が17.9%、「一人二人いる」が24.2%、

「いない」が57.9%である。

5項目すべてにおいて男女間に有意な差が確認された。女性は男性よりも近所づきあいをしていることが明らかになった。

表7-3 普段の近所づきあい（世代別）

		数人以上いる	一人二人いる	いない	χ^2 値	p値	
a) 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	20・30代 (n= 69)	34.8%	20.3%	44.9%	16.17	0.003	**
	40・50代 (n=160)	44.4%	23.1%	32.5%			
	60・70代 (n= 77)	33.8%	42.9%	23.4%			
b) 互いの家によく訪問し合う人	20・30代 (n= 69)	17.4%	17.4%	65.2%	1.00	0.910	n.s.
	40・50代 (n=160)	12.5%	17.5%	70.0%			
	60・70代 (n= 77)	14.3%	16.9%	68.8%			
c) よくおすそ分けし合う人	20・30代 (n= 69)	17.4%	21.7%	60.9%	6.29	0.178	n.s.
	40・50代 (n=160)	21.9%	28.8%	49.4%			
	60・70代 (n= 76)	15.8%	38.2%	46.1%			
d) 家族ぐるみのつきあいをしている人	20・30代 (n= 69)	17.4%	14.5%	68.1%	2.59	0.629	n.s.
	40・50代 (n=160)	15.6%	18.1%	66.3%			
	60・70代 (n= 77)	10.4%	22.1%	67.5%			
e) よく一緒に外出するような関係の人	20・30代 (n= 69)	13.0%	18.8%	68.1%	6.72	0.152	n.s.
	40・50代 (n=160)	16.9%	20.6%	62.5%			
	60・70代 (n= 77)	6.5%	15.6%	77.9%			

**：p<0.01

表7-3は、回答者の年齢を20・30代、40・50代、60・70代の3世代に分け、普段の近所づきあいの程度とクロス集計したものである。なお、性別とのクロス集計と同様に、「たくさんいる」という回答者が少なかったため、「たくさんいる」と「数人いる」を「数人以上いる」に統合して分析した。

「庭先や道端で会うとよく立ち話をする人」の20・30代は、「数人以上いる」が34.8%、「一人二人いる」が20.3%、「いない」が44.9%である。40・50代は、「数人以上いる」が44.4%、「一人二人いる」が23.1%、「いない」が32.5%である。60・70代は、「数人以上いる」が33.8%、「一人二人いる」が42.9%、「いない」が23.4%である。

「互いの家によく訪問し合う人」の20・30代は、「数人以上いる」が17.4%、「一人二人いる」が17.4%、「いない」が65.2%である。40・50代は、「数人以上いる」が12.5%、「一人二人いる」が17.5%、「いない」が70.0%である。60・70代は、「数人以上いる」が14.3%、「一人二人いる」が16.9%、「いない」が68.8%である。

「よくおすそ分けし合う人」の20・30代は、「数人以上いる」が17.4%、「一人二人いる」が21.7%、「いない」が60.9%である。40・50代は、「数人以上いる」が21.9%、「一人二人いる」が28.8%、「いない」が49.4%である。60・70代は、「数人以上いる」が15.8%、「一人二人いる」が38.2%、「いない」が46.1%である。

「家族ぐるみのつきあいをしている人」の20・30代は、「数人以上いる」が17.4%、「一人二人いる」が14.5%、「いない」が68.1%である。40・50代は、「数人以上いる」が15.6%、「一人二人いる」が18.1%、「いない」が66.3%である。60・70代は、「数人いる」が6.5%、「一人二人い

る」が10.4%、「いない」が67.5%である。

「よく一緒に外出するような関係の人」の20・30代は、「数人以上いる」が13.0%、「一人二人いる」が18.8%、「いない」が68.1%である。40・50代は、「数人以上いる」が16.9%、「一人二人いる」が20.6%、「いない」が62.5%である。60・70代は、「数人以上いる」が6.5%、「一人二人いる」が15.6%、「いない」が77.9%である。

「立ち話」の項目でのみ、有意な世代差がみられた。立ち話をする人が「いない」という回答は若年層ほど多い。ただし、「数人以上いる」者は、高齢層よりも中年層のほうが多く、高齢層ほど立ち話をする相手が多いという関係性ではないことがわかる。

7. 1. 2 災害時に頼れる人の有無に関する基礎集計

災害時に頼れる人の有無について尋ねた項目は、以下の3項目である。

- f) 災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人
- g) 災害時に家族員の誰か（ペットを含む）を1～2時間任せられる人
- h) 災害時に安否が気になる人

回答は「たくさんいる」、「数人いる」、「一人二人いる」および「いない」の4件法で得た。

表7-4 災害時に頼れる人

		たくさんいる	数人いる	一人二人いる	いない
f)災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人	(n=310)	0.3%	17.4%	32.3%	50.0%
g)災害時に家族員の誰か(ペットを含む)を1～2時間任せられる人	(n=309)	1.0%	12.0%	28.5%	58.6%
h) 災害時に安否が気になる人	(n=309)	4.9%	22.7%	28.5%	44.0%

表7-4のとおり、「災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人」や「災害時に家族員の誰かを1～2時間任せられる人」が「たくさんいる」者は非常に少なく、5割から6割の者は「いない」と回答している。

表7-5 災害時に頼れる人の有無（男女別）

			いる	いない	p 値	
f)災害時に自宅周辺の様子を 教えてくれる人	男性	(n=115)	39.1%	60.9%	0.003	**
	女性	(n=190)	56.8%	43.2%		
g)災害時に家族員の誰か(ペットを 含む)を1～2時間任せられる人	男性	(n=115)	30.4%	69.6%	0.003	**
	女性	(n=189)	48.1%	51.9%		
h) 災害時に安否が気になる人	男性	(n=115)	47.8%	52.2%	0.043	*
	女性	(n=189)	60.3%	39.7%		

**: p<0.01 *: p<0.05

表7-5は、災害時に頼れる人の有無を男女別でクロス集計し、フィッシャーの正確検定を行った結果である。

「災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人」は、男性は「いる」が39.1%、「いない」が60.9%であり、女性は「いる」が56.8%、「いない」が43.2%である。

「災害時に家族員の誰か(ペットを含む)を1～2時間任せられる人」は、男性は「いる」が30.4%、「いない」が69.6%であり、女性は「いる」が48.1%、「いない」が51.9%である。

「災害時に安否が気になる人」は、男性は「いる」が47.8%、「いない」が52.2%であり、女性は「いる」が60.3%、「いない」が39.7%である。

いずれの項目も男女間で有意な差があり、女性は男性よりも頼れる人がいるという結果である。

表7-6 災害時に頼れる人の有無（世代別）

			いる	いない	χ^2 値	p 値	
f) 災害時に自宅周辺の様子を 教えてくれる人	20・30代 (n= 69)		34.8%	65.2%	9.00	0.011	***
	40・50代 (n=160)		56.3%	43.8%			
	60・70代 (n= 77)		51.9%	48.1%			
g) 災害時に家族員の誰か(ペットを 含む)を1～2時間任せられる人	20・30代 (n= 69)		31.9%	68.1%	5.34	0.069	**
	40・50代 (n=160)		47.5%	52.5%			
	60・70代 (n= 76)		38.2%	61.8%			
h) 災害時に安否が気になる人	20・30代 (n= 69)		46.4%	53.6%	3.19	0.203	*
	40・50代 (n=160)		58.1%	41.9%			
	60・70代 (n= 76)		59.2%	40.8%			

*: p<0.05

表7-6は、回答者の年齢を20・30代、40・50代、60・70代の3世代に分け、災害時に頼れる人の有無とクロス集計したものである。なお、分析に際して、「たくさんいる」と「数人いる」を「いる」に統合し、「一人二人いる」と「いない」を「いない」に統合した。

「災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人」の20・30代は「いる」が34.8%、「いない」が65.2%である。40・50代は「いる」が56.3%、「いない」が43.8%である。60・70代は「いる」が51.9%、「いない」が48.1%である。

「災害時に家族員の誰か(ペットを含む)を1～2時間任せられる人」の20・30代は「いる」が31.9%、「いない」が68.1%である。40・50代は「いる」が47.5%、「いない」が52.5%である。60・70代は「いる」が38.2%、「いない」が61.8%である。

「災害時に安否が気になる人」の20・30代は「いる」が46.4%、「いない」が53.6%である。40・50代は「いる」が58.1%、「いない」が41.9%である。60・70代は「いる」が59.2%、「いない」が40.8%である。

「災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人」の有無についてのみ、有意な世代差が確認された。若年層は中・高年層に比べて、こうした行動をしてくれる人がいない傾向が明らかになった。

7. 2 災害不安に関する基礎集計

災害不安について尋ねた項目は、以下の5項目である。

- a) 家族と連絡が取れなくなること
- b) 正確な情報が得られなくなること
- c) 住居の一部が破損すること
- d) ケガで他者の手助けが必要になること
- e) 避難所で集団生活すること

回答は、「強い不安を感じる」、「不安を感じる」、「不安を感じない」の3件法で得た。本章では、不安の強さに注目し、強い不安か否かで二分することとした。具体的には、「不安を感じる」と「不安を感じない」を統合し、「強い不安を感じる」と比較する。

表 7-7 災害不安

		強い不安を感じる	不安を感じる・感じない
a)家族と連絡が取れなくなること	(n=309)	68.9%	31.1%
b)正確な情報が得られなくなること	(n=309)	53.1%	46.9%
c)住居の一部が破損すること	(n=309)	45.0%	55.0%
d)ケガで他者の手助けが必要になること	(n=308)	43.8%	56.2%
e)避難所で集団生活すること	(n=309)	51.1%	48.9%

集計の結果、表 7-7 のとおり、「家族と連絡が取れなくなること」と「正確な情報が得られなくなること」、「避難所で集団生活すること」という項目では、半分以上の人が強い不安を感じていることがわかった。「家族と連絡が取れなくなること」では 68.9%、「正確な情報が得られなくなること」では 53.1%、「避難所で集団生活すること」では 51.1%、の人が強い不安を感じていた。

「住居の一部が破損すること」と「ケガで他者の手助けが必要になること」でも強い不安を感じる者は少なくなく、4割を超えていた。

表 7-8 は、災害不安を男女別でクロス集計し、フィッシャーの正確検定を行った結果である。

「家族と連絡が取れなくなること」について、男性は「強い不安を感じる」が 55.7%、「不安を感じる・感じない」が 44.3%である。女性は「強い不安を感じる」が 76.7%、「不安を感じる・感じない」が 23.3%である。

「正確な情報が得られなくなること」について、男性は「強い不安を感じる」が 42.6%、「不安を感じる・感じない」が 57.4%である。女性は「強い不安を感じる」が 59.3%、「不安を感じる・感じない」が 40.7%である。

「住居の一部が破損すること」について、男性は「強い不安を感じる」が 32.2%、「不安を感じる・感じない」が 67.8%である。女性は「強い不安を感じる」が 52.9%、「不安を感じる・感じない」が 47.1%である。

い」が47.1%である。

「ケガで他者の手助けが必要になること」について、男性は「強い不安を感じる」が25.2%、「不安を感じる・感じない」が74.8%である。女性は「強い不安を感じる」が52.9%、「不安を感じる・感じない」が47.1%である。

「避難所で集団生活すること」について、男性は「強い不安を感じる」が34.8%、「不安を感じる・感じない」が65.2%である。女性は「強い不安を感じる」が61.4%、「不安を感じる・感じない」が38.6%である。

全ての項目について、性差がみられた。女性は男性よりも災害に対して強い不安を感じているといえる。

表 7-8 災害不安（男女別）

			強い不安を感じる	不安を感じる・感じない	p 値	
a)家族と連絡が取れなくなる こと	男性	(n=115)	55.7%	44.3%	0.000	***
	女性	(n=189)	76.7%	23.3%		
b)正確な情報が得られなく なること	男性	(n=115)	42.6%	57.4%	0.006	**
	女性	(n=189)	59.3%	40.7%		
c)住居の一部が破損する こと	男性	(n=115)	32.2%	67.8%	0.001	**
	女性	(n=189)	52.9%	47.1%		
d)ケガで他者の手助けが 必要になること	男性	(n=115)	25.2%	74.8%	0.000	***
	女性	(n=188)	52.9%	47.1%		
e)避難所で集団生活する こと	男性	(n=115)	34.8%	65.2%	0.000	***
	女性	(n=189)	61.4%	38.6%		

***: p<0.001 ** : p<0.01

表 7-9 は、災害不安について、世代別にクロス集計したものである。

「家族と連絡が取れなくなること」の 20・30 代は「強い不安を感じる」が 84.1%、「不安を感じる・感じない」が 15.9%である。40・50 代は「強い不安を感じる」が 69.2%、「不安を感じる・感じない」が 30.8%である。60・70 代は「強い不安を感じる」が 54.5%、「不安を感じる・感じない」が 45.5%である。

「正確な情報が得られなくなること」の 20・30 代は「強い不安を感じる」が 47.8%、「不安を感じる・感じない」が 52.2%である。40・50 代は「強い不安を感じる」が 57.9%、「不安を感じる・感じない」人は 42.1%である。60・70 代は「強い不安を感じる」が 48.1%、「不安を感じる・感じない」が 51.9%である。

「住居の一部が破損すること」の 20・30 代は「強い不安を感じる」が 47.8%、「不安を感じる・感じない」人は 52.2%である。40・50 代は「強い不安を感じる」が 49.7%「不安を感じる・感じない」が 50.3%である。60・70 代は「強い不安を感じる」が 33.8%、「不安を感じる・感じない」人は 66.2%である。

「ケガで他者の手助けが必要になること」の 20・30 代は「強い不安を感じる」が 49.3%、「不安

を感じる・感じない」が50.7%である。40・50代は「強い不安を感じる」が48.4%「不安を感じる・感じない」が51.6%である。60・70代は「強い不安を感じる」が30.3%、「不安を感じる・感じない」が69.7%である

「避難所で集団生活すること」の20・30代は「強い不安を感じる」が59.4%、「不安を感じる・感じない」が40.6%である。40・50代は「強い不安を感じる」が54.7%、「不安を感じる・感じない」人は45.3%である。60・70代は「強い不安を感じる」が36.4%、「不安を感じる・感じない」が63.6%である。

3つの項目で有意な世代差が確認された。「家族と連絡が取れなくなること」（1%有意）「ケガで他者の手助けが必要になること」（5%有意）「避難所で集団生活すること」（1%有意）は、いずれも若年層のほうが中高年層よりも強い不安を感じている人が多い傾向がある。

表7-9 災害不安（世代別）

		強い不安を感じる	不安を感じる・感じない	χ^2 値	p 値	
a) 家族と連絡が取れなくなる こと	20・30代 (n= 69)	84.1%	15.9%	14.80	0.001	**
	40・50代 (n=159)	69.2%	30.8%			
	60・70代 (n= 77)	54.5%	45.5%			
b) 正確な情報が得られ なくなること	20・30代 (n= 69)	47.8%	52.2%	3.01	0.222	n.s.
	40・50代 (n=159)	57.9%	42.1%			
	60・70代 (n= 77)	48.1%	51.9%			
c) 住居の一部が破損する こと	20・30代 (n= 69)	47.8%	52.2%	5.55	0.062	†
	40・50代 (n=159)	49.7%	50.3%			
	60・70代 (n= 77)	33.8%	66.2%			
d) ケガで他者の手助けが 必要になること	20・30代 (n= 69)	49.3%	50.7%	7.86	0.020	*
	40・50代 (n=159)	48.4%	51.6%			
	60・70代 (n= 76)	30.3%	69.7%			
e) 避難所で集団生活する こと	20・30代 (n= 69)	59.4%	40.6%	9.440	0.009	**
	40・50代 (n=159)	54.7%	45.3%			
	60・70代 (n= 77)	36.4%	63.6%			

**：p<0.01 *：p<0.05 †：p<0.10

7. 3 普段の近所づきあいの程度と災害不安感の関連

7. 3. 1 近所づきあいの程度の尺度化

本章7. 1. 1 に示した近所づきあいに関する回答について、「たくさんいる」に3点、「数人いる」に2点、「一人二人いる」に1点、「いない」に0点を与え、それらを合算して「近所づきあい度」を作成する（ $\alpha=0.89$ ）。近所づきあい度の記述統計量を次に示す。N=309、平均値 3.23、中央値 2.0、最小値 0、最大値 14、尖度 0.25、歪度 1.04、標準偏差 3.36。

7. 3. 2 災害不安感の尺度化

本章7. 2 に示した災害不安に関する回答について、「強い不安を感じる」に2点、「不安を感じる」に1点、「不安を感じない」に0点を与え、それらを合算して「災害不安度」を作成する（ $\alpha=0.82$ ）。災害不安度の記述統計量を次に示す。N=308、平均値 7.39、中央値 8.0、最小値 0、最大値 10、尖度-0.43、歪度-0.47、標準偏差 2.20。

7. 3. 3 近所づきあい度と災害不安度の関連

表7-10は、近所づきあいの程度と災害不安の程度を相関分析した結果である。

表7-10 近所づきあい度と災害不安度の相関分析

	N	平均	標準偏差	相関係数	p値
近所づきあい度	309	3.23	3.36	0.14	0.012 *
災害不安度	308	7.39	2.20		

*: $p < 0.05$

相関分析の結果、統計的に有意な結果ではあったが、相関係数は0.14とほとんど相関がない、という結果になった。

7. 4 災害時に頼れる人がいる程度と災害不安感の関連

7. 4. 1 災害時に頼れる人がいる程度の尺度化

本章7. 1. 2に示した災害時に頼れる人の有無に関する回答について、「たくさんいる」に3点、「数人いる」に2点、「一人二人いる」に1点、「いない」に0点を与え、それらを合算して「災害時に頼れる人がいる程度」を作成する ($\alpha = 0.82$)。災害時に頼れる人がいる程度の記述統計量は以下に示す。

N=309、平均値 2.11、中央値 2.0、標準偏差 2.13、最小値 0、最大値 8、尖度-0.41、歪度 0.74。

7. 4. 2 災害時に頼れる人がいる程度と災害不安度の関連

7. 4. 1で作成した「災害時に頼れる人がいる程度」と7. 3. 2で作成した「災害不安度」を用いて相関分析を行った。

表7-11 災害時に頼れる人がいる程度と災害不安度の相関分析

	N	平均	標準偏差	相関係数	p値
災害時に頼れる人がいる程度	309	2.11	2.13	0.09	0.134 n.s.
災害不安度	308	7.39	2.20		

相関分析を行ったが、統計的に有意な結果は得られず、「災害時に頼れる人がいる程度」と「災害不安度」とのあいだには関連性がないことがわかった (表7-11)。

7. 5 結論

この章では、普段の近所づきあいの程度や災害時に頼れる人の有無と、災害に対する不安感の関連について分析した。立てた仮説は以下の2つであった。

- ① 普段の近所づきあいが少ない人は多い人よりも、地域の災害に対して不安感が強い。
- ② 災害時に頼れる人がいない人はいる人よりも、地域の災害に対して不安感が強い。

分析の結果、普段の近所づきあいの程度と地域の災害に対する不安感とは、相関関係がほとんどなかった。また、災害時に頼れる人がいる程度と地域の災害に対する不安感とは関連がないということが明らかになった。

今回、災害時に頼れる人を問うための調査項目および災害時の不安を問うための調査項目を試行錯誤のうえ作成したが、結果的には課題が残った。災害時に頼れる人がどの程度いるかについて実態をつかむには、3項目では少なかった。また、災害不安については設定したほとんどの項目で「不安を感じない」と回答した人は非常に少なく、分析時には「強い不安」を感じているか否かで二分するしかなかった。災害時のサポートの有無や人々の災害不安はどのように測定したらよいか、今後の課題としたい。

第8章 情報機器に対する意識と災害不安との関連

松村 歩夢

本章では、コンピュータ不安と若年者の情報機器利用寛容度の関連、および、地域災害不安と若年者の情報機器利用寛容度との関連をそれぞれ検討する。情報機器の普及は目覚ましく、今日の日本社会では年齢を問わず多くの人が情報機器を利用するようになっている。一方で、情報機器を利用するなかでトラブルに巻き込まれる事件も頻発しており、その使い方に関する教育や周知の重要性は一層高まっているといえるだろう。本調査では、調査対象地域の人々が若年者の情報機器利用をどのように考えているのかを明らかにする。そのさい、コンピュータ不安という意識に着目し、以下のような仮説を立てた。

- ① コンピュータ不安の程度が低い人は高い人よりも、若年者が情報機器を利用することに寛容である。

情報の価値が高まる1つの大きなタイミングは災害時であろう。人々は、災害時にはより情報機器等を使用して情報を収集していると考えられる。とくに災害に対する不安が大きい人は、情報や情報機器の利用を不可欠と感じ、結果として若年者の情報機器利用に寛容的な態度を有しているのではないだろうか。以上の関心から、次のような仮説を立てた。

- ② 地域の災害に対して不安感が強い人は弱い人よりも、若年者が情報機器を利用することに寛容である。

本章で使用する項目は、コンピュータ不安を尋ねる6項目、情報機器利用寛容度を尋ねる5項目、災害不安を尋ねる5項目である。

8. 1 コンピュータ不安度と若年者の情報機器利用寛容度

8. 1. 1 コンピュータ不安の基礎集計

コンピュータ不安を測定するために用意した質問項目は、以下の6項目である。

- a) コンピュータと聞いただけでもうお手上げの気持ちだ
- b) これからの社会はコンピュータによって支配されてしまうような気がする
- c) コンピュータに頼りすぎると将来何か良くないことが起こりそうな気がする
- d) 科学技術の発達によって世の中が急速に発展していくことに不安を覚える
- e) コンピュータは人間の弱点を補ってくれる便利な機械だ
- f) コンピュータは人間よりも正直信頼できる

それぞれの項目について、回答は「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえ
ばそう思わない」および「そう思わない」の4件法で求めた。

表8-1 コンピュータ不安に関する単純集計

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	
a)コンピュータと聞いただけでもう お手上げの気持ちだ	(n=316)	7.9%	20.9%	29.7%	41.5%	100.0%
b)これからの社会はコンピュータに よって支配されてしまうような気がする	(n=315)	17.8%	35.2%	30.5%	16.5%	100.0%
c)コンピュータに頼りすぎると将来何か 良くないことが起こりそうな気がする	(n=314)	17.2%	39.5%	29.0%	14.3%	100.0%
d)科学技術の発達によって世の中が急速 に発展していくことに不安を覚える	(n=312)	13.5%	28.5%	41.7%	16.3%	100.0%
e)コンピュータは人間の弱点を補って くれる便利な機械だ	(n=313)	21.7%	57.8%	17.3%	3.2%	100.0%
f)コンピュータは人間よりも正直信頼で きる	(n=312)	3.8%	33.0%	43.9%	19.2%	100.0%

表8-1のなかで、a)からd)までの4つの項目は、「そう思う」という回答であるほど、コンピ
ュータ不安が高いということになるが、e)とf)の2項目は、「そう思う」という回答であるほどコンピ
ュータ不安が低いということになる。

「コンピュータと聞いただけでもうお手上げの気持ちだ」については、「そう思わない」と「ど
ちらかといえばそう思わない」を足しあげると7割近くになる。コンピュータは身近な物になったよ
うに思えるが、「これからの社会はコンピュータによって支配されてしまうような気がする」、「コン
ピュータに頼りすぎると将来何か良くないことが起こりそうな気がする」という項目では「そう思
う」と「どちらかといえばそう思う」が過半数を占めている。コンピュータによる支配やコンピ
ュータへの依存に対しては、不安があることがわかる。

一方、「科学技術の発達によって世の中が急速に発展していくことに不安を覚える」は「そう思う」
と「どちらかといえばそう思う」を足しあげても4割程度で、科学技術全般の発達に対する不安は
幾分低いといえる。

表8-2 コンピュータ不安（男女別）

			そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	χ^2 値	p値	
a)コンピュータと聞いただけでもう お手上げの気持ちだ	男性	(n=118)	4.2%	15.3%	28.0%	52.5%	12.55	0.006	**
	女性	(n=193)	10.4%	24.4%	31.1%	34.2%			
b)これからの社会はコンピュータに よって支配されてしまうような気がする	男性	(n=117)	10.3%	29.1%	35.0%	25.6%	19.15	0.000	***
	女性	(n=310)	22.3%	39.4%	27.5%	10.9%			
c)コンピュータに頼りすぎると将来何か 良くないことが起こりそうな気がする	男性	(n=116)	12.9%	42.2%	27.6%	17.2%	3.477	0.324	n.s.
	女性	(n=309)	19.7%	38.3%	29.5%	12.4%			
d)科学技術の発達によって世の中が急速 に発展していくことに不安を覚える	男性	(n=116)	7.8%	22.4%	47.4%	22.4%	12.85	0.005	**
	女性	(n=307)	17.3%	31.9%	38.2%	12.6%			
e)コンピュータは人間の弱点を補って くれる便利な機械だ	男性	(n=115)	31.3%	50.4%	15.7%	2.6%	10.65	0.014	*
	女性	(n=308)	15.5%	62.7%	18.7%	3.1%			
f)コンピュータは人間よりも正直信頼で きる	男性	(n=115)	6.1%	40.9%	35.7%	17.4%	8.582	0.035	*
	女性	(n=307)	2.6%	28.6%	49.0%	19.8%			

***: p<.001 **: p<0.01 *: p<0.05

表8-2は、「性別」を独立変数、「コンピュータ不安」を従属変数としてクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。表8-2より、「コンピュータに頼りすぎるち将来何か良くないことが起こりそうな気がする」以外の5項目については、男女間に統計的に有意な差がみられた。各項目の男性と女性の不安の回答を比較してみると、男性よりも女性のほうが比較的不安を感じていることが分かった。

次に、コンピュータ不安の世代の分布をみるために、「年齢」を独立変数とし、「コンピュータ不安」を従属変数としてクロス集計し、 χ^2 検定を行う。また、「年齢」は「20・30代」、「40・50代」および「60・70代」の3つにカテゴリー統合を行った。

表8-3より、「コンピュータと聞いただけでもうお手上げの気持ちだ」と「コンピュータは人間よりも正直信頼できる」の2項目について、世代間で回答に有意な差が確認された。とくに「コンピュータと聞いただけでもうお手上げの気持ちだ」は60・70代の人の場合に「そう思う」が20%を超えており、若年層よりも不安を感じていることが確認できた。

表8-3 コンピュータ不安（年齢別）

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	χ^2 値	p値	
a) コンピュータと聞いただけでもう お手上げの気持ちだ	20・30代 (n= 70)	1.4%	25.7%	31.4%	41.4%	28.57	0.000	***
	40・50代 (n=163)	4.3%	19.6%	33.7%	42.3%			
	60・70代 (n= 79)	21.5%	19.0%	21.5%	38.0%			
b) これからの社会はコンピュータに よって支配されてしまうような気がする	20・30代 (n= 70)	12.9%	44.3%	27.1%	15.7%	8.55	0.201	n.s.
	40・50代 (n=163)	16.0%	31.9%	35.0%	17.2%			
	60・70代 (n= 78)	25.6%	34.6%	24.4%	15.4%			
c) コンピュータに頼りすぎると将来何か 良くないことが起こりそうな気がする	20・30代 (n= 70)	14.3%	40.0%	32.9%	12.9%	6.26	0.395	n.s.
	40・50代 (n=163)	17.2%	36.8%	32.5%	13.5%			
	60・70代 (n= 77)	19.5%	45.5%	18.2%	16.9%			
d) 科学技術の発達によって世の中が急速 に発展していくことに不安を感じる	20・30代 (n= 70)	8.6%	30.0%	40.0%	21.4%	10.78	0.095	†
	40・50代 (n=161)	11.2%	27.3%	46.0%	15.5%			
	60・70代 (n= 77)	23.4%	28.6%	35.1%	13.0%			
e) コンピュータは人間の弱点を補ってく れる便利な機械だ	20・30代 (n= 70)	24.3%	57.1%	15.7%	2.9%	2.98	0.811	n.s.
	40・50代 (n=162)	19.8%	61.7%	16.0%	2.5%			
	60・70代 (n= 77)	22.1%	51.9%	22.1%	3.9%			
f) コンピュータは人間よりも正直信頼で きる	20・30代 (n= 70)	4.3%	34.3%	34.3%	27.1%	13.83	0.032	*
	40・50代 (n=163)	3.7%	27.0%	52.1%	17.2%			
	60・70代 (n= 75)	4.0%	45.3%	36.0%	14.7%			

***: $p < 0.001$ *: $p < 0.05$ †: $p < 0.10$

コンピュータ不安の尺度化

コンピュータ不安度を算出するために、まず各変数を得点化した。a)からd)は「そう思う」に3点、「どちらかといえばそう思う」に2点、「どちらかといえばそう思わない」に1点、「そう思わない」に0点を与えた。e)とf)は「そう思う」に0点、「どちらかといえばそう思う」に1点、「どちらかといえばそう思わない」に2点、「そう思わない」に3点を与えた。内的整合性（一貫性）を確認するために、Cronbachの α 係数を見たところ、 α 係数は0.698であった。 $\alpha \geq 0.70$ なら許容値であり、その項目群の合計点を尺度化しても一定の内的整合性があると判断される。今回は、 $\alpha \geq 0.70$ にわずかながら届かなかったが、数値的に問題ないと判断したため、コンピュータ不安尺度を合成した。

コンピュータ不安度の要約統計量は、平均値 8.28、中央値 8.0、標準偏差 3.36、最小値 0、最大値 17、尖度-0.26、歪度-0.10であった。

8. 1. 2 適切な情報機器利用の開始時期に関する基礎集計

調査票では、「あなたは『未成年者』が情報機器を利用したり所有したりするのは、いつ頃からが適切と考えますか」という設問を用意した。項目は、以下の5項目である。

- a) 機能が制限された子ども用の携帯電話を利用すること
- b) 家族のスマートフォンを利用すること
- c) 家族のパソコンを利用すること
- d) 個人のスマートフォンを持つこと
- e) 個人のパソコンを持つこと

それぞれの項目について「就学前」、「小学校低学年」、「小学校高学年」、「中学生」、「高校生」の5件法で尋ねた。ただし、回収票のなかに「高校生以上」、「大学生になってから」という回答が少数ながら存在した。そこで下記の分析では、そうした回答を「高校生」のカテゴリーに含み、「高校生以上」とした。

表8-4 適切な情報機器利用開始時期の単純集計

	就学前	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生以上	
a)機能が制限された子ども用の携帯電話を利用すること (n=312)	2.2%	29.5%	39.4%	21.5%	7.4%	100.0%
b)家族のスマートフォンを利用すること (n=304)	4.6%	15.1%	33.9%	32.9%	13.5%	100.0%
c)家族のパソコンを利用すること (n=311)	3.9%	21.2%	36.0%	30.5%	8.4%	100.0%
d)個人のスマートフォンを持つこと (n=311)	0.3%	1.3%	6.4%	44.1%	47.9%	100.0%
e)個人のパソコンを持つこと (n=301)	0.7%	1.7%	6.6%	21.3%	69.8%	100.0%

表8-4に示した単純集計表より、a)からc)の3項目は「小学校高学年」が最も多いことが分かる。これらの項目は「小学校低学年」から良いとする者も15%～30%ほど存在している。それに対して、d)とe)の2項目は「高校生以上」が最も多く、とくに個人のパソコンについては、およそ70%の人が「高校生以上」で良いと回答している。子ども自身が自らのスマホやPCを所持するのは「高校生以上」もしくは「中学生」からが適切という回答が多く、家族の使用している情報機器を利用するだけであれば「中学生」もしくは「小学校低学年」が適切という回答が多かった。

表8-5は、適切な情報機器利用開始時期と性別の関連をみるために、「性別」を独立変数、「適切な情報機器利用開始時期」を従属変数としてクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。表8-5より、「家族のスマートフォンを利用すること」のみ男女間で傾向差があることが確認できたが、その他の項目については男女間で有意な差は見られなかった。

表 8-5 適切な情報機器利用開始時期（男女別）

			就学前	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生以上	χ^2 値	p 値	
a)機能が制限された子ども用の携帯電話を利用すること	男性	(n=115)	3.5%	29.6%	33.9%	22.6%	10.4%	4.77	0.312	n.s.
	女性	(n=192)	1.6%	28.6%	42.7%	21.4%	5.7%			
b)家族のスマートフォンを利用すること	男性	(n=112)	0.9%	15.2%	35.7%	30.4%	17.9%	8.22	0.084	†
	女性	(n=187)	7.0%	14.4%	33.2%	34.2%	11.2%			
c)家族のパソコンを利用すること	男性	(n=115)	0.9%	20.0%	41.7%	27.8%	9.6%	6.61	0.158	n.s.
	女性	(n=191)	5.8%	21.5%	33.0%	31.9%	7.9%			
d)個人のスマートフォンを持つこと	男性	(n=115)	0.0%	1.7%	7.8%	47.0%	43.5%	3.52	0.475	n.s.
	女性	(n=191)	0.5%	0.5%	5.2%	42.9%	50.8%			
e)個人のパソコンを持つこと	男性	(n=114)	0.0%	1.8%	7.9%	28.9%	61.4%	8.37	0.079	—
	女性	(n=183)	1.1%	1.1%	6.0%	16.9%	74.9%			

†: p<0.10 —: 期待度数 5 未満 20%超

表 8-6 より、「家族のスマートフォンを利用すること」のみ世代間で回答に有意な差があることが確認できた ($p<0.001$)。若年層のほうが高齢層よりも、家族のスマートフォンを利用してよいと考える年齢が低いことが分かった。20・30 代で最も割合が高かったのは小学校高学年 (42.6%)、40・50 代では中学生 (38.0%)、60・70 代では、中学生 (33.8%) であり、この項目については若年層と中年、高齢層とでは考え方に差異があることが確認できた。

表 8-6 適切な情報機器利用開始時期（世代別）

			就学前	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生以上	χ^2 値	p 値	
a)機能が制限された子ども用の携帯電話を利用すること	20・30代	(n= 70)	1.4%	45.7%	31.4%	17.1%	4.3%	13.60	0.093	—
	40・50代	(n=161)	2.5%	26.1%	40.4%	23.6%	7.5%			
	60・70代	(n= 77)	2.6%	20.8%	44.2%	22.1%	10.4%			
b)家族のスマートフォンを利用すること	20・30代	(n= 68)	13.2%	17.6%	42.6%	19.1%	7.4%	28.13	0.000	***
	40・50代	(n=158)	3.2%	13.9%	32.3%	38.0%	12.7%			
	60・70代	(n= 74)	0.0%	14.9%	29.7%	33.8%	21.6%			
c)家族のパソコンを利用すること	20・30代	(n= 70)	7.1%	18.6%	41.4%	28.6%	4.3%	8.42	0.394	n.s.
	40・50代	(n=162)	4.3%	21.6%	35.8%	29.0%	9.3%			
	60・70代	(n= 75)	0.0%	21.3%	33.3%	34.7%	10.7%			
d)個人のスマートフォンを持つこと	20・30代	(n= 70)	1.4%	0.0%	5.7%	52.9%	40.0%	13.35	0.101	n.s.
	40・50代	(n=162)	0.0%	0.6%	4.3%	45.1%	50.0%			
	60・70代	(n= 75)	0.0%	2.7%	10.7%	36.0%	50.7%			
e)個人のパソコンを持つこと	20・30代	(n= 69)	1.4%	0.0%	4.3%	15.9%	78.3%	22.27	0.004	—
	40・50代	(n=155)	0.6%	0.6%	6.5%	17.4%	74.8%			
	60・70代	(n= 73)	0.0%	4.1%	9.6%	35.6%	50.7%			

***: p<0.001 —: 期待度数 5 未満 20%超

情報機器利用寛容度の尺度化

上記の適切な情報機器利用開始時期に関する回答を利用し、情報機器利用寛容度を測定する。まず、就学前と小学校低学年を 2、小学校高学年を 1、中学生と高校生以上を 0 と得点化した。次に、変数の内的整合性（一貫性）を求めるために、Cronbach の α 係数を確認したところ、 α 係数は 0.789 であった。 $\alpha \geq 0.70$ であれば許容値であるため、合計点を算出し情報機器利用寛容度を合成した。

情報機器利用寛容度の要約統計量は、平均値 2.84、中央値 3.0、標準偏差 2.18、最小値 0、最大値 10、尖度 0.54、歪度 0.79 であった。

8. 1. 3 コンピュータ不安度と情報機器利用寛容度の関連

これまでに作成した「コンピュータ不安度」と「情報機器利用寛容度」の関連を知るために相関分析を行った。その結果が表8-7である。

表8-7 コンピュータ不安度と情報機器利用寛容度の相関関係

	N	平均	標準偏差	相関係数	
コンピュータ不安度	309	8.28	3.36	-0.18	**
情報機器利用寛容度	296	2.84	2.18		

相関関係を見る場合は、まず有意確率の値が 0.05 未満になっているかを確認する。有意確率は 0.002 であるため、この2つの変数間には1%水準で何らかの関係があるといえる。そこで相関係数を見てみると、-0.18 であった。両者はほとんど相関関係にないという結果になった（表8-7）。

8. 2 災害不安度と情報機器利用寛容度

8. 2. 1 災害不安度の基礎集計

災害不安に関する質問項目は、以下の5項目である。

- a) 家族と連絡が取れなくなること
- b) 正確な情報が得られなくなること
- c) 住居の一部が破損すること
- d) ケガで他者の手助けが必要になること
- e) 避難所で集団生活すること

表8-8 災害不安度の単純集計

		強い不安を感じる	不安を感じる	不安を感じない
a)家族と連絡が取れなくなること	(n=309)	68.9%	29.1%	1.9%
b)正確な情報が得られなくなること	(n=309)	53.1%	44.7%	2.3%
c)住居の一部が破損すること	(n=309)	45.0%	49.5%	5.5%
d)ケガで他者の手助けが必要になること	(n=308)	43.8%	51.3%	4.9%
e)避難所で集団生活すること	(n=309)	51.1%	40.8%	8.1%

表8-8より、すべての項目で大半の人が災害について少なからず不安を感じていることが分かった。この中で「強い不安を感じる」と答えたのが最も多かった項目は、「家族と連絡が取れなくなること」の68.9%であった。

表 8-9 災害不安度（男女別）

			強い不安を 感じる	不安を 感じる	不安を 感じない	χ^2 値	p 値	
a) 家族と連絡が取れなくなる	男性 (n=115)		55.7%	42.6%	1.7%	15.90	0.000	—
	女性 (n=189)		76.7%	21.2%	2.1%			
b) 正確な情報が得られなくなる	男性 (n=115)		42.6%	54.8%	2.6%	7.99	0.018	—
	女性 (n=189)		59.3%	38.6%	2.1%			
c) 住居の一部が破損すること	男性 (n=115)		32.2%	61.7%	6.1%	12.66	0.002	**
	女性 (n=189)		52.9%	41.8%	5.3%			
d) ケガで他者の手助けが必要になる	男性 (n=115)		25.2%	67.8%	7.0%	27.19	0.000	***
	女性 (n=188)		55.9%	40.4%	3.7%			
e) 避難所で集団生活すること	男性 (n=115)		34.8%	51.3%	13.9%	22.51	0.000	***
	女性 (n=189)		61.4%	33.9%	4.8%			

***: p<0.001 ** : p<0.01 — : 期待度数 5 未満 20% 超

表 8-9 より、「住居の一部が破損すること」(p<0.01)、および、「ケガで他者の手助けが必要になること」と「避難所で集団生活すること」(p<0.001) の 3 項目は男女の間で統計的な有意差が見られた。全体的に男性よりも女性のほうが不安を感じていることが確認できた。

表 8-10 災害不安度（年齢別）

			強い不安を 感じる	不安を 感じる	不安を 感じない	χ^2 値	p 値	
a) 家族と連絡が取れなくなる	20・30 (n= 69)		84.1%	14.5%	1.4%	14.90	0.005	—
	40・50 (n=159)		69.2%	28.9%	1.9%			
	60・70 (n= 77)		54.5%	42.9%	2.6%			
b) 正確な情報が得られなくなる	20・30 (n= 69)		47.8%	49.3%	2.9%	3.07	0.547	n.s.
	40・50 (n=159)		57.9%	40.3%	1.9%			
	60・70 (n= 77)		48.1%	49.4%	2.6%			
c) 住居の一部が破損すること	20・30 (n= 69)		47.8%	43.5%	8.7%	7.71	0.103	n.s.
	40・50 (n=159)		49.7%	46.5%	3.8%			
	60・70 (n= 77)		33.8%	59.7%	6.5%			
d) ケガで他者の手助けが必要になる	20・30 (n= 69)		49.3%	47.8%	2.9%	10.04	0.040	—
	40・50 (n=159)		48.4%	47.8%	3.8%			
	60・70 (n= 76)		30.3%	60.5%	9.2%			
e) 避難所で集団生活すること	20・30 (n= 69)		59.4%	31.9%	8.7%	10.31	0.036	*
	40・50 (n=159)		54.7%	39.0%	6.3%			
	60・70 (n= 77)		36.4%	51.9%	11.7%			

*: p<0.05 — : 期待度数 5 未満 20% 超

表 8-10 より、「避難所で集団生活すること」のみが世代間で回答に有意な差が確認できた (p<0.05)。20・30 代と 40・50 代は 50% 以上の人が強い不安を感じており、60・70 代の人 50% の人が不安を感じていることが確認できた。

8. 2. 3 災害不安度と情報機器利用寛容度の相関

これまでに作成した「情報機器利用寛容度」と「災害不安度」の関連を知るために、相関分析を行った。その結果が表 8-11 である。

表 8-11 災害不安度と情報機器利用寛容度の相関

	N	平均	標準偏差	相関係数	
情報機器利用寛容度	296	2.84	2.18	0.05	n.s.
災害不安度	306	22.32	6.38		

災害不安度と情報機器利用寛容度の相関分析は有意確率 0.427 で 0.05 未満になっていないため、統計的に有意な結果ではなかった（表 8-11）。

8. 3 結論

仮説①「コンピュータ不安の程度が低い人は高い人よりも、若年者が情報機器を利用することに寛容である」を検証した結果、そのような関連性は確認されなかった。

仮説②「地域の災害に対して不安感が強い人は弱い人よりも、若年者が情報機器を利用することに寛容である」についても、検証の結果、そのような関連性は確認されなかった。

なぜ、これら 2 つの仮説に含まれる変数間に関連性が認められなかったのか。当初、若年者が情報機器を利用することに寛容である者とそうでない者の差は何によって規定されているのかを明らかにしたいという問題意識を有していた。若年者の情報機器利用に寛容でない者は「情報機器をあまり使用していないため」や「能力の程度が高くないため」と考えた。しかし、どの程度情報機器を使えるのかを調査票に質問項目として落とし込むのは非常に困難であった。そこで今回の調査では、コンピュータの普及に対する不安感尺度を利用し、仮説①を立てた。分析の結果、コンピュータ不安と若年者の情報機器利用への寛容度の間に関連はみられなかった。こうした経緯から、情報機器の利用に対する能力を計る質問項目を作ることが課題として残されている。また、今回は調査対象者に子育て世代もそうではない世代も含まれていた。一般論として情報機器に対する意識を尋ねる場合と、子育て世代に限定し自分の子どもを想定して情報機器に対する意識を尋ねる場合とでは、結果が異なる可能性も考えられる。

仮説②も仮説①と同様に、若年者が情報機器を利用することについて寛容な者とそうでない者の差が何によって規定されているか、という問題意識のもとで作成した仮説であった。キッズケータイなどを持たせる理由の 1 つに、「何かあったときのために」という危機感があるという話を聞いたことがあった。しかし、分析の結果、両者の間には統計的に有意な関連は認められなかった。

子どもに情報機器を持たせることをどのように考えるかは、災害だけではなく、社会全体の動きや各家庭の状況、家族構成や働き方、経済状況、子どもの性格など、様々な要素が絡んでいると考えられる。

今回は仮説が 2 つとも棄却される結果となったが、新たな知見と課題を見出すことが出来た。

知見としては、基礎集計レベルであるが、コンピュータ不安を男女別に検討したところ、1 項目を除き統計的な有意差がみられた。いずれも男性より女性のほうがコンピュータ不安を感じていた。年齢別では、2 項目に有意な世代差がみられた。とくに 60・70 代がコンピュータに不安を覚えて

いる傾向が確認された。情報機器利用寛容度の男女別の分析では、男女間で情報機器を持たせるのに適切と考える年代が異なることが確認できた。年齢別の分析では、若年層のほうが高齢層よりも若年者が家族のスマートフォンを利用することに寛容であることがわかった。災害不安を男女別で検討してみたところ、男性よりも女性のほうが災害不安を感じていることが確認できた。年齢別では、若年層が避難所での生活に不安を感じていることが明らかになった。

今後の研究課題としては、情報機器利用の能力を計るためにはどのような質問項目が適しているかという課題や、若年者の情報機器利用への意識や態度を決定する要素にはどのようなものがあるかという課題などが挙げられるだろう。

第9章 自治会（町内会）・管理組合に加入していない住民

小松 仁美

本調査に際して、地域活動をされている方々に、2回にわたり、おゆみ野南での暮しや地域活動などについてお話いただいた。伺ったなかで、自治会に参加されていない住民も避難訓練には積極的に参加されているという話が印象に残った。

具体的には、次のような内容であった。おゆみ野南では、公立学校で避難訓練が活発に行われ、住民が積極的に参加している。背景には、避難訓練実施の中心人物の力添えはもちろんであるが、新興住宅地ならではの近所づきあいの希薄さが挙げられる。特に、自治会や管理組合に加入せず近隣住民とのつながりのない住民は、避難訓練に参加することで災害に備えているのかもしれない。

以上は、積極的に地域活動を担われている方、言い換えれば、自治会や管理組合の活動の担い手側の見解ではあるものの、経験知に根ざした、非常に重要な示唆を含んでいるものと思われる。

そこで、本章においては、①自治会や管理組合に加入しない住民は、加入している住民に比べて、近隣住民との関係性が希薄であり、②自治会や管理組合に加入しない住民は、加入している住民に比べて、災害時に助け合える近隣住民との関係性が希薄であるとの仮説のもと、第一に、自治会や管理組合に加入していない住民を特定し、第二に、自治会や管理組合に加入していない住民と加入している住民との基本属性の違いや近所づきあいの比較を行う。これらを通じて、自治会（町内会）・管理組合に加入していない住民の特性について探索的に検討したい。

本章で使用する項目は、居住地域の自治会（町内会）・管理組合の有無、自治会（町内会）・管理組合への加入状況、および、調査対象者の性別・世代別・配偶関係・家族構成・居住形態・居住年数・職業・学歴という基本属性をそれぞれ1項目、ならびに、近所にいる災害時に助け合える他者の人数についての8項目である。

9.1 自治会加入者と自治会非加入者の特定

分析に際して、自治会（町内会）および管理組合の有無およびその加入・非加入状況から、自治会や管理組合の加入者および非加入者を特定する。

基本属性において、居住地域の自治会（町内会）・管理組合の有無について尋ねた。回答は、「自治会（町内会）がある」、「管理組合がある」、「自治会（町内会）も管理組合もある」、「自治会（町内会）も管理組合もない」および「あるかどうか、わからない」の5つである。

回答者312名のうち、「自治会（町内会）がある」の38.8%が最も高く、「自治会（町内会）も管理組合もある」の22.1%、「管理組合がある」の18.3%と続き、自治会（町内会）および・または管理組合がある割合は79.2%にのぼった。一方で、「あるかどうか、わからない」は14.1%（44名）、「自治会（町内会）も管理組合もない」は6.7%（21名）であった。

本章では自治会（町内会）・管理組合に「加入している住民」と「加入していない住民」との差異を検討することを目的としていることから、まず「あるかどうか、わからない」方と「自治会（町

内会) も管理組合もない」方とを「加入していない住民」に振り分けた。

なお、おゆみ野地区は、比較的新しく造成された地域にも関わらず、「おゆみ野地区町内自治会連絡協議会」によるとはぼすべての面をカバーするように 47 の自治会が設置されている。このおゆみ野地区内におゆみ野南 5 丁目は位置し、3 つの自治会が設置されていて、3 つの番地分に相当する 3 区画分を除いて自治会が存在する。この 3 つの番地には、主に戸建てがあり、一部に低層・小型の集合住宅があるものの、一般的に管理組合が設置されるような大型の集合住宅はない。したがって、「自治会（町内会）も管理組合もない」と答えた方 21 名は、この 3 つの番地に住まわれている可能性が高い。

つづいて、「自治会（町内会）がある」、「管理組合がある」および「自治会（町内会）も管理組合もある」と答えた方々を対象に、自治会・管理組合への加入状況について尋ねた。表 9-1 は、その加入状況を示している。

表 9-1 自治会・管理組合への加入状況

		加入している	加入していない
自治会（町内会）がある	(n=120)	83.3%	16.7%
管理組合がある	(n= 56)	92.9%	7.1%
自治会（町内会）も管理組合もある	(n= 69)	95.7%	4.3%

表 9-1 によると、「自治会（町内会）がある」方の 83.3%、「管理組合がある」方の 92.9%、「自治会（町内会）も管理組合もある」方の 95.7%が、「加入している」と回答した。「自治会（町内会）も管理組合もある」方について、本調査では、自治会と管理組合のどちらに加入されているか、あるいは両方に加入されているのかを特定はできない。しかしながら、全体的には「加入している」と回答した方の割合の高さが伺え、自治会（町内会）に比べて管理組合への加入が有意に高かった。他方、「自治会（町内会）がある」方の 16.7%、「管理組合がある」方の 7.1%、「自治会（町内会）も管理組合もある」方の 4.3%が、全体で 11.0%が、「加入していない」と回答した。

自治会・管理組合への加入状況から、「加入している住民」は 218 名、「加入していない住民」は 27 名であった。

以上から、自治会（町内会）・管理組合に「加入している住民」は 218 名、「加入していない住民」は「自治会（町内会）も管理組合もない」方、「あるかどうか、わからない」方に、自治会（町内会）や管理組合がある上で「加入していない」方を加えた 92 名であった。

9. 2 基本属性との関連

以下では、分析にあたり、自治会（町内会）・管理組合に「加入している住民」218 名を便宜上、文中では「自治会加入者」、表では「加入者」とし、「加入していない住民」92 名を文中で「自治会非加入者」、表では「非加入者」とする。

「自治会加入者」および「自治会非加入者」と、性別、世代別、配偶関係、家族構成、居住形態、居住年数、職業および学歴という基本属性との関連をみる。

表 9-2 男女別にみる自治会加入者・非加入者

		加入者	非加入者	χ^2 値	p値	
男性	(n=116)	70.7%	29.3%	0.02	1.000	n.s.
女性	(n=193)	69.9%	30.1%			

表 9-2 は、男女別にみる「自治会加入者」と「自治会非加入者」との割合を示している。性別によって有意な差は認められなかった。

表 9-3 世代別にみる自治会加入者・非加入者

		加入者	非加入者	χ^2 値	p値	
20・30代	(n= 70)	55.7%	44.3%	10.10	0.006	**
40・50代	(n=161)	72.7%	27.3%			
60・70代	(n= 79)	78.5%	21.5%			

**： p<0.01

表 9-3 は、世代別にみる「自治会加入者」と「自治会非加入者」との割合を示している。20・30代は 55.7%が「自治会加入者」であり 44.3%が「自治会非加入者」であった一方で、60・70代は 78.5%が「自治会加入者」であり 21.5%が「自治会非加入者」であった。世代があがるにしたがって、「自治会加入者」の割合が増加し、「自治会非加入者」の割合は減少する。若い世代は、より高齢の世代に比べて、有意に「自治会非加入者」の割合が高かった。

表 9-4 配偶関係にみる自治会加入者・非加入者

		加入者	非加入者	χ^2 値	p値	
未婚	(n= 42)	54.8%	45.2%	7.47	0.024	*
既婚（現在、配偶者がいる）	(n=236)	74.2%	25.8%			
既婚の経験あり（離・死別）	(n= 32)	62.5%	37.5%			

*： p<0.05

表 9-4 は、配偶関係にみる「自治会加入者」と「自治会非加入者」との割合を示している。「既婚（現在、配偶者がいる）」は 74.2%が「自治会加入者」であり、「未婚」は 45.2%が、「既婚の経験あり（離・死別）」は 37.5%が「自治会非加入者」であった。現在、配偶者のいる者は、未婚および離・死別の配偶者が現在いない者に比べて、有意に「自治会非加入者」の割合が高かった。

表9-5 家族構成にみる自治会加入者・非加入者

		加入者	非加入者	χ^2 値	p 値	
一人暮らし	(n= 41)	46.3%	53.7%	12.8	0.005	**
夫婦のみ	(n= 68)	73.5%	26.5%			
夫婦と未婚の子ども（ひとり親を含む）	(n=176)	73.3%	26.7%			
その他	(n= 22)	77.3%	22.7%			

**: p<0.01

表9-5は、家族構成にみる「自治会加入者」と「自治会非加入者」との割合を示している。「夫婦のみ」は73.5%が、「夫婦と未婚の子ども（ひとり親を含む）」は73.3%が「自治会加入者」と割合が高く、一方で、「一人暮らし」は53.7%が「自治会非加入者」と割合が高かった。「一人暮らし」はそうでない者に比べて、有意に、「自治会非加入者」である割合が高かった。

表9-6 居住形態にみる自治会加入者・非加入者

		加入者	非加入者	χ^2 値	p 値	
一戸建て（持家）	(n=134)	77.6%	22.4%	128.12	0.000	***
一戸建て（賃貸）	(n= 8)	37.5%	62.5%			
集合住宅（持家）	(n=119)	90.8%	9.2%			
集合住宅（賃貸）	(n= 49)	6.1%	93.9%			

表9-6-1 持家が賃貸かにみる自治会加入者・非加入者

		加入者	非加入者	p 値	
持家	(n=253)	83.8%	16.2%	0.000	***
賃貸	(n= 57)	10.5%	89.5%		

表9-6-2 戸建てか集合住宅かにみる自治会加入者・非加入者

		加入者	非加入者	p 値	
戸建て	(n=142)	75.4%	24.6%	0.082	†
集合住宅	(n=168)	66.1%	33.9%		

***: p<0.001 †: p<0.10

表9-6、表9-6-1および表9-6-2は、居住形態と「自治会加入者」および「自治会非加入者」との関連を示している。表9-6は、居住形態別に「自治会加入者」と「自治会非加入者」とをクロス集計し χ^2 検定した結果である。表9-6-1は持家が賃貸という住居の契約関係別に、表9-6-2は戸建てか集合住宅下という建築様式別に、クロス集計しフィッシャーの正確検定を行った結果である。

それぞれ有意差と傾向差が認められた。全体的には集合住宅や戸建ての持家に住む場合、戸建ての賃貸や集合住宅の賃貸に住むよりも「自治会加入者」の割合が高く、「自治会非加入者」の割合が

低かった。持家と賃貸とでは、賃貸に住むほうが「自治会非加入者」の割合が高かった ($P<0.001$)。戸建てと集合住宅とでは、集合住宅に住むほうが ($P<0.10$)、「自治会非加入者」の割合が高かった。

表 9-7 居住年数（低中高群別）にみる自治会加入者・非加入者

	加入者	非加入者	χ^2 値	p値	
低群 (≤ 9 年) (n=105)	60.0%	40.0%	15.36	0.000	***
中群 (9< ≤ 20 年) (n=131)	71.0%	29.0%			
高群 (20年<) (n= 71)	87.3%	12.7%			

***: $p<0.001$

表 9-7 は、居住年数別にみた「自治会加入者」と「自治会非加入者」との割合を示している。居住年数は、最も短い方の半年から最も長い方の 32 年までで、平均すると 13.89 年であった。中央値 14 年、標準偏差 7.49、尖度-1.19、歪度-0.08 年であった。9 年以下が 34.0%、9 年より長く 20 年以下が 42.4%、20 年より長い 23.6%であったことから、それぞれを居住年数の低群、中群、高群としてクロス集計を行った。その結果、居住年数（低中高群別）では、有意に、高群が「自治会加入者」である割合が高く、低群が「自治会非加入者」である割合が高かった。

表 9-8 職業別にみる自治会非加入者・加入者

	加入者	非加入者	χ^2 値	p値	
経営者・役員 (n= 5)	80.0%	20.0%	10.45	0.235	n.s.
常時雇用されている会社員・団体職員・公務員 (n=112)	65.2%	34.8%			
派遣社員・契約社員・嘱託社員 (n= 22)	54.5%	45.5%			
パート・アルバイト (n= 56)	73.2%	26.8%			
自営業主（家族従業者を含む）自由業者 (n= 13)	76.9%	23.1%			
専業主婦 (n= 37)	70.3%	29.7%			
年金生活 (n= 49)	77.6%	22.4%			
学生 (n= 10)	100.0%	0.0%			
その他 (n= 5)	60.0%	40.0%			

表 9-8 は、職業と「自治会加入者」および「自治会非加入者」と関連を示している。項目が多岐にわたることもあり有意な差異はみられなかった。「経営者・役員」、「自営業主（家族従業者を含む）自由業者」および「年金生活」は他の職業と比べて「自治会加入者」の割合が高い傾向が見られ、「派遣社員・契約社員・嘱託社員」は他の職業と比べて「自治会非加入者」の割合が高い傾向がみられた。

このことから、職業の不安定さは「自治会非加入者」の割合を高める可能性があり、地域に根ざした仕事および収入源は「自治会加入者」の割合を高める可能性があるのではないかと考えられる。

表 9-9 は、最終学歴と「自治会加入者」および「自治会非加入者」との関連を示している。

表9-9 学歴別にみる自治会加入者・非加入者

		加入者	非加入者	χ^2 値	p値	
中学校	(n= 2)	50.0%	50.0%	3.12	0.793	n.s.
高校	(n= 77)	70.1%	29.9%			
専門学校	(n= 39)	71.8%	28.2%			
短大・高専	(n= 50)	72.0%	28.0%			
大学	(n=121)	72.7%	27.3%			
大学院	(n= 18)	55.6%	44.4%			
その他	(n= 2)	50.0%	50.0%			

職業同様に項目が多岐にたり、有意な差異がみられなかった。しかしながら、「高卒」、「専門学校」、「短大・高専」および「大学」の「自治会加入者」の割合が70%以上と比較的高い傾向にあるのに対して、非常に数は少ないものの「中学校」と「大学院」の「自治会加入者」の割合は50%台と比較的低く、「自治会非加入者」の割合は比較的高い傾向にあった。

数が少なかったまま回答者が外れ値だったことも考えられるが、「中学校」と「大学院」が「自治会非加入者」である割合が高い点は非常に興味深い。そこで、この9名の自治会との関連を掘り下げてみたい。最終学歴を「中学校」とされた1名は、自治会および管理組合が「あるかどうか、わからない」と回答している。学歴による情報の非対称性が考えられるのではないだろうか。

他方、最終学歴を「大学院」とされた8名は、自治会も管理組合も「ない」と回答している2名（調査対象地域内に自治会・管理組合のない区画が存在する）、自治会および管理組合が「あるかどうか、わからない」と回答している2名、および、自治会や管理組合があるものの「加入していない」と回答している4名であった。ここからは、高学歴住民には、自治会や管理組合に興味がなかったり、あえて加入していなかったりという住民像がぼんやりと見いだせるのではないだろうか。

以上が、「自治会加入者」および「自治会非加入者」と基本属性との関連をクロス集計の結果である。「自治会非加入者」の割合は、世代ではより若い世代が、配偶関係では配偶者のいない者が、家族構成では一人暮らしの者が、戸建てと集合住宅では集合住宅の居住者が、持家と賃貸とでは賃貸住宅の居住者が、居住年数では比較的居住年数の短い層が有意に高かった。性別、職業および学歴においては有意な差異は見られなかったものの、不安定就労の一つとされる「派遣社員・契約社員・嘱託社員」が他の職業と比べて高い傾向がみられ、また、「中学校」卒者と「大学院」修了者とは他の学歴の者と比べて高い傾向にあった。

9.3 「自治会加入者」と「自治会非加入者」の近所づきあい

以下では、本章の2つの仮説である「自治会や管理組合に加入しない住民は、加入している住民に比べて、近隣住民との関係性が希薄である」と「自治会や管理組合に加入しない住民は、加入している住民に比べて、災害時に助け合える近隣住民との関係性が希薄である」の検証を行いたい。

本調査においては関係性の希薄さについて直接的に測る項目はないものの、「近所づきあい」をす

る近隣住民の人数について平常時と災害時について尋ねる項目がある。以下の a) から h) の 8 項目を「たくさんいる」、「数人いる」、「一人二人いる」および「いない」の 4 件法で尋ねている。なお、a) から e) が平常時の近所づきあいの項目であり、f) から h) が災害時に助け合える近隣住民の項目である。分析にあたり「たくさんいる」と「数人いる」を「数人以上いる」とした。「自治会加入者」と「自治会非加入者」とにより、近所づきあいする近隣住民の数との関連について検討した。

平常時	a) 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人
	b) 互いの家によく訪問し合う人
	c) よくおすそ分けし合う人
	d) 家族ぐるみのつきあいをしている人
	e) よく一緒に外出するような関係の人
災害時	f) 災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人
	g) 災害時に家族員の誰か（ペットを含む）を 1～2 時間任せられる人
	h) 災害時に安否が気になる人

表 9-10 自治会の加入者・非加入者別の平常時の近所づきあい

		数人以上いる	一人二人いる	いない	χ^2 値	p 値	
a) 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人	加入者 (n=214)	46.7%	28.0%	25.2%	22.78	0.000	***
	非加入者 (n= 89)	22.5%	25.8%	51.7%			
b) 互いの家によく訪問し合う人	加入者 (n=214)	17.3%	21.0%	61.7%	14.83	0.001	**
	非加入者 (n= 89)	6.7%	9.0%	84.3%			
c) よくおすそ分けし合う人	加入者 (n=213)	23.5%	33.8%	42.7%	22.41	0.000	***
	非加入者 (n= 89)	7.9%	20.2%	71.9%			
d) 家族ぐるみのつきあいをしている人	加入者 (n=214)	16.8%	21.0%	62.1%	6.69	0.035	*
	非加入者 (n= 89)	10.1%	12.4%	77.5%			
e) よく一緒に外出するような関係の人	加入者 (n=214)	15.9%	20.6%	63.6%	5.99	0.050	†
	非加入者 (n= 89)	7.9%	14.6%	77.5%			

***: p<0.001 ** : p<0.01 * : p<0.05 †: p<0.10

表 9-10 は、「自治会加入者」と「自治会非加入者」別に、平常時の近所づきあいをする近隣住民の人数をクロス集計したものである。すべての項目において、「自治会加入者」は「自治会非加入者」に比べて有意に平常に近所づきあいする近隣住民が「数人以上いる」と「一人二人いる」割合が高く、一方で、「自治会非加入者」は「自治会加入者」よりも有意に平常時に近所づきあいする近隣住民が「いない」割合が高かった。

「庭先や道端で会うとよく立ち話をする人」と「よくおすそ分けし合う人」については 0.1% 水準で有意であり、「互いの家によく訪問し合う人」については 1% 水準で、「家族ぐるみのつきあいをしている人」については 5% 水準で、「よく一緒に外出するような関係の人」については 10% 水準で有意であった。

「自治会加入者」と「自治会非加入者」とを問わず、全体的に親しく緊密な関係にある近隣住民

は多くなかった。しかしながら、「自治会非加入者」は「自治会加入者」に比べて適度に距離感を保った近所づきあいをする近隣住民もより「少ない」あるいは「いない」傾向であることがわかった。

表 9-11 自治会の加入者・非加入者別の災害時に助け合える近隣住民

			数人以上いる	一人二人いる	いない	χ^2 値	p 値	
f) 災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人	加入者 (n=214)		22.9%	35.5%	41.6%	21.77	0.000	***
	非加入者 (n= 89)		6.7%	23.6%	69.7%			
g) 災害時に家族員の誰かを 1～2 時間任せられる人	加入者 (n=213)		16.9%	28.6%	54.5%	9.11	0.011	*
	非加入者 (n= 89)		4.5%	28.1%	67.4%			
g) 災害時に安否が気になる人	加入者 (n=213)		31.5%	29.6%	39.0%	8.68	0.013	*
	非加入者 (n= 89)		18.0%	25.8%	56.2%			

***: $p < 0.001$ *: $p < 0.05$

続いて、表 9-11 は、「自治会加入者」と「自治会非加入者」別に、災害時に助け合える近隣住民の人数をクロス集計したものである。すべての項目において、「自治会加入者」は「自治会非加入者」よりも有意に災害時に助け合える近隣住民が「数人以上いる」と「一人二人いる」割合が高く、一方で、「自治会非加入者」は「自治会加入者」よりも有意に災害時に助け合える近隣住民が「いない」割合が高かった。

「災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人」については、0.1%水準で有意であり、「災害時に家族員の誰か（ペットを含む）を 1～2 時間任せられる人」と「災害時に安否が気になる人」については 5%水準で有意であった。「自治会加入者」と「自治会非加入者」とを問わず、災害が起きていざという状況になったときに家族を任せられるような親しく緊密な近所づきあいをしている近隣住民は多くなかった。しかしながら、「自治会非加入者」は「自治会加入者」に比べていざという状況に助けを求められる近隣住民がよりいない、少なかった。

以上の分析からは、「自治会非加入者」は「自治会加入者」に比べて、平常時に近所づきあいする近隣住民の人数はより少なく、災害時に助け合える近隣住民の人数もより少ないとの結果が得られた。

9. 4 自治会（町内会）・管理組合に加入していない住民の特徴

本章では、地域活動の担い手の方々にお伺いした内容に発想を得て、自治会（町内会）・管理組合に加入しているか否かによって、その属性や近所づきあいに差異があるのかを探索的に検討してきた。

310 名の有効回答者のうち、自治会および管理組合のいずれかまたは両方があって「加入している」者つまり「自治会加入者」が 218 名であり、自治会および管理組合が「あるかどうか、わからない」者および「ない」者に自治会（町内会）と管理組合のいずれにも「加入していない」者を加えた「自治会非加入者」が 92 名であった。

「自治会加入者」と「自治会非加入者」とでは、世代、配偶関係、家族構成、居住形態、居住年

数に有意な差がみられた。「自治会非加入者」の割合は、比較的若い世代、配偶者のいない、一人暮らし、集合住宅・賃貸契約、比較的短い居住年数に高かった。性別、職業、最終学歴には有意な差はみられなかったものの、「自治会非加入者」の割合は、職業では「派遣社員・契約社員・嘱託社員」に、学歴では低学歴と高学歴に、高い傾向が見られた。数としては非常に少ないものの、「大学院」修了者があえて自治会に加入していない様相がぼんやりと伺えた。

このような特徴を持つ「自治会非加入者」は、「自治会加入者」に比べて、平常時の近所づきあいをする近隣住民が「いない」とする割合が有意に高かった。家族ぐるみのつきあいや一緒に外出するような親しく緊密な関係にある近隣住民は全体的にも多くないなかで、「自治会非加入者」は「自治会加入者」に比べて立ち話やおすそ分けをし合うような適度に距離感を保った近所づきあいをする近隣住民がより「いない」割合が高かった。

平常時の近所づきあいのみならず、「自治会非加入者」は、「自治会加入者」に比べて、災害時に助け合える近隣住民が「いない」とする割合が有意に高かった。災害時に家族の世話を頼めるような親しく緊密な関係にある近隣住民は全体的にも少ないなかで、「自治会非加入者」は「自治会加入者」に比べて自宅周辺の様子を教えるという適度な距離感のある助け合いをする近隣住民もより「いない」割合が高かった。

以上からは、平常時の近所づきあいをする近隣住民の人数と災害時の助け合える近隣住民との人数とがどのように関連するのがあるいはしないのかについて本章では検討できなかったものの、「自治会非加入者」は「自治会加入者」に比べて、平常時に近所づきあいする近隣住民の人数がより少なく、災害時に助け合える近隣住民の人数もより少ないとの結果が得られた。平常時の近所づきあい、災害時の助け合いをする近隣住民がより「いない」ことから、いつ何時災害に見舞われるかわからない昨今、「自治会非加入者」の自治会への加入または自治会活動への参加を通した近隣住民との関係性の構築が必要であろう。

最後に、「自治会非加入者」の検討を通じて、地域活動の担い手の方々が、単なる憶測の域を超えた「経験知」に基づかれて活動されていることが伺えた。日々、真摯に実直に地域と向き合い、丁寧に課題にひとつひとつ取り組まれていらっしゃるのであろう。

第10章 公園・遊歩道の利用と地域愛着の関連 ——2地域のデータを用いて

青柳 涼子

本報告書「1. 1 調査概要」に記されているように、本調査は前年度（2016年度）に千葉市緑区おゆみ野地域で実施された調査と同一の質問項目を含み、同地域内の別町丁目で実施したものである。2か年に渡って実施された調査の結果は、前年度については『平成28年度 社会調査実習報告書 第5号』に収載され、今年度については本報告書（第6号）各章に示されている。いずれの調査もサンプリング調査ではなく、調査者側が調査票を配布する町丁目を選定し、全戸配布および郵送回収という調査手法が採られているため、調査票を配布した丁目を含む「おゆみ野中央」および「おゆみ野南」といった町全体、ましてや「おゆみ野地域」全体を母集団と推定して結果を解釈することはできない。

そのような前提のもとで、しかしながら、本章では2か年の調査データを分析に用いることとする。自然景観を活かした30箇所以上の公園と総距離9.6キロの遊歩道の存在は、この地域の1つの大きな地域的特徴となっている。では、そうした地域資源を住民がどのように利活用しているのだろうか。その利活用は地域への愛着を育むきっかけとなるのだろうか。そうした関心から、これまでの2回の調査とも、調査対象者に公園と遊歩道をそれぞれの程度利用しているかを尋ねている。本章では、地域間の共通性と差異に注目しながら、公園・遊歩道の利用と地域愛着の関連を明らかにする。

なお、本章で使用するデータの出所は、以下のとおりである。

調査年	調査対象町丁目	調査対象	回収票数	本章における表記
2016年	おゆみ野中央4・5丁目	20～79歳の男女	272	おゆみ野中央
2017年	おゆみ野南5丁目	20～79歳の男女	317	おゆみ野南

それぞれの調査の概要については、淑徳大学コミュニティ政策学部『平成28年度 社会調査実習報告書 第5号』（URL：<http://www.shukutoku.ac.jp/academics/seisaku/file/h28socialresearch5.pdf>）、および本報告書「第1章」を参照されたい。

10. 1 地域別にみた対象者の基本属性

はじめに、2つの調査の調査対象者の基本属性の分布を確認しておこう（表10-1）。

調査対象者の性別は、いずれの地域においても女性に偏りがみられる。

調査対象者の世代は、おゆみ野中央で高齢層が多く、おゆみ野南では中年層が多い。このように、おゆみ野中央はすでに子育てを終えた世代が多く住んでおり、三世代家族を形成している場合を除き、小学生以下の子どもが「いない」という家族が多い。小学生以下の子どもが「いない」家族は、

おゆみ野中央では8割を超えている。

調査対象者が暮らす住宅の種類は、地域による差異がみられる。「一戸建て」の割合は、おゆみ野中央では8割近くに達しているが、おゆみ野南では5割に満たない。ただし、住宅の所有形態をみると、地域差はほとんどなく、両地域とも「持家」が8割前後を占めている。平均居住年数は、おゆみ野南のほうが4年ほど短い。

表 10-1 調査対象者の基本属性

		おゆみ野中央		おゆみ野南	
		N	%	N	%
性別	男性	111	41.0%	118	37.8%
	女性	160	59.0%	194	62.2%
世代	20～30代	53	19.6%	70	22.4%
	40～50代	92	34.1%	163	52.1%
	60～70代	125	46.3%	80	25.6%
小学生以下の 子どもの有無	いる	47	17.3%	98	31.5%
	いない	224	82.7%	213	68.5%
住宅種類	一戸建て	206	76.6%	144	46.0%
	集合住宅	63	23.4%	169	54.0%
住宅所有	持家	203	75.5%	256	81.8%
	賃貸	66	24.5%	57	18.2%
居住年数	平均	18.2		13.9	

10. 2 公園・遊歩道利用頻度の地域比較

表 10-2 と表 10-3 は、公園と遊歩道の利用頻度に関する地域比較の結果を示している。

公園の利用頻度については、地域間で有意な差が確認された（表 10-2）。公園に「まったく行かない」人の割合は、おゆみ野中央のほうがおゆみ野南よりも 13 ポイント低く、おゆみ野中央の回答者のほうが公園をよく利用していることが明らかになった。ただし、公園を「毎日」利用するという回答は、いずれの地域でも全体の 5% に届かず、少数派である。

表 10-2 地域と公園利用頻度のクロス集計表

	毎日	週に数回	月に数回	年に数回	まったく 行かない	χ^2 値	p 値
おゆみ野中央 (n=270)	4.4%	20.7%	28.9%	32.6%	13.3%	17.52	0.002 **
おゆみ野南 (n=316)	4.7%	14.2%	23.1%	31.6%	26.3%		

**: p<0.001

遊歩道の利用頻度については、地域間の差はみられなかった（表 10-3）。どちらの地域でも、およそ 6 割の回答者が「週に数回以上」遊歩道を利用しており、遊歩道は公園よりも高い頻度で利用されていることがわかる。

表 10-3 地域と遊歩道利用頻度のクロス集計表

	毎日	週に数回	月に数回	年に数回	まったく 使わない	χ^2 値	p 値	
おゆみ野中央 (n=270)	28.5%	30.4%	23.7%	14.4%	3.0%	2.36	0.670	n.s.
おゆみ野南 (n=317)	26.2%	33.8%	26.2%	11.4%	2.5%			

10. 3 地域別にみた基本属性と公園利用頻度の関連

表 10-4 から表 10-8 は、それぞれの地域での公園の利用頻度を、性別・世代別・小学生以下の子どもの有無別・住宅種類別・居住年数別に分析した結果である。期待度数が小さいセルの比率が高く検定不能になる事態を避けるため、以下の分析では、「毎日」と「週に数回」という回答を「週に数回以上」に統合し、分析している。

表 10-4 のとおり、両地域とも公園利用頻度について 5%水準で性差が認められ、男性のほうが女性よりも公園を利用している傾向がある。ただし、その傾向が顕著なおゆみ野中央に対して、おゆみ野南では「週に数回以上」という回答はむしろ女性のほうが 5 ポイントほど高くなっている。

表 10-4 性別と公園利用頻度のクロス集計表（地域別）

		週に数回以上	月に数回	年に数回	まったく 行かない	χ^2 値	p 値	
おゆみ野中央	男性 (n=109)	33.9%	28.4%	23.9%	13.8%	9.57	0.023	*
	女性 (n=160)	19.4%	29.4%	38.1%	13.1%			
おゆみ野南	男性 (n=118)	16.1%	31.4%	28.0%	24.6%	8.11	0.044	*
	女性 (n=193)	21.2%	17.6%	34.2%	26.9%			

*: p<0.05

表 10-5 のとおり、おゆみ野中央でのみ公園利用頻度に世代差がみられ、「週に数回以上」公園を利用する人の割合は、60・70 代では 4 割に近いのに対して、20・30 代や 40・50 代では 2 割以下にとどまっている。高年齢層のほう若年層よりも公園を利用する傾向があるが、「月に数回」公園を利用する者の割合は、40・50 代よりも 20・30 代のほうが高くなっている。一方、おゆみ野南では、どの年齢層でも頻繁に公園を利用する人とそうではない人とに分かれており、利用頻度に世代差はみられない。

表 10-5 世代と公園利用頻度のクロス集計表（地域別）

		週に数回以上	月に数回	年に数回	まったく 行かない	χ^2 値	p 値	
おゆみ野中央	20・30代 (n= 53)	15.1%	47.2%	17.0%	20.8%	37.94	0.000	***
	40・50代 (n= 92)	14.1%	30.4%	37.0%	18.5%			
	60・70代 (n=123)	38.2%	19.5%	35.8%	6.5%			
おゆみ野南	20・30代 (n= 70)	22.9%	25.7%	22.9%	28.6%	9.72	0.137	n.s.
	40・50代 (n=163)	14.7%	20.2%	36.8%	28.2%			
	60・70代 (n= 79)	25.3%	25.3%	30.4%	19.0%			

***: p<0.001

家族内に小学生以下の子どもがいるか否かと公園利用頻度の関連をみると、いずれの地域でも小学生の子どもが「いる」人は「いない」人よりも、公園をよく利用していることがわかる（表 10-6）。

表 10-6 小学生以下の子どもの有無と公園利用頻度のクロス集計表（地域別）

			週に数回以上	月に数回	年に数回	まったく 行かない	χ^2 値	p 値	
おゆみ野中央	いる (n= 47)		25.5%	53.2%	17.0%	4.3%	19.18	0.000	***
	いない (n=222)		25.2%	23.9%	35.6%	15.3%			
おゆみ野南	いる (n= 98)		27.6%	36.7%	30.6%	5.1%	41.76	0.000	***
	いない (n=212)		15.1%	16.5%	32.5%	35.8%			

***: p<0.001

住宅の種類と公園利用頻度の関連をみると、おゆみ野中央では 0.1%水準で、おゆみ野南では 5%水準で有意な差がみられた。いずれの地域も、「一戸建て」居住者のほうが「集合住宅」居住者よりも公園を利用している傾向がある（表 10-7）。

表 10-7 住宅種類と公園利用頻度のクロス集計表（地域別）

			週に数回以上	月に数回	年に数回	まったく 行かない	χ^2 値	p 値	
おゆみ野中央	一戸建て (n=204)		27.0%	24.5%	37.7%	10.8%	20.64	0.000	***
	集合住宅 (n= 63)		19.0%	44.4%	14.3%	22.2%			
おゆみ野南	一戸建て (n=144)		24.3%	25.0%	30.6%	20.1%	7.85	0.049	*
	集合住宅 (n=168)		14.9%	20.8%	33.3%	31.0%			

***: p<0.001 *: p<0.05

表 10-8 居住年数と公園利用頻度のクロス集計表（地域別）

			週に数回 以上	月に数回	年に数回	まったく 行かない	χ^2 値	p 値	
おゆみ野中央	15年未満 (n= 89)		23.6%	37.1%	23.6%	15.7%	15.37	0.018	*
	15年以上25年未満 (n= 91)		17.6%	24.2%	44.0%	14.3%			
	25年以上 (n= 87)		34.5%	25.3%	29.9%	10.3%			
			週に数回 以上	月に数回	年に数回	まったく 行かない	χ^2 値	p 値	
おゆみ野南	10年未満 (n=105)		22.9%	30.5%	22.9%	23.8%	11.69	0.069	†
	10年以上20年未満 (n= 86)		19.8%	19.8%	36.0%	24.4%			
	20年以上 (n=117)		15.4%	17.1%	37.6%	29.9%			

*: p<0.05 †: p<0.1

居住年数と世代（年齢）の関係は、おゆみ野中央では相関係数 0.645（有意水準 0.1%未満）と比較的に強い正の相関関係、おゆみ野南では相関係数 0.381（有意水準 0.1%未満）と弱い正の相関関係が確認されている。したがって、表 10-8 のとおり、おゆみ野中央では、世代別の分析と類似の傾向が示され、居住年数が長い人（25 年以上）が最も公園利用頻度が高く、次に「15 年未満」、1

5年以上25年未満」の順になっている。

おゆみ野南では、居住年数と公園利用頻度の間に10%水準での傾向差が確認され、居住年数が短い人（10年未満）のほうが公園をよく利用している。

10. 4 地域別にみた基本属性と遊歩道利用頻度の関連

表10-9～表10-13は、それぞれの地域での遊歩道の利用頻度を、性別・世代別・小学生以下の子どもの有無別・住宅種類別・居住年数別に分析した結果である。期待度数が小さいセルの比率が高く検定不能になる事態を避けるため、以下の分析では、調査票上に示された選択肢「毎日」と「週に数回」を「週に数回以上」に、かつ「年に数回」と「まったく使わない」を「年に数回以下」に統合して再集計し、分析している。

表10-9 性別と遊歩道利用頻度のクロス集計表（地域別）

			週に数回以上	月に数回	年に数回以下	χ^2 値	p値	
おゆみ野中央	男性 (n=110)		62.7%	25.5%	11.8%	3.67	0.160	n.s.
	女性 (n=159)		56.6%	22.6%	20.8%			
おゆみ野南	男性 (n=118)		55.1%	29.7%	15.3%	2.14	0.343	n.s.
	女性 (n=194)		63.4%	23.7%	12.9%			

表10-9が示すように、どちらの地域においても遊歩道の利用頻度と性別には有意な関連がみられなかった。

表10-10 世代と遊歩道利用頻度のクロス集計表（地域別）

			週に数回以上	月に数回	年に数回以下	χ^2 値	p値	
おゆみ野中央	20・30代 (n= 53)		45.3%	26.4%	28.3%	17.05	0.002	**
	40・50代 (n= 90)		51.1%	33.3%	15.6%			
	60・70代 (n=125)		70.4%	16.0%	13.6%			
おゆみ野南	20・30代 (n= 70)		58.6%	30.0%	11.4%	10.82	0.029	*
	40・50代 (n=163)		55.8%	25.2%	19.0%			
	60・70代 (n= 80)		71.3%	23.8%	5.0%			

**：p<0.001 *：p<0.05

表10-10のとおり、遊歩道利用頻度と世代の間には有意な関連がみられ、どちらの地域でも、基本的に高齢層の人々によく遊歩道が利用されているといえる。しかし、おゆみ野中央では、そのような傾向が比較的直線的な関係で確認されるのに対して、おゆみ野南では、60・70代の次に遊歩道を利用しているのは20・30代の人々である。

表 10-11 小学生以下の子どもの有無と遊歩道利用頻度のクロス集計表（地域別）

			週に数回以上	月に数回	年に数回以下	χ^2 値	p 値	
おゆみ野中央	いる	(n= 47)	48.9%	36.2%	14.9%	4.83	0.090	†
	いない	(n=222)	61.3%	21.2%	17.6%			
おゆみ野南	いる	(n= 98)	60.2%	29.6%	10.2%	1.85	0.397	n.s.
	いない	(n=213)	60.6%	24.4%	15.0%			

†: p<0.10

先の表 10-6 に基づき、家族に小学生以下の子どもがいる人は公園をより利用する傾向があることが確認されたが、遊歩道については、表 10-11 が示すように、両者に有意な差がなく、おゆみ野中央で傾向差が確認されるのみである。

表 10-12 住宅種類と遊歩道利用頻度のクロス集計表（地域別）

			週に数回以上	月に数回	年に数回以下	χ^2 値	p 値	
おゆみ野中央	一戸建て	(n=205)	61.0%	22.4%	16.6%	1.79	0.410	n.s.
	集合住宅	(n= 62)	51.6%	29.0%	19.4%			
おゆみ野南	一戸建て	(n=144)	63.9%	27.8%	8.3%	6.59	0.037	*
	集合住宅	(n=169)	57.4%	24.3%	18.3%			

*: p<0.05

表 10-13 居住年数と遊歩道利用頻度のクロス集計表（地域別）

			週に数回以上	月に数回	年に数回以下	χ^2 値	p 値	
おゆみ野中央	15年未満	(n= 88)	47.7%	29.5%	22.7%	16.88	0.002	**
	15年以上25年未満	(n= 91)	52.7%	27.5%	19.8%			
	25年以上	(n= 88)	76.1%	14.8%	9.1%			
			週に数回以上	月に数回	年に数回以下	χ^2 値	p 値	
おゆみ野南	15年未満	(n=105)	62.9%	24.8%	12.4%	4.36	0.359	n.s.
	15年以上25年未満	(n= 87)	66.7%	19.5%	13.8%			
	25年以上	(n=117)	53.8%	30.8%	15.4%			

**： p<0.001

公園利用については2地域とも、「一戸建て」居住者のほうが「集合住宅」居住者よりも利用頻度が高い傾向が確認されたが、遊歩道利用については、地域によって差異がみられた（表 10-12）。おゆみ野中央では、「一戸建て」居住者と「集合住宅」居住者の遊歩道利用頻度に有意な差はないが、おゆみ野南では、公園と同様に「一戸建て」居住者のほうが「集合住宅」居住者よりも遊歩道を利用する傾向がある（5%水準で有意）（表 10-13）。

前述のとおり、おゆみ野中央地域では居住年数と世代（年齢）の相関が高い。そのため、おゆみ野中央地域では、世代と遊歩道利用頻度との関連と同じ傾向が、居住年数と遊歩道利用頻度との関連においても確認される。すなわち、居住年数が長い人は短い人よりも遊歩道を利用している。一

方、おゆみ野南では、居住年数と遊歩道利用頻度との間に有意な関連はみられない。

これまでの分析結果は、以下のようにまとめることが出来る。

おゆみ野中央では、4人に1人は公園を「週に数回」利用しており、利用頻度はおゆみ野南よりも高い。属性別にみると、男性、高齢層、家族に小学生以下の子どもがいる者、戸建て居住者、居住年数が長い者が、利用頻度が高いという傾向が明らかになった。

おゆみ野南では、4人に1人は公園を「まったく利用しない」。属性別にみると、家族に小学生以下の子どもがいる者、戸建て居住者の利用頻度が高い傾向があった。言い換えると、それ以外の属性については、利用頻度との関連がないことがわかった。

遊歩道については、どちらの地域も半数以上の人「週に数回」以上利用しており、公園よりも日常的に利用されているといえる。おゆみ野中央では、高齢層、家族に小学生以下の子どもがいる者、戸建て居住者、居住年数が長い者の利用頻度が高く、公園利用の知見と類似していた。

おゆみ野南では、高齢層、戸建て居住者の遊歩道利用頻度が高かった。公園利用には有意であった家族内の小学生以下の子どもの有無との関連はみられなかった。

おゆみ野という同じまちの中にあっても、それぞれの地域の宅地開発のタイミング、それと関わる住民の世代（年齢）や居住年数の相違、おそらくは公園・遊歩道との物理的距離も関わりをもち、公園や遊歩道の利用頻度には地域差があることが示唆された。比較的に早期に宅地開発され、住民の年齢層の高いおゆみ野中央では、公園・遊歩道は、長くこの地に住む人々を中心に利用されていた。一方、遅れて宅地開発されたことで、住民の年齢層がおゆみ野中央ほど高くないおゆみ野南では、公園・遊歩道の利用頻度を左右する基本属性は明確ではなく、むしろ、個人の仕事や余暇時間などライフスタイルによって規定されている可能性がある。

10. 5 地域愛着度の地域比較

前年度も今年度も、住民の地域愛着の程度をはかるため、調査票上に地域愛着を問う項目を設けた。質問項目等の詳細は、それぞれの報告書を参照されたい。ここでは、本報告書「3. 3. 2」と同じ手順で2つの地域の「地域愛着度」をそれぞれ作成し、その平均値の差の検定（t 検定）を行った。

その結果、両地域の地域愛着の平均値は、ほとんど変わらず、統計的にみても有意な差はないことが明らかになった。

表 10-14 地域愛着度について地域別の t 検定

	平均	標準偏差	t値	p値	
おゆみ野中央 (n=262)	23.2	6.63	-0.12	0.903	n.s.
おゆみ野南 (n=309)	23.3	6.50			

最後に、本章で検討した公園利用頻度、遊歩道利用頻度、および基本属性として性別、家族内の

小学生以下の子どもの有無、居住年数を独立変数、地域愛着度を従属変数とした重回帰分析を地域ごとに行った。

おゆみ野中央では、地域愛着度に有意な効果がみられた変数は、居住年数と公園利用頻度であった。居住年数の長さは、地域愛着度を高める効果を持っている。また、公園を利用する頻度が多いことも、地域愛着度が高まる効果を有している。

おゆみ野南では、地域愛着度に有意な効果がみられた変数は、家族内の小学生以下の子どもの有無、居住年数、公園利用頻度、遊歩道利用頻度の4つである。

表 10-15 地域愛着度を従属変数にした重回帰分析（地域別）

		おゆみ野中央		おゆみ野南	
		β	r	β	r
性別	(0=男、1=女)	0.105	0.069	0.052	0.063
子どもの有無	(0=いない、1=いる)	0.052	-0.032	0.233 ***	0.119
居住年数	(0.5～40年)	0.332 ***	0.319	0.371 ***	0.234
公園利用頻度	(0～4)	0.166 *	0.182	0.141 *	0.266
遊歩道利用頻度	(0～4)	0.008	0.145	0.204 **	0.274
N		256		302	
p		0.000		0.000	
R-square		0.143		0.211	
Adjusted R-square		0.126		0.198	

***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05

これらの結果から、1つのまちの中にあっても、地域によって地域愛着を高める効果をもつ要素は異なっていることがわかる。おゆみ野中央では、遊歩道ではなく公園利用が地域愛着を高めている。おゆみ野南では、子どもの有無や居住年数といった基本属性のほか、公園・遊歩道の利用が地域愛着を高めている。これまでの分析から、おゆみ野南では、公園・遊歩道の利用頻度は、基本属性よりも個人のライフスタイルによって規定されている可能性に言及してきたが、この地域では何らかのきっかけで利用頻度が高まれば、地域愛着度が高まる効果が期待されるといえるだろう。

あとがき

本科目「社会調査実習」は、(一社)社会調査協会によって認定される社会調査士資格を取得するための必須科目となっており、社会調査協会の定めるところによれば、本科目(=社会調査協会が指定する「社会調査の実習を中心とする科目」)には、年間30回の授業を必要とする。「社会調査実習」はコミュニティ政策学部のカリキュラム編成上、前期に週2コマ、計30回というかたちを取ることもなった。社会調査士資格を取得するためには、本科目のほかに、1年次より5つの科目の履修が必要である。学生はこれまで、卒業単位とは別に、他の講義を中心とする科目と比べて課題やレポート、学習内容の多い科目を履修してきた。

さらに、本科目は前期の授業期間を終えてからも休業期間と後期の授業期間中、継続的に、データ入力作業やアンケートの集計・分析、各章の執筆作業を行ってきた。これら一連の執筆作業では、学生が日頃書くレポートとは異なり、対外的に公表されることを前提に、より高度な水準で定義の精緻や論理的な一貫性、正確な手続きなどが求められる。

本報告書の作成にあたるこの3年間は、学生にとっては相当に大変なものであっただろう。本報告書は、6名の学生の、たゆまぬ努力の果実といえよう。

また、本報告書は、「地域社会の資源の活用状況や地域活動への参加状況、地域に対する愛着評価を尋ね、人々の地域愛着や地域満足度はいかなる要因から形成されているかを明らかにすること」に対する個々の学生の努力の成果であると同時に、ご協力いただいた方々の地域に対する問いへのごく一部ではあるものの回答にもなっていると思われる。

本調査ははしがきと第1章にて述べたとおり、昨年度の調査を一部継承して実施した。昨年に引き続き、地域を視察するとともに学生一人ひとりの興味関心を高め、問題意識と仮説をより明確にするために地域にお住まいの方にお話を伺った。学生のつたない質問にも一つひとつ丁寧な回答とご意見をいただけたことは、アンケートの作成と結果の分析に大きく寄与したのみならず、これから社会に出て地域に住まう一員となっていく学生にとって大いに勉強になったようである。

社会調査に関する知識・技術はもちろんのこと、6名には、本科目で得られた多様な学びを今後の生活に存分に活かしていただきたい。

最後に、本調査にご協力いただいた地域の皆様方に厚く御礼申し上げます。貴重な時間を割いてアンケートにご回答いただいた住民の皆様、ならびに、本調査作成にあたりご協力くださった地域のキーパーソン的存在の皆様に、心より感謝申し上げます。本調査の結果が、皆様と地域全体にとって少しでも役立つことができれば幸いです。

平成30年3月
社会調査助手 小松仁美

基礎集計表

問1 あなたは、おゆみ野地域にある「公園」にどのくらいの頻度で行きますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 毎日	15	4.7	4.7	4.7
週に数回	45	14.2	14.2	19.0
月に数回	73	23.0	23.1	42.1
年に数回	100	31.5	31.6	73.7
まったく行かない	83	26.2	26.3	100.0
合計	316	99.7	100.0	
欠損値 99	1	0.3		
合計	317	100.0		

問2 あなたは、おゆみ野地域にある「遊歩道」をどのくらいの頻度で使いますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 毎日	83	26.2	26.2	26.2
週に数回	107	33.8	33.8	59.9
月に数回	83	26.2	26.2	86.1
年に数回	36	11.4	11.4	97.5
まったく使わない	8	2.5	2.5	100.0
合計	317	100.0	100.0	

問3 あなたは、「自家用車」をどのくらいの頻度で利用しますか(自分で運転せず、同乗も含みます)。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 毎日	157	49.5	49.7	49.7
週に数回	101	31.9	32.0	81.6
月に数回	38	12.0	12.0	93.7
年に数回	7	2.2	2.2	95.9
まったく利用しない	13	4.1	4.1	100.0
合計	316	99.7	100.0	
欠損値 99	1	0.3		
合計	317	100.0		

問4 あなたは「おゆみ野地域を走る路線バス」をどのくらいの頻度で利用しますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 毎日	15	4.7	4.7	4.7
週に数回	30	9.5	9.5	14.2
月に数回	80	25.2	25.2	39.4
年に数回	140	44.2	44.2	83.6
まったく利用しない	52	16.4	16.4	100.0
合計	317	100.0	100.0	

問4で1～4に○をつけた方におたずねします。

問4付問 あなたは「おゆみ野地域を走る路線バス」に満足していますか。

以下のa～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

a) バスの通る路線

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	104	32.8	39.4	39.4
どちらかといえば満足している	110	34.7	41.7	81.1
どちらかといえば不満である	37	11.7	14.0	95.1
不満である	13	4.1	4.9	100.0
合計	264	83.3	100.0	
欠損値 88	52	16.4		
99	1	0.3		
合計	53	16.7		
合計	317	100.0		

b) バスの本数

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	66	20.8	25.0	25.0
どちらかといえば満足している	118	37.2	44.7	69.7
どちらかといえば不満である	52	16.4	19.7	89.4
不満である	28	8.8	10.6	100.0
合計	264	83.3	100.0	
欠損値 88	52	16.4		
99	1	0.3		
合計	53	16.7		
合計	317	100.0		

c) 運賃

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	52	16.4	19.7	19.7
どちらかといえば満足している	127	40.1	48.1	67.8
どちらかといえば不満である	69	21.8	26.1	93.9
不満である	16	5.0	6.1	100.0
合計	264	83.3	100.0	
欠損値 88	52	16.4		
99	1	0.3		
合計	53	16.7		
合計	317	100.0		

d) 目的地までの時間の正確性

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	56	17.7	21.2	21.2
どちらかといえば満足している	135	42.6	51.1	72.3
どちらかといえば不満である	55	17.4	20.8	93.2
不満である	18	5.7	6.8	100.0
合計	264	83.3	100.0	
欠損値 88	52	16.4		
99	1	0.3		
合計	53	16.7		
合計	317	100.0		

全員の方におたずねします。

問5 あなたが「最も利用する駅」はどこですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 おゆみ野駅・学園前駅（京成線）	87	27.4	27.4	27.4
鎌取駅（JR線）	221	69.7	69.7	97.2
その他	2	0.6	0.6	97.8
利用しない	7	2.2	2.2	100.0
合計	317	100.0	100.0	

問5で1～3に○をつけた方におたずねします。

問5付問1 あなたは「最も利用する駅」からの電車をどのくらいの頻度で利用しますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 毎日	56	17.7	18.1	18.1
週に数回	47	14.8	15.2	33.2
月に数回	95	30.0	30.6	63.9
年に数回	112	35.3	36.1	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 88	7	2.2		
合計	317	100.0		

問5付問2 「最も利用する駅」からの電車について、満足していますか。

以下のa～cそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

a) 電車の本数

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	37	11.7	12.2	12.2
どちらかといえば満足している	104	32.8	34.3	46.5
どちらかといえば不満である	103	32.5	34.0	80.5
不満である	59	18.6	19.5	100.0
合計	303	95.6	100.0	
欠損値 88	6	1.9		
99	8	2.5		
合計	14	4.4		
合計	317	100.0		

b) 運賃

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	44	13.9	14.6	14.6
どちらかといえば満足している	125	39.4	41.4	56.0
どちらかといえば不満である	85	26.8	28.1	84.1
不満である	48	15.1	15.9	100.0
合計	302	95.3	100.0	
欠損値 88	6	1.9		
99	9	2.8		
合計	15	4.7		
合計	317	100.0		

c) 自宅から駅までのアクセスのしやすさ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	47	14.8	15.6	15.6
どちらかといえば満足している	135	42.6	44.9	60.5
どちらかといえば不満である	88	27.8	29.2	89.7
不満である	31	9.8	10.3	100.0
合計	301	95.0	100.0	
欠損値 88	6	1.9		
99	10	3.2		
合計	16	5.0		
合計	317	100.0		

全員の方におたずねします。

問6 「おゆみ野地域の地域活動」についておたずねします。以下のa～jそれぞれについてあてはまるものに○をつけてください。なお、Ⅰ.活動認知、Ⅱ.活動経験の両方にお答えください。

Ⅰ.活動認知

a) 健康や医療サービスに関連した活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	137	43.2	44.3	44.3
知らない	172	54.3	55.7	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

b) 高齢者を対象にした活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	109	34.4	35.2	35.2
知らない	201	63.4	64.8	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

c) 障がい者を対象とした活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	55	17.4	17.9	17.9
知らない	253	79.8	82.1	100.0
合計	308	97.2	100.0	
欠損値 99	9	2.8		
合計	317	100.0		

d) 子どもを対象にした活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	157	49.5	51.0	51.0
知らない	151	47.6	49.0	100.0
合計	308	97.2	100.0	
欠損値 99	9	2.8		
合計	317	100.0		

e) スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	230	72.6	74.9	74.9
知らない	77	24.3	25.1	100.0
合計	307	96.8	100.0	
欠損値 99	10	3.2		
合計	317	100.0		

f) まちづくりのための活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	228	71.9	74.5	74.5
知らない	78	24.6	25.5	100.0
合計	306	96.5	100.0	
欠損値 99	11	3.5		
合計	317	100.0		

g) 安全な生活のための活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	215	67.8	69.8	69.8
知らない	93	29.3	30.2	100.0
合計	308	97.2	100.0	
欠損値 99	9	2.8		
合計	317	100.0		

h) 自然や環境を守るための活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	154	48.6	50.3	50.3
知らない	152	47.9	49.7	100.0
合計	306	96.5	100.0	
欠損値 99	11	3.5		
合計	317	100.0		

i) 災害に関係した活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	169	53.3	54.9	54.9
知らない	139	43.8	45.1	100.0
合計	308	97.2	100.0	
欠損値 99	9	2.8		
合計	317	100.0		

j) 国際協力に関係した活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 知っている	15	4.7	4.9	4.9
知らない	291	91.8	95.1	100.0
合計	306	96.5	100.0	
欠損値 99	11	3.5		
合計	317	100.0		

Ⅱ．活動経験

a) 健康や医療サービスに関連した活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	38	12.0	12.9	12.9
参加したことがない	240	75.7	81.6	94.6
参加したことがないが今後参加したい	16	5.0	5.4	100.0
合計	294	92.7	100.0	
欠損値 99	23	7.3		
合計	317	100.0		

b) 高齢者を対象にした活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	7	2.2	2.4	2.4
参加したことがない	266	83.9	89.9	92.2
参加したことがないが今後参加したい	23	7.3	7.8	100.0
合計	296	93.4	100.0	
欠損値 99	21	6.6		
合計	317	100.0		

c) 障がい者を対象とした活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	3	0.9	1.0	1.0
参加したことがない	272	85.8	92.8	93.9
参加したことがないが今後参加したい	18	5.7	6.1	100.0
合計	293	92.4	100.0	
欠損値 99	24	7.6		
合計	317	100.0		

d) 子どもを対象にした活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	53	16.7	17.8	17.8
参加したことがない	217	68.5	72.8	90.6
参加したことがないが今後参加したい	28	8.8	9.4	100.0
合計	298	94.0	100.0	
欠損値 99	19	6.0		
合計	317	100.0		

e) スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	84	26.5	28.2	28.2
参加したことがない	190	59.9	63.8	91.9
参加したことがないが今後参加したい	24	7.6	8.1	100.0
合計	298	94.0	100.0	
欠損値 99	19	6.0		
合計	317	100.0		

f) まちづくりのための活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	125	39.4	41.7	41.7
参加したことがない	151	47.6	50.3	92.0
参加したことがないが今後参加したい	24	7.6	8.0	100.0
合計	300	94.6	100.0	
欠損値 99	17	5.4		
合計	317	100.0		

g) 安全な生活のための活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	46	14.5	15.3	15.3
参加したことがない	228	71.9	76.0	91.3
参加したことがないが今後参加したい	26	8.2	8.7	100.0
合計	300	94.6	100.0	
欠損値 99	17	5.4		
合計	317	100.0		

h) 自然や環境を守るための活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	20	6.3	6.7	6.7
参加したことがない	247	77.9	82.6	89.3
参加したことがないが今後参加したい	32	10.1	10.7	100.0
合計	299	94.3	100.0	
欠損値 99	18	5.7		
合計	317	100.0		

i) 災害に関係した活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	56	17.7	18.7	18.7
参加したことがない	216	68.1	72.2	91.0
参加したことがないが今後参加したい	27	8.5	9.0	100.0
合計	299	94.3	100.0	
欠損値 99	18	5.7		
合計	317	100.0		

j) 国際協力に関係した活動

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
参加したことがある	1	0.3	0.3	0.3
参加したことがない	272	85.8	92.8	93.2
参加したことがないが今後参加したい	20	6.3	6.8	100.0
合計	293	92.4	100.0	
欠損値 99	24	7.6		
合計	317	100.0		

問6のa～jの活動に1つでも「参加したことがある」と答えた方におたずねします。
 問6付問 あなたは、参加した地域活動を通して以下のa～fのようなことがらを感しましたか？
 それぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

a) 活動を通して、私生活が楽になった

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	20	6.3	11.8	11.8
どちらかといえばあてはまる	87	27.4	51.2	62.9
どちらかといえばあてはまらない	43	13.6	25.3	88.2
あてはまらない	20	6.3	11.8	100.0
合計	170	53.6	100.0	
欠損値				
88	130	41.0		
99	17	5.4		
合計	147	46.4		
合計	317	100.0		

b) 活動を通して、知り合いが増えた

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	16	5.0	9.4	9.4
どちらかといえばあてはまる	67	21.1	39.2	48.5
どちらかといえばあてはまらない	50	15.8	29.2	77.8
あてはまらない	38	12.0	22.2	100.0
合計	171	53.9	100.0	
欠損値				
88	130	41.0		
99	16	5.0		
合計	146	46.1		
合計	317	100.0		

c) 活動を通して、自分自身が成長できた

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	11	3.5	6.4	6.4
どちらかといえばあてはまる	64	20.2	37.4	43.9
どちらかといえばあてはまらない	63	19.9	36.8	80.7
あてはまらない	33	10.4	19.3	100.0
合計	171	53.9	100.0	
欠損値				
88	130	41.0		
99	16	5.0		
合計	146	46.1		
合計	317	100.0		

d) 活動を通して、新しい地域情報が得られた

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	22	6.9	12.9	12.9
どちらかといえばあてはまる	80	25.2	47.1	60.0
どちらかといえばあてはまらない	40	12.6	23.5	83.5
あてはまらない	28	8.8	16.5	100.0
合計	170	53.6	100.0	
欠損値				
88	130	41.0		
99	17	5.4		
合計	147	46.4		
合計	317	100.0		

e) 活動を通して、社会に貢献していると感じた

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	8	2.5	4.7	4.7
どちらかといえばあてはまる	61	19.2	35.7	40.4
どちらかといえばあてはまらない	64	20.2	37.4	77.8
あてはまらない	38	12.0	22.2	100.0
合計	171	53.9	100.0	
欠損値				
88	130	41.0		
99	16	5.0		
合計	146	46.1		
合計	317	100.0		

f) 活動にやりがいを感じた

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	11	3.5	6.4	6.4
どちらかといえばあてはまる	61	19.2	35.7	42.1
どちらかといえばあてはまらない	65	20.5	38.0	80.1
あてはまらない	34	10.7	19.9	100.0
合計	171	53.9	100.0	
欠損値				
88	130	41.0		
99	16	5.0		
合計	146	46.1		
合計	317	100.0		

全員の方におたずねします。

問7 あなたには、「近隣」に次のような方がいますか。

以下のa～hそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

a) 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
たくさんいる	15	4.7	4.8	4.8
数人いる	109	34.4	35.2	40.0
一人二人いる	84	26.5	27.1	67.1
いない	102	32.2	32.9	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値				
99	7	2.2		
合計	317	100.0		

b) 互いの家によく訪問し合う人

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
たくさんいる	5	1.6	1.6	1.6
数人いる	38	12.0	12.3	13.9
一人二人いる	54	17.0	17.4	31.3
いない	213	67.2	68.7	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値				
99	7	2.2		
合計	317	100.0		

c) よくおすそ分けし合う人

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
たくさんいる	2	0.6	0.6	0.6
数人いる	57	18.0	18.4	19.1
一人二人いる	91	28.7	29.4	48.5
いない	159	50.2	51.5	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

d) 家族ぐるみのつきあいをしている人

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
たくさんいる	4	1.3	1.3	1.3
数人いる	41	12.9	13.2	14.5
一人二人いる	57	18.0	18.4	32.9
いない	208	65.6	67.1	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

e) 一緒に外出するような関係の人

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
たくさんいる	5	1.6	1.6	1.6
数人いる	36	11.4	11.6	13.2
一人二人いる	58	18.3	18.7	31.9
いない	211	66.6	68.1	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

f) 災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
たくさんいる	1	0.3	0.3	0.3
数人いる	54	17.0	17.4	17.7
一人二人いる	100	31.5	32.3	50.0
いない	155	48.9	50.0	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

g) 災害時に家族員の誰か（ペットを含む）を1～2時間任せられる人

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
たくさんいる	3	0.9	1.0	1.0
数人いる	37	11.7	12.0	12.9
一人二人いる	88	27.8	28.5	41.4
いない	181	57.1	58.6	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

h) 災害時に安否が気になる人

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
たくさんいる	15	4.7	4.9	4.9
数人いる	70	22.1	22.7	27.5
一人二人いる	88	27.8	28.5	56.0
いない	136	42.9	44.0	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

問8 あなたは、もし、大きな自然災害(震度6レベルの地震など)が起こった場合、どの程度不安を感じますか？
以下のa～eそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

a) 家族と連絡が取れなくなる事

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
強い不安を感じる	213	67.2	68.9	68.9
不安を感じる	90	28.4	29.1	98.1
不安を感じない	6	1.9	1.9	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

b) 正確な情報が得られなくなる事

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
強い不安を感じる	164	51.7	53.1	53.1
不安を感じる	138	43.5	44.7	97.7
不安を感じない	7	2.2	2.3	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

c) 住居の一部が破損すること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
強い不安を感じる	139	43.8	45.0	45.0
不安を感じる	153	48.3	49.5	94.5
不安を感じない	17	5.4	5.5	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

d) ケガで他者の手助けが必要になること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
強い不安を感じる	135	42.6	43.8	43.8
不安を感じる	158	49.8	51.3	95.1
不安を感じない	15	4.7	4.9	100.0
合計	308	97.2	100.0	
欠損値 99	9	2.8		
合計	317	100.0		

e) 避難所で集団生活すること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 強い不安を感じる	158	49.8	51.1	51.1
不安を感じる	126	39.7	40.8	91.9
不安を感じない	25	7.9	8.1	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

問9 あなたはお住まいのまちについてどのように感じていますか。
以下のa～kそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

a) このまちではリラックスできる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 あてはまる	134	42.3	43.2	43.2
どちらかといえばあてはまる	160	50.5	51.6	94.8
どちらかといえばあてはまらない	13	4.1	4.2	99.0
あてはまらない	3	0.9	1.0	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

b) 雰囲気や土地柄が気に入っている

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 あてはまる	140	44.2	45.0	45.0
どちらかといえばあてはまる	147	46.4	47.3	92.3
どちらかといえばあてはまらない	19	6.0	6.1	98.4
あてはまらない	5	1.6	1.6	100.0
合計	311	98.1	100.0	
欠損値 99	6	1.9		
合計	317	100.0		

c) このまちを歩くのは気持ちよい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 あてはまる	162	51.1	51.9	51.9
どちらかといえばあてはまる	137	43.2	43.9	95.8
どちらかといえばあてはまらない	10	3.2	3.2	99.0
あてはまらない	3	0.9	1.0	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

d) お気に入りの場所がある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 あてはまる	91	28.7	29.3	29.3
どちらかといえばあてはまる	127	40.1	40.8	70.1
どちらかといえばあてはまらない	74	23.3	23.8	93.9
あてはまらない	19	6.0	6.1	100.0
合計	311	98.1	100.0	
欠損値 99	6	1.9		
合計	317	100.0		

e) 近所に友達や知り合いがいる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	96	30.3	31.0	31.0
どちらかといえばあてはまる	122	38.5	39.4	70.3
どちらかといえばあてはまらない	45	14.2	14.5	84.8
あてはまらない	47	14.8	15.2	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

f) 自分のまちという感じがする

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	84	26.5	27.0	27.0
どちらかといえばあてはまる	132	41.6	42.4	69.5
どちらかといえばあてはまらない	74	23.3	23.8	93.2
あてはまらない	21	6.6	6.8	100.0
合計	311	98.1	100.0	
欠損値 99	6	1.9		
合計	317	100.0		

g) このまちが好きだ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	123	38.8	39.5	39.5
どちらかといえばあてはまる	153	48.3	49.2	88.7
どちらかといえばあてはまらない	24	7.6	7.7	96.5
あてはまらない	11	3.5	3.5	100.0
合計	311	98.1	100.0	
欠損値 99	6	1.9		
合計	317	100.0		

h) まちに思い出がある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	71	22.4	22.9	22.9
どちらかといえばあてはまる	114	36.0	36.8	59.7
どちらかといえばあてはまらない	83	26.2	26.8	86.5
あてはまらない	42	13.2	13.5	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

i) まちに自分の居場所がある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	81	25.6	26.0	26.0
どちらかといえばあてはまる	128	40.4	41.2	67.2
どちらかといえばあてはまらない	81	25.6	26.0	93.2
あてはまらない	21	6.6	6.8	100.0
合計	311	98.1	100.0	
欠損値 99	6	1.9		
合計	317	100.0		

j) このまちは住みやすい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	146	46.1	46.6	46.6
どちらかといえばあてはまる	147	46.4	47.0	93.6
どちらかといえばあてはまらない	15	4.7	4.8	98.4
あてはまらない	5	1.6	1.6	100.0
合計	313	98.7	100.0	
欠損値 99	4	1.3		
合計	317	100.0		

k) このまちにずっと住みたい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
あてはまる	115	36.3	37.0	37.0
どちらかといえばあてはまる	136	42.9	43.7	80.7
どちらかといえばあてはまらない	47	14.8	15.1	95.8
あてはまらない	13	4.1	4.2	100.0
合計	311	98.1	100.0	
欠損値 99	6	1.9		
合計	317	100.0		

問10 あなたの性別を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
男性	118	37.2	37.8	37.8
女性	194	61.2	62.2	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

問11 あなたの年齢を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
20～29歳	26	8.2	8.3	8.3
30～39歳	44	13.9	14.1	22.4
40～49歳	97	30.6	31.0	53.4
50～59歳	66	20.8	21.1	74.4
60～69歳	40	12.6	12.8	87.2
70～79歳	40	12.6	12.8	100.0
合計	313	98.7	100.0	
欠損値 99	4	1.3		
合計	317	100.0		

問12 あなたの配偶関係を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
未婚	42	13.2	13.4	13.4
既婚（現在、配偶者がいる）	239	75.4	76.4	89.8
既婚の経験あり（離・死別）	32	10.1	10.2	100.0
合計	313	98.7	100.0	
欠損値 99	4	1.3		
合計	317	100.0		

問13 あなたの家族構成を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 一人暮らし	42	13.2	13.5	13.5
夫婦のみ	69	21.8	22.3	35.8
夫婦と未婚の子ども（ひとり親を含む）	177	55.8	57.1	92.9
その他	22	6.9	7.1	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

問14 あなたの家族には、小学生以下の子どもがいますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 いる	98	30.9	31.5	31.5
いない	213	67.2	68.5	100.0
合計	311	98.1	100.0	
欠損値 99	6	1.9		
合計	317	100.0		

問15 あなたの現在のお住まいについて、あてはまるものに○をつけてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 一戸建て（持家）	136	42.9	43.5	43.5
一戸建て（賃貸）	8	2.5	2.6	46.0
集合住宅（持家）	120	37.9	38.3	84.3
集合住宅（賃貸）	49	15.5	15.7	100.0
合計	313	98.7	100.0	
欠損値 99	4	1.3		
合計	317	100.0		

問16 あなたの住んでいる地域には、自治会（町内会）・管理組合はありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 自治会（町内会）がある	121	38.2	38.8	38.8
管理組合がある	57	18.0	18.3	57.1
自治会（町内会）も管理組合もある	69	21.8	22.1	79.2
自治会（町内会）も管理組合もない	21	6.6	6.7	85.9
あるかどうか、わからない	44	13.9	14.1	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

問16で1～3に○をつけた方におたずねします。

問16付問 あなたの家は、自治会もしくは管理組合に加入していますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 加入している	219	69.1	89.0	89.0
加入していない	27	8.5	11.0	100.0
合計	246	77.6	100.0	
欠損値 88	64	20.2		
99	7	2.2		
合計	71	22.4		
合計	317	100.0		

問17 あなたは、おゆみ野地域に何年お住まいですか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 0.5	8	2.5	2.6	2.6
1.0	5	1.6	1.6	4.2
2.0	7	2.2	2.3	6.5
3.0	5	1.6	1.6	8.1
4.0	8	2.5	2.6	10.7
5.0	16	5.0	5.2	15.9
6.0	25	7.9	8.1	23.9
7.0	14	4.4	4.5	28.5
8.0	9	2.8	2.9	31.4
9.0	8	2.5	2.6	34.0
10.0	19	6.0	6.1	40.1
11.0	4	1.3	1.3	41.4
12.0	8	2.5	2.6	44.0
13.0	12	3.8	3.9	47.9
14.0	7	2.2	2.3	50.2
15.0	13	4.1	4.2	54.4
16.0	5	1.6	1.6	56.0
17.0	6	1.9	1.9	57.9
18.0	8	2.5	2.6	60.5
19.0	5	1.6	1.6	62.1
20.0	44	13.9	14.2	76.4
21.0	24	7.6	7.8	84.1
22.0	19	6.0	6.1	90.3
23.0	11	3.5	3.6	93.9
24.0	4	1.3	1.3	95.1
25.0	9	2.8	2.9	98.1
27.0	2	0.6	0.6	98.7
28.0	1	0.3	0.3	99.0
30.0	1	0.3	0.3	99.4
31.0	1	0.3	0.3	99.7
32.0	1	0.3	0.3	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

問18 現在お住まいの地域について、あなたはどの程度満足していますか。
以下のa～nそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

a) 日常生活に便利

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	160	50.5	51.3	51.3
やや満足している	137	43.2	43.9	95.2
あまり満足していない	12	3.8	3.8	99.0
満足していない	3	0.9	1.0	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

b) 余暇行動に便利

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
満足している	99	31.2	32.0	32.0
やや満足している	165	52.1	53.4	85.4
あまり満足していない	37	11.7	12.0	97.4
満足していない	8	2.5	2.6	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

c) 移動に便利

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
満足している	76	24.0	24.4	24.4
やや満足している	133	42.0	42.6	67.0
あまり満足していない	84	26.5	26.9	93.9
満足していない	19	6.0	6.1	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

d) 自然の豊かさ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
満足している	147	46.4	47.1	47.1
やや満足している	144	45.4	46.2	93.3
あまり満足していない	19	6.0	6.1	99.4
満足していない	2	0.6	0.6	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

e) 近隣住民との交流のしやすさ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
満足している	44	13.9	14.2	14.2
やや満足している	135	42.6	43.7	57.9
あまり満足していない	109	34.4	35.3	93.2
満足していない	21	6.6	6.8	100.0
合計	309	97.5	100.0	
欠損値 99	8	2.5		
合計	317	100.0		

f) 家族や友人との交流のしやすさ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
満足している	62	19.6	20.0	20.0
やや満足している	171	53.9	55.2	75.2
あまり満足していない	62	19.6	20.0	95.2
満足していない	15	4.7	4.8	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

g) 人口密度が適度

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
満足している	70	22.1	22.6	22.6
やや満足している	182	57.4	58.7	81.3
有効数 あまり満足していない	50	15.8	16.1	97.4
満足していない	8	2.5	2.6	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

h) まちの美しさ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	103	32.5	33.1	33.1
やや満足している	174	54.9	55.9	89.1
あまり満足していない	31	9.8	10.0	99.0
満足していない	3	0.9	1.0	100.0
合計	311	98.1	100.0	
欠損値 99	6	1.9		
合計	317	100.0		

i) まちの静かさ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	96	30.3	31.0	31.0
やや満足している	165	52.1	53.2	84.2
あまり満足していない	44	13.9	14.2	98.4
満足していない	5	1.6	1.6	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

j) 治安のよさ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	69	21.8	22.2	22.2
やや満足している	176	55.5	56.6	78.8
あまり満足していない	60	18.9	19.3	98.1
満足していない	6	1.9	1.9	100.0
合計	311	98.1	100.0	
欠損値 99	6	1.9		
合計	317	100.0		

k) 地方自治体の行政サービスのよさ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	21	6.6	6.8	6.8
やや満足している	169	53.3	55.0	61.9
あまり満足していない	98	30.9	31.9	93.8
満足していない	19	6.0	6.2	100.0
合計	307	96.8	100.0	
欠損値 99	10	3.2		
合計	317	100.0		

l) 自然災害の少なさ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	98	30.9	31.6	31.6
やや満足している	188	59.3	60.6	92.3
あまり満足していない	21	6.6	6.8	99.0
満足していない	3	0.9	1.0	100.0
合計	310	97.8	100.0	
欠損値 99	7	2.2		
合計	317	100.0		

m) 緊急トラブル体制の整備

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	21	6.6	6.9	6.9
やや満足している	178	56.2	58.2	65.0
あまり満足していない	95	30.0	31.0	96.1
満足していない	12	3.8	3.9	100.0
合計	306	96.5	100.0	
欠損値 99	11	3.5		
合計	317	100.0		

n) 物価の安さ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 満足している	18	5.7	5.8	5.8
やや満足している	177	55.8	56.7	62.5
あまり満足していない	98	30.9	31.4	93.9
満足していない	19	6.0	6.1	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

問19 あなたの職業を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数 経営者・役員	5	1.6	1.6	1.6
常時雇用されている会社員・団体職員・公務員	114	36.0	36.5	38.1
派遣社員・契約社員・嘱託社員	22	6.9	7.1	45.2
パート・アルバイト	56	17.7	17.9	63.1
自営業主（家族従業者を含む）自由業者	13	4.1	4.2	67.3
専業主婦	37	11.7	11.9	79.2
年金生活	50	15.8	16.0	95.2
学生	10	3.2	3.2	98.4
その他	5	1.6	1.6	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

問20 あなたが最後に通った(または在学中の)学校を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
中学校	2	0.6	0.6	0.6
高校	81	25.6	25.6	26.3
専門学校	40	12.6	12.7	38.9
短大・高専	50	15.8	15.8	54.7
大学	123	38.8	38.9	93.7
大学院	18	5.7	5.7	99.4
その他	2	0.6	0.6	100.0
合計	316	99.7	100.0	
欠損値 99	1	0.3		
合計	317	100.0		

問21 あなたは、「未成年」が情報機器を利用したり所有したりするのは、いつ頃からが適切と考えますか。
以下のa～eそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

a) 機能が制限された子ども用の携帯電話を利用すること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
就学前	7	2.2	2.2	2.2
小学校低学年	92	29.0	29.4	31.6
小学校高学年	123	38.8	39.3	70.9
中学生	67	21.1	21.4	92.3
高校生以上	23	7.3	7.3	99.7
不要	1	0.3	0.3	100.0
合計	313	98.7	100.0	
欠損値 99	4	1.3		
合計	317	100.0		

b) 家族のスマートフォンを利用すること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
就学前	14	4.4	4.6	4.6
小学校低学年	46	14.5	15.0	19.5
小学校高学年	103	32.5	33.6	53.1
中学生	100	31.5	32.6	85.7
高校生以上	41	12.9	13.4	99.0
不要	3	0.9	1.0	100.0
合計	307	96.8	100.0	
欠損値 99	10	3.2		
合計	317	100.0		

c) 家族のパソコンを利用すること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
就学前	12	3.8	3.8	3.8
小学校低学年	66	20.8	21.2	25.0
小学校高学年	112	35.3	35.9	60.9
中学生	95	30.0	30.4	91.3
高校生以上	26	8.2	8.3	99.7
不要	1	0.3	0.3	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

d) 個人のスマートフォンを持つこと

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
就学前	1	0.3	0.3	0.3
小学校低学年	4	1.3	1.3	1.6
小学校高学年	20	6.3	6.4	8.0
中学生	137	43.2	43.9	51.9
高校生以上	149	47.0	47.8	99.7
不要	1	0.3	0.3	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

e) 個人のパソコンをもつこと

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
就学前	2	0.6	0.7	0.7
小学校低学年	5	1.6	1.7	2.3
小学校高学年	20	6.3	6.6	8.9
中学生	64	20.2	21.1	30.0
高校生以上	210	66.2	69.3	99.3
不要	2	0.6	0.7	100.0
合計	303	95.6	100.0	
欠損値 99	14	4.4		
合計	317	100.0		

問22 あなたのコンピュータに対する意識についておたずねします。
以下のa～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

a) コンピュータと聞いただけで、もうお手上げの気持ちだ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
そう思う	25	7.9	7.9	7.9
どちらかといえばそう思う	66	20.8	20.9	28.8
どちらかといえばそう思わない	94	29.7	29.7	58.5
そう思わない	131	41.3	41.5	100.0
合計	316	99.7	100.0	
欠損値 99	1	0.3		
合計	317	100.0		

b) これからの社会はコンピュータによって支配されてしまうような気がする

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
そう思う	56	17.7	17.8	17.8
どちらかといえばそう思う	111	35.0	35.2	53.0
どちらかといえばそう思わない	96	30.3	30.5	83.5
そう思わない	52	16.4	16.5	100.0
合計	315	99.4	100.0	
欠損値 99	2	0.6		
合計	317	100.0		

c) コンピュータに頼りすぎると将来、何か良くないことが起こりそうな気がする

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
そう思う	54	17.0	17.2	17.2
どちらかといえばそう思う	124	39.1	39.5	56.7
どちらかといえばそう思わない	91	28.7	29.0	85.7
そう思わない	45	14.2	14.3	100.0
合計	314	99.1	100.0	
欠損値 99	3	0.9		
合計	317	100.0		

d) 技術発展の発展によって世の中が急速に発展していくことに不安を感じる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
そう思う	42	13.2	13.5	13.5
どちらかといえばそう思う	89	28.1	28.5	42.0
どちらかといえばそう思わない	130	41.0	41.7	83.7
そう思わない	51	16.1	16.3	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

e) コンピュータは人間の弱点を補ってくれる便利な機械だ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
そう思う	68	21.5	21.7	21.7
どちらかといえばそう思う	181	57.1	57.8	79.6
どちらかといえばそう思わない	54	17.0	17.3	96.8
そう思わない	10	3.2	3.2	100.0
合計	313	98.7	100.0	
欠損値 99	4	1.3		
合計	317	100.0		

f) コンピュータは人間よりも正直、信頼できる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効数				
そう思う	12	3.8	3.8	3.8
どちらかといえばそう思う	103	32.5	33.0	36.9
どちらかといえばそう思わない	137	43.2	43.9	80.8
そう思わない	60	18.9	19.2	100.0
合計	312	98.4	100.0	
欠損値 99	5	1.6		
合計	317	100.0		

調 査 票

地域生活に対する住民意識アンケート

問1 あなたは、おゆみ野地域にある「公園」にどのくらいの頻度で行きますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 毎日	2. 週に数回	3. 月に数回	4. 年に数回	5. まったく行かない
-------	---------	---------	---------	-------------

問2 あなたは、おゆみ野地域にある「遊歩道」をどのくらいの頻度で使いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 毎日	2. 週に数回	3. 月に数回	4. 年に数回	5. まったく使わない
-------	---------	---------	---------	-------------

問3 あなたは、「自家用車」をどのくらいの頻度で利用しますか（自分で運転せず、同乗も含みます）。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 毎日	2. 週に数回	3. 月に数回	4. 年に数回	5. まったく利用しない
-------	---------	---------	---------	--------------

問4 あなたは「おゆみ野地域を走る路線バス」をどのくらいの頻度で利用しますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 毎日	2. 週に数回	3. 月に数回	4. 年に数回	5. まったく利用しない
-------	---------	---------	---------	--------------

問4で1～4に○をつけた方におたずねします。

問4付問 あなたは「おゆみ野地域を走る路線バス」に満足していますか。

以下のa～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

満足している	どちらかといえ 満足している	どちらかといえ 不満である	不満である
--------	-------------------	------------------	-------

- a) バスの通る路線 1 2 3 4
- b) バスの本数 1 2 3 4
- c) 運賃 1 2 3 4
- d) 目的地までの時間の正確性 1 2 3 4

全員の方におたずねします。

問5 あなたが「最も利用する駅」はどこですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. おゆみ野駅・学園前駅（京成線）	2. 鎌取駅（JR線）	3. その他	4. 利用しない
--------------------	-------------	--------	----------

問5で1～3に○をつけた方におたずねします。

問5付問1 あなたは「最も利用する駅」からの電車をどのくらいの頻度で利用しますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 毎日	2. 週に数回	3. 月に数回	4. 年に数回
-------	---------	---------	---------

問5付問2 「最も利用する駅」からの電車について、満足していますか。

以下のa～cそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	不満である
--------	----------------	---------------	-------

- a) 電車の本数 1 2 3 4
- b) 運賃 1 2 3 4
- c) 自宅から駅までのアクセスのしやすさ 1 2 3 4

全員の方におたずねします。

問6 「おゆみ野地域の地域活動」についておたずねします。以下のa～jそれぞれについてあてはまるものに

○をつけてください。なお、I. 活動認知、II. 活動経験の両方にお答えください。

	I. 活動認知		II. 活動経験		
	知っている	知らない	参加したことがある	参加したことがない	参加したことはないが 今後参加したい
a) 健康や医療サービスに関係した活動 (ラジオ体操・シニアリーダー体操 等)	1	2	1	2	3
b) 高齢者を対象にした活動 (地域見守り・支えあい・サロン活動・シニアクラブ 等)	1	2	1	2	3
c) 障がい者を対象とした活動 (手話サークル 等)	1	2	1	2	3
d) 子どもを対象とした活動 (セーフティウォッチャー・「おゆみ野 cafe」・体操教室等)	1	2	1	2	3
e) スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動 (音楽祭・体育祭・文化祭・駅伝大会 等)	1	2	1	2	3
f) まちづくりのための活動 (「はたの道のり」・ウォークラリー・夏祭り等)	1	2	1	2	3
g) 安全な生活のための活動 (青パト・防犯パトロール 等)	1	2	1	2	3
h) 自然や環境を守るための活動 (森の保全活動・公園清掃・花壇づくり 等)	1	2	1	2	3
i) 災害に関係した活動 (避難所運営・自主防災組織 等)	1	2	1	2	3
j) 国際協力に関係した活動 (日本語教室 等)	1	2	1	2	3

問6のa～jの活動に1つでも「参加したことがある」と答えた方におたずねします。

問6付問 あなたは、参加した地域活動を通して以下のa～fのようなことがらを感じましたか？
それぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

あてはまる	あてはまる どちらかといえば	あてはまらない どちらかといえば	あてはまらない
-------	-------------------	---------------------	---------

- a) 活動を通して、私生活が楽になった 1 2 3 4
b) 活動を通して、知り合いが増えた 1 2 3 4
c) 活動を通して、自分自身が成長できた 1 2 3 4
d) 活動を通して、新しい地域情報が得られた 1 2 3 4
e) 活動を通して、社会に貢献していると感じた 1 2 3 4
f) 活動にやりがいを感じた 1 2 3 4

全員の方におたずねします。

問7 あなたには、「近隣」に次のような方がいますか。

以下のa～hそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

たくさんいる	数人いる	一人二人いる	いない
--------	------	--------	-----

- a) 庭先や道端で会うとよく立ち話をする人 1 2 3 4
b) 互いの家によく訪問し合う人 1 2 3 4
c) よくおすそ分けし合う人 1 2 3 4
d) 家族ぐるみのつきあいをしている人 1 2 3 4
e) よく一緒に外出するような関係の人 1 2 3 4
f) 災害時に自宅周辺の様子を教えてくれる人 1 2 3 4
g) 災害時に家族員の誰か（ペットを含む）を1～2時間任せられる人 1 2 3 4
h) 災害時に安否が気になる人 1 2 3 4

問8 あなたは、もし、大きな自然災害（震度6レベルの地震など）が起こった場合、どの程度不安を感じますか？

以下のa～eそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

強い不安を感じる	不安を感じる	不安を感じない
----------	--------	---------

- a) 家族と連絡が取れなくなること 1 2 3
b) 正確な情報が得られなくなること 1 2 3
c) 住居の一部が破損すること 1 2 3
d) ケガで他者の手助けが必要になること 1 2 3
e) 避難所で集団生活すること 1 2 3

問9 あなたはお住まいのまちについてどのように感じていますか。

以下のa～kそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

あてはまる	あてはまる どちらかというと	あてはまらない どちらかというと	あてはまらない
-------	-------------------	---------------------	---------

- a) このまちではリラックスできる 1 2 3 4
- b) 雰囲気や土地柄が気に入っている 1 2 3 4
- c) このまちを歩くのは気持ちよい 1 2 3 4
- d) お気に入りの場所がある 1 2 3 4
- e) 近所に友達や知り合いがいる 1 2 3 4
- f) 自分のまちという感じがする 1 2 3 4
- g) このまちが好きだ 1 2 3 4
- h) まちに思い出がある 1 2 3 4
- i) まちに自分の居場所がある 1 2 3 4
- j) このまちは住みやすい 1 2 3 4
- k) このまちにずっと住みたい 1 2 3 4

問10 あなたの性別を教えてください。

1. 男	2. 女
------	------

問11 あなたの年齢を教えてください。

1. 20～29歳	2. 30～39歳	3. 40～49歳
4. 50～59歳	5. 60～69歳	6. 70～79歳

問12 あなたの配偶関係を教えてください。

1. 未婚	2. 既婚（現在、配偶者がいる）	3. 既婚の経験あり（離・死別）
-------	------------------	------------------

問13 あなたの家族構成を教えてください。

1. 一人暮らし	2. 夫婦のみ	3. 夫婦と未婚の子ども (ひとり親を含む)	4. その他
----------	---------	---------------------------	--------

問14 あなたの家族には、小学生以下の子どもがいますか。

1. いる	2. いない
-------	--------

問15 あなたの現在のお住まいについて、あてはまるものに○をつけてください。

1. 一戸建て (持家)	2. 一戸建て (賃貸)	3. 集合住宅 (持家)	4. 集合住宅 (賃貸)	5. その他
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	--------

問 16 あなたの住んでいる地域には、自治会（町内会）・管理組合はありますか。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 自治会（町内会）がある | 2. 管理組合がある |
| 3. 自治会（町内会）も管理組合もある | 4. 自治会（町内会）も管理組合もない |
| 5. あるかどうか、わからない | |

問 16 で 1 ～ 3 に ○ をつけた方におたずねします。

問 16 付問 あなたの家は、自治会もしくは管理組合に加入していますか。

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 加入している | 2. 加入していない |
|-----------|------------|

問 17 あなたは、おゆみ野地域に何年お住まいですか。

およそ

--	--

 年

問 18 現在お住まいの地域について、あなたはどの程度満足していますか。

以下の a ～ n それぞれについて、あてはまるもの 1 つに ○ をつけてください。

満足 している	やや 満足 している	あまり 満足 していない	満足 していない
------------	------------------	--------------------	-------------

- | | | | | |
|--------------------|---|---|---|---|
| a) 日常行動に便利 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b) 余暇行動に便利 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c) 移動に便利 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d) 自然の豊かさ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| e) 近隣住民との交流のしやすさ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| f) 家族や友人との交流のしやすさ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| g) 人口密度が適度 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| h) まちの美しさ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| i) まちの静かさ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| j) 治安のよさ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| k) 地方自治体の行政サービスのよさ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| l) 自然災害の少なさ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| m) 緊急トラブル体制の整備 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| n) 物価の安さ | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 19 あなたの職業を教えてください。

- | | | |
|--------------|------------------------------|--------------------------------|
| 1. 経営者・役員 | 2. 常時雇用されている会社員・
団体職員・公務員 | 3. 派遣社員・契約社員・嘱託社員 |
| 4. パート・アルバイト | 5. 自営業主（家族従業者を含む）
自由業者 | 6. 専業主婦 |
| 7. 年金生活 | 8. 学生 | 9. その他（ ） |

問20 あなたが最後に通った（または在学中の）学校を教えてください。

1. 中学校	2. 高校	3. 専門学校
4. 短大・高専	5. 大学	6. 大学院
7. その他（ ）		

問21 あなたは、「未成年」が情報機器を利用したり所有したりするのは、いつ頃からが適切と考えますか。

以下のa～eそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。

就学前	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生
-----	--------	--------	-----	-----

- a) 機能が制限された子ども用の携帯電話を利用すること 1 2 3 4 5
- b) 家族のスマートフォンを利用すること 1 2 3 4 5
- c) 家族のパソコンを利用すること 1 2 3 4 5
- d) 個人のスマートフォンを持つこと 1 2 3 4 5
- e) 個人のパソコンを持つこと 1 2 3 4 5

問22 あなたのコンピュータに対する意識についておたずねします。

以下のa～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
------	------------------	--------------------	--------

- a) コンピュータと聞いただけで、もうお手上げの気持ちだ 1 2 3 4
- b) これからの社会はコンピュータによって
支配されてしまうような気がする 1 2 3 4
- c) コンピュータに頼りすぎると
将来、何か良くないことが起こりそうな気がする 1 2 3 4
- d) 科学技術の発展によって
世の中が急速に発展していくことに不安を感じる 1 2 3 4
- e) コンピュータは人間の弱点を補ってくれる便利な機械だ 1 2 3 4
- f) コンピュータは人間よりも正直、信頼できる 1 2 3 4

お忙しいところ、ご協力いただき大変ありがとうございました。

記入漏れがないかご確認のうえ、7/17（月）までに封筒に入れてご返送下さい。

平成 29 年度 社会調査実習報告書 第 6 号

発 行：2018 年 3 月 31 日

発行者：淑徳大学コミュニティ政策学部

〒260-8701

千葉市中央区大巖寺町 200

TEL 043-265-7331

印 刷：株式会社 正文社

